

ふくしま道徳教育推進プラン

道徳教育推進校 報告書

平成25年度道徳教育総合支援事業

平成26年3月

福島県教育委員会



はじめに

本報告書は、平成25年度道徳教育総合支援事業（文部科学省）の委託事業「ふくしま道徳教育推進プラン」として、県内6地区における小・中・高等学校8校の推進校が実践研究を行い、1年間に取り組んだ道徳教育の実践内容を紹介するものです。

各推進校は、①道徳教育全体計画の改善がどのように図られたのか、②道徳教育推進教師は自校でどのような役割を果たしているのか、③道徳の時間の授業がどのように進められているのか、について自校での取組を次のプロットに従って報告しております。

なお、各校の全体計画、年間指導計画は、平成25年度と26年度で比較することができるようになっており、教育課程の編成を経てどのように変更されたのかが分かります。

また、1年間で取り組んだ各校の実践のテーマは、次のとおりです。

二本松市立油井小学校	道徳の時間の充実と学校・家庭・地域のとの連携
県立梁川高等学校	道徳教育全体における重点目標の具現化
小野町立小野新町小学校	道徳的価値への自覚を深め、よりよく生きようとする児童の育成
白河市立白河第三小学校	自分に問いかけ、自己客観性を磨き、道徳的实践力を高める授業
金山町立金山小学校	互いに思いやることができる子どもの育成～道徳の時間を通して～
喜多方市立第二中学校	心をたがやし、心に力をあたえる道徳教育～発問構成と効果的な展開～
新地町立駒ヶ嶺小学校	豊かにかかわり合い、考えを深める道徳の時間の充実
いわき市立小名浜第三小学校	あたたかな関わりを通して自他を認め合い豊かな成長ができる児童の育成

【報告書のプロット】

- 1 学校概要
- 2 研究テーマ
- 3 テーマ設定の理由
- 4 研究計画
- 5 児童生徒の実態及び地域の課題
- 6 道徳教育における校長の指導の方針
- 7 平成25年度 道徳教育の全体計画の特徴（1）
- 8 平成25年度 道徳の時間の年間指導計画の特徴（2）
- 9 平成25年度 学級における指導の計画の特徴（3）
- 10 道徳教育推進教師等における実践レポート
- 11 道徳の時間にかかる資料
- 12 平成26年度 道徳教育の全体計画の特徴 改訂版（1）
- 13 平成26年度 道徳の時間の年間指導計画の特徴 改訂版（2）
- 14 成果と課題

《道徳教育推進教師の役割》

- ア 道徳教育の指導計画の作成に関すること
 - イ 全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること
 - ウ 道徳の時間の充実と指導体制に関すること
 - エ 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
 - オ 道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
 - カ 授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること
 - キ 道徳教育の研修の充実に関すること
 - ク 道徳教育における評価に関すること
- （「学習指導要領解説道徳編」より）

平成25年度ふくしま道德教育推進プラン

道德教育推進校報告書

《目次》

はじめに

1 道德教推進校報告

(1) 県北地区	二本松市立油井小学校	1
	県立梁川高等学校	1 7
(2) 県中地区	小野町立小野新町小学校	3 1
(3) 県南地区	白河市立白河第三小学校	5 1
(4) 会津・南会津	金山町立金山小学校	6 7
	喜多方市立第二中学校	8 5
(5) 相双地区	新地町立駒ヶ嶺小学校	1 0 5
(6) いわき地区	いわき市小名浜第三小学校	1 2 1

2 資料

○ 「ふくしま道德教育推進プラン」	1 4 0
○ 道德教育推進校の役割について	1 4 1
○ 道德教育実施状況調査結果	1 4 2

【県北地区】二本松市立油井小学校



推進校紹介①

1 学校概要

学校名	福島県二本松市立油井小学校
所在地	福島県二本松市油井字台 5
校長名	伊藤 雅裕
学校の教育目標	○「始学の松」のように、進んで学びよく考える子ども ○「しだれ桜」のように、礼儀正しく心の温かい子ども ○「プラタナス」のように、たくましい体をつくる子ども
学級及び児童数	16学級 368名
道徳教育にかかる 取組みの概要	○学級や学校内外での豊かなかかわりの設定や工夫 ○心をたがやし、自己を振り返ることができる道徳の時間の工夫 ○心を豊かにする学校や教室の環境づくり ○家庭や地域との連携・協働

2 研究テーマ

豊かなかかわりの中で、「生きてはたらく力」を身に付け、たくましく生きる子どもの育成
～生きてはたらく力としての道徳的实践力を高める指導の工夫～
道徳の時間の充実と学校・家庭・地域との連携を通して

3 テーマ設定の理由

(1) 今日の課題から

児童を取り巻く社会は大きく変化し、「社会全体のモラルの低下」や「家庭や地域社会の教育機能の低下」「社会体験、自然体験の不足」等、児童の道徳性の発達を阻害している状況が多く指摘されている。そのような中で、小学校における道徳教育は、「豊かなかかわりと人間としてのあり方や生き方の自覚をし、人間としてよりよく生きるための基礎・基本となる道徳性を育成する」ところに意義があり、児童が夢や希望をもって未来を拓き、人間としてよりよく生きようとする力が育成されるよう、一層の充実が求められている。

(2) 本校の教育目標具現化の視点から

児童一人一人が学級内や学校内外で安心して気持ちよく過ごせ、満足して生活できるということは、児童の心を豊かにし、道徳性を養うために不可欠なことである。そのために、互いが認め合い自己存在感をもてる学級づくりや、異学年や地域の方々との交流を深めることによってより豊かな学校生活を味わうことができるものとする。こうした場を設定することで、主に道徳の時間で身につけた道徳的实践力が生きてはたらく、様々な場で道徳的实践を行う機会が多くなると考える。

そのためには、学校の教育活動全体で行う道徳教育の要であり、中核的な役割を担うものである「道徳の時間」を見直し、毎時間の道徳の時間を充実させていくことが大切である。道徳の時間を児童一人一人が自分自身をじっくりと振り返り、道徳的価値や自己の生き方について深く考えられる時間にしていくことで、生きてはたらく力としての道徳的实践力を育成していくことができると考える。

4 研究計画

時 期	授業研究部	理論研究部	調査・記録部
4 月	・組織づくり ・研究目標・内容の検討	・組織づくり ・研究目標・内容の検討	・組織づくり ・内容の検討
5 月	・指導案形式の検討 ・事後研究会の運営 ・学級における年間指導計画作成	・第1回授業研究・事後研究会・学習会	・第1回Q U検査実施 ・授業写真撮影 ・事後研究会記録
6 月	・学校・教室の環境整備計画立案 ・事後研究会の運営	・第2回授業研究 ・事後研究会・学習会	・児童アンケート内容の検討 ・Q U検査結果の分析 ・授業写真撮影 ・事後研究会記録
7 月	・学校・教室の環境整備	・第3回授業研究 ・事後研究会・学習会	・第1回児童アンケート実施 ・授業写真撮影 ・事後研究会記録
8 月	・学校・教室の環境整備 ・2学期の体験活動と道德の時間の連携計画立案	・道德教育研究公開授業の指導案作成 ・指導案検討会	・第1回児童アンケートの集計・まとめ
9月18日		・道德教育研究公開 ・事後研究会・講演会	・授業写真撮影 ・事後研究会記録
10月		・ブロック授業研究	・授業写真撮影 ・事後研究会記録
11月	・研究のまとめと反省の計画立案	・ブロック授業研究 ・学校公開における道德の時間の公開	・第2回Q U検査実施 ・第2回児童アンケート実施 ・授業写真撮影 ・事後研究会記録
12月	・研究のまとめ	・授業研究のまとめ	・第2回児童アンケート集計・まとめ ・第2回Q U検査結果分析 ・アンケート・Q U検査のまとめ
1 月	・研究のまとめ	・研究のまとめと反省	・保護者に対するアンケート内容検討・実施
2 月	・次年度の重点指導内容の検討	・研究のまとめと反省	・保護者に対するアンケートのまとめ
3 月	・来年度の研究構想の提案・決定	・来年度の研究構想の提案・決定	・来年度の計画立案

5 児童の実態及び地域の課題

児童はとても素直で明るく、あいさつが上手だと言われている。また、言われたことをきちんと行うことができ、友達とも仲良く活動している児童が多い。反面、自分で考えて行動したりねばり強く

作業したりすることなどは苦手で、自分の苦手なことは避ける傾向がある。また、縦割りでの集団登校や清掃等を行っているが、異学年との交流は少ない。

地域の人は、子どもたちの安全、事故防止のために活動してくれる「油井っ子見守り隊」を始め子どもたちのために活動しようという雰囲気があり、学校支援のすばらしい地区である。教育に対しての関心が高い家庭が多いが、新しく転入してきた保護者とこれまで住んでいる保護者同士のかかわりは少なく、今後更に、学校、家庭、地域の連携を深めていく必要がある。

6 道徳教育における校長の指導の方針（資料1）

- (1) 児童自らはぐくむ道徳性が自己の生き方の指針として統合されるように、それぞれの教育活動で行われる道徳性の育成が、道徳の時間において補充、深化、統合されると同時に、道徳の時間で行った指導が学校の教育活動全体に波及し、生きてはたらくようにする。
- (2) 学校教育のあらゆる場を通して、道徳教育の基本である、教師と児童の信頼関係をはぐくみ、児童相互の人間関係の充実を図るようにする。児童と共に考え、悩み、感動を共有し、学び合うという姿勢をもちながら、道徳の時間が道徳的価値の自覚を深める要となるよう工夫する。
- (3) 学校における道徳教育を効果的にを行い、充実させるために、学級プランを作成し、本校の課題である主体性・ねばり強さ・たくましさの育成や基盤となる基本的な生活習慣、規範意識、人間関係を築く力を育成する観点から、各学年段階ごとに取り組むべき重点を明確にして取り組む。
- (4) 道徳の時間の指導においては、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深めることで道徳的実践力を育成するという特質を十分考慮し、指導の工夫、充実を図る。
- (5) 学校と家庭や地域社会との連携を密にし、保護者や地域の人々との共通理解を深め、相互の協力によって道徳教育の充実が図られるようにする。子どもの道徳性の育成に資する体験活動を一層推進するとともに、学校と家庭や地域社会が共に取り組む体制や生活習慣や礼儀、マナーを身に付けるための取組などが家庭や地域社会において積極的に行われるように実践活動の充実を図る。
- (6) 学校や学級における道徳教育の基本方針が反映されるような望ましい雰囲気を醸成し、適切な環境を充実整備するとともに年間指導計画の評価と改善を計画的に行うようにする。

7 平成25年度 道徳教育の全体計画の特徴（資料2）

道徳教育重点目標として『一人一人が互いのよさを認め合いながら伸びることができる子ども』とし、その目標実現のために低、中、高学年ブロックで重点目標を決め、教育活動全体を構築した。

しかし、保護者の願いについては詳しく表記されておらず、今後アンケート等を実施し改善の必要があると考える。

8 平成25年度 道徳の時間の年間指導計画の特徴（資料3）

今年度は、副読本の発行社である「東京書籍」の計画をダウンロードしてファイルに綴り、各学級で実践して気づいたことや変更点等を記入していく形式をとり、来年度の計画立案の際に活用できるようにした。

9 平成25年度 学級における指導の計画の特徴（資料4）

「道徳の学級プラン」を作成し、自分の学級の特徴やQ U検査から見た問題点等をまとめ、道徳教育推進のための手立て等を考える際に活用できるように

10 道徳教育推進教師等における実践レポート

○ 道徳教育の指導計画の作成に関すること

今年度の道徳研究を通して、道徳の資料の大切さを知ることができたので、来年度の資料について、どの資料を使うか検討し、指導計画を作成する。

○ 全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること（資料5）

全担任に呼び掛けて、廊下の掲示として「道徳コーナー」を作成した。学級の友達に対する思いやり親切を中心にカードを書き合い、各学級前の掲示とした。廊下に掲示したことで、互いにそのカードを児童が見合うことができ、児童相互に感謝の気持ちや出来事を確認することができ、自己肯定感を高める手だてとした。

○ 道徳の時間の充実と指導体制に関すること

道徳の時間の指導を充実させるため、道徳教育推進担当が年度初めに道徳の授業を行い、進め方や、書く活動の取り入れ方等を示した。

指導体制としては、道徳教育の推進校に指定されたことで、現職教育を今までの国語から道徳に変更し、全教員が研究にかかわる体制を取った。それにより、担当した部でそれぞれによりよい研究になるように考え、取り組むことができた。また、全担任が研究授業を行い、全体やブロックで道徳の時間について話し合い深めることができた。

○ 道徳教育の情報提供や情報交換に関すること

道徳教育推進担当が、道徳の時間の資料や進め方、発問や板書等についていろいろな資料を提供し、情報を発信した。さらに、特別活動の中の学級経営にかかわりのある学級活動の資料を同時に提供し、よりよい学級経営ができるように提案した。

○ 授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること

全担任が1年間の中で必ず授業公開するように呼びかけ、授業参観日や学校公開の際に道徳の授業を公開するよう計画した。また、地域社会との連携の最も基礎になると考える「あいさつ」に力を入れ、毎日自分から進んであいさつできる子どもをめざして指導してきた。

11 道徳の時間にかかる資料（資料6）

全学級が研究授業を行い、道徳の時間の進め方について研究を深めてきた。資料については、自作資料やいろいろな出版社の副読本からの選択資料等を用い、児童の実態や道徳の価値項目に合わせた資料の活用を図った。道徳の時間の指導については、導入や資料提示、書く活動や表現活動、板書や終末の工夫を行った。また、座席表による児童の考えの見取りを元に意図的指名を行い、多様な意見の交流を図った。

12 平成26年度 道徳教育の全体計画の特徴（資料7）

全体計画の各教科とのかかわりについての変更と共に、全体計画の「別葉」を作成し、道徳の価値項目と各教科、特別活動や行事とのかかわりを明確にして、教育活動全体の中での道徳教育を考えることで、学校教育全体の中で、道徳教育を意識できるようにした。

13 平成26年度 道徳の時間の年間指導計画の特徴（資料8）

来年度は、副読本を変更する予定なので形式も変更し心のノートとの関連についても考えるようにする。

14 成果と課題（○成果 ●課題）

（1）学級や学校内外での豊かなかかわりの設定や工夫について

- QU検査の結果を受け、「道徳の学級プラン」を各学級で作成し、児童の満足度や交友関係について見つめ直し、よりよい学級作りを心がけた。朝や帰りの会での級友のよいところを発表し合ったり、「道徳コーナー」で称賛し合ったりとさまざまな取り組みを行うことができた。今後も継続して、この道徳コーナーの内容を道徳の時間に取り上げていく計画である。
 - 学校生活全体を通しての児童のかかわりを考え、縦割りでの活動や、集会活動等でのかかわりを大切にすることができた。今年度の集会活動としては、縦割り班対抗の活動が多く見られ、運営委員会のオリエンテーリングや児童考案のゲーム大会、保健委員会の〇×クイズ、体育委員会のドッジボール大会等が行われ、上級生が下級生の面倒を見ながら活動している姿が多く見られた。
 - 道徳の時間の指導だけではなく、特別活動も一緒に研究していくことで、さらに児童が活発に活動できるようになると考えるので、来年度は計画していきたい。
- (2) 心をたがやし、自己を振り返ることができ、道徳的実践力を高めるための道徳の時間の工夫
- 校内での道徳の全体会で、講師の先生から講演していただいたことで、道徳教育や道徳の時間についてより多くの知識が身についた。また、道徳教育推進担当からの道徳の時間についての情報発信は、授業の実践に役立った。
 - 全教員が道徳の研究授業を行ったことで、道徳の時間の進め方や指導案の立て方等の理解が深まった。また、ねらいにせまるためには資料が大切であることが分かり、資料の選択や扱い方等を研究するようになった。また、ワークシートや心のノートを使った書く活動を取り入れ、意図的指名により、児童の考えを多く交流させるようになった。児童が今までの自分を振り返りより深く考え、自分の行動や考えを再構築し、道徳的実践力を高めるために、発問の工夫や書く活動は大切であり今後も継続して取り組んでいきたい。
 - 児童に行ったアンケートの変化を見ると、全体的に自分を厳しく見るようになり、大きな改善は見られなかった。自分にはいいところが全くないという児童数は減ったものの、1年間では自己肯定感を引き上げることは難しかったので、引き続き来年度も道徳の研究を行っていく必要がある。
- (3) 心を豊かにする学校や教室の環境づくり
- 廊下に掲示を始めた「道徳コーナー」は、児童が互いにいいところを見つけて認め合う場となり、自己肯定感を高めたり、より深い友情をはぐくんだりする機会となった。
 - 各委員会での児童の活動を写真や言葉で掲示する「委員会コーナー」や、集会活動等での児童のかかわりを表す写真を掲示する「集会コーナー」を作成し、児童に示すことができた。
 - 道徳コーナーの内容がマンネリになったり、掲示しっぱなしになったりすることがあった。毎月の生活のめあてにそった内容について書かせたり、児童にカードを返して心のノートに貼らせたりするなど、活用について考えていく必要がある。
- (4) 家庭や地域との連携・協働
- 授業参観日や学校公開の際に全学級で道徳の授業を行い、保護者や地域の方々に公開することができた。
 - あいさつ運動に力を入れ、家庭にも協力を呼びかけたことにより、自分から進んであいさつできる児童が増えてきており、今後も継続して指導していきたい。
 - 家庭との連携がまだ弱いので、道徳教育推進担当が家庭向けに道徳便りを出して道徳教育について知らせたり、アンケートをとって家庭の道徳教育についての考え方について知ったりする必要がある。



児童の実態【育てたい力】

「生きてはたらく力」

- ◎ これまで学習したことを生かして新たな課題を解決していく力
- 知・徳・体の全教育活動を通して学んだことが様々な場面で「生きてはたらく力」

教育基本法・学校教育法・学習指導要領

県の重点施策・二本松市の教育方針および重点事項

- ◎ 「生きる力の育成」「学び合う東北の教育」「二本松市生活改善・学力向上プロジェクト」
- 確かな学力 ○ 豊かな人間性・社会性
- 健やかな体 を身に付けた子どもの育成

地域の実態【連携の視点】

「開かれた学校づくり」

- 保護者や地域の方々と目指すことも像の共有化と協働
- ・ 家庭・地域と「目指す子ども像」を共有化し、三者が連携し、学校教育の充実を図る。

教 育 目 標

平成25年度 重点目標 豊かななかかわりの中で、「生きてはたらく力」を身に付け、たくましく生きる子どもの育成

○「始学の松」のように、「進んで学びよく考える子ども」○「しだれ桜」のように「礼儀正しく心の温かい子ども」○「プラタナス」のように「たくましい体をつくる子ども」

め ざ す 学 校 の 姿

家庭や地域と力を合わせ、子ども一人一人の心身の安全確保に常に意を注ぎ、個々の教職員が自らの仕事に生きがいを感じて、知・徳・体のバランスのとれた子どもを育む学校

め ざ す 教 師 の 姿

○「人間力の向上」

人の道を説く仕事に携わる者として絶えず自己の言動を振り返り、「人間力」を磨き続ける教師

○「教師力の向上」

教師の命である「授業力」を向上させるための自己研修、教材研究に全力投球する教師

○「学力力の向上」

学校課題と課題解決のための具体的手立てを明確にし、課題解決に向けて日々努力する教師

め ざ す 子 ども の 姿

始学の松「確かな学力」の向上

- ◎ 進んで学びよく考える子ども
- 基礎学力を確実に身に付け活用力を身に付ける子ども
- 主体的に学習課題や問題の解決に取り組む子ども
- 自分の考えを進んで表現し、互いに学び合う子ども

しだれ桜 豊かな人間性・社会性の育成

- ◎ 礼儀正しく心の温かい子ども
- 相手の気持ちを考え、行動する子ども
- 明るいあいさつや場に応じた言葉遣いをする子ども
- きまりを守り、みんなのために行動する子ども

プラタナス 体力の向上と健康・安全

- ◎ たくましい体をつくる子ども
- 自らめあてを持ち進んで体を鍛える子ども
- 基本的な生活習慣を身につけて健康に生活する子ども
- 生命を大切に安全に気をつけて生活する子ども

具 体 的 な 子 ども の 姿 (目安)

- ワークテスト(国・算・理)単元全体平均低学年90点、中・高学年85点以上、(漢字)80点以上等全国平均以上
- 年間読書冊数 低学年100冊 中学年50冊 高学年30冊以上
- NRT学力検査 前年度比偏差値1Pアップ又は55以上
- 家庭学習 1年30分 2年以上は、学年×10分+10分以上 読書10分以上

- 時と場に応じたさわやかなあいさつができる。
- 相手や場に応じた正しい言葉遣いと思いやりの心で接している。
- きまりを守り、みんなのために行動できる。
- 児童会活動や学級活動で自分の役割を自覚し自信をもって意欲的に活動している。

- 自己の運動能力向上の目標を常に意識して取り組み、新体力テストで県及び全国平均を上回っている。
- 体力の向上に関心をもち、積極的に体力づくりに取り組んでいる。
- 早寝・早起き・朝ご飯を毎日実践している。
- 全児童が、むし歯がないか治療を完了している。
- 安全に気をつけて生活するなど自分の命を自分で守ることができる。

具 体 的 実 践 事 項 (手立て)

- 「学力向上実行プラン」を確実に実践する。
 - ・ 朝の「短時間集中くり返し学習」を週4日間継続
 - ・ 3つの約束(①45分間の確保②めあての板書③確実なまとめ)の実行
- 基礎・基本を理解・定着させるために授業の充実、学び合いを重視した授業
 - ・ 人の話をしっかり聞きとること
 - ・ 補充発展問題定着確認シートの活用
 - ・ 1日1回以上発表
- 家庭学習の習慣化と基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る。
 - ・ 活用できるノート指導の充実
 - ・ 家庭学習カードによる家庭との連携
 - ・ 定着のための問題プリント工夫
- 保護者、関係機関等との連携を密にし、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実を図る。

- 人とかかわりの基本となる「あいさつ、返事、相手の気持ちを考えて」等のことばを大切にする指導を継続することにより、正しい言葉遣いができるようにする。
- 人と人との豊かなかかわりを大切にした体験活動を重視する。(共に学ぶ・遊ぶ)
 - ・ あいさつ運動による人とかかわり
 - ・ 縦割り班や全校生による異学年活動
 - ・ 地域の方々とふれあいの場の設定
 - ・ 豊かな心を育む親子読書活動
- 道徳の授業の充実を図る。
 - ・ 「生命尊重」「思いやり」「友情・信頼・助け合い」など、他の人とかかわりに関する内容
- 児童会活動・学級活動などを中心に全ての児童が主役になれる場を意図的に設定し、自信を育む活動の充実を図る。

- 体育科の授業において「基礎体力向上体力づくりプログラム」を積極的に取り入れ、動ける体づくりに取り組んでいる。
- 体力の向上を図るため、全校一斉の体力づくりの実施と環境整備に努める。
- 家庭との連携指導や定期的な調査により、「早寝・早起き・朝ご飯・ノーTV、ノーゲームの日」が実践できるようにする。
- 清潔検査の実施と反省を継続し、健康・安全の意識を高める。
- 歯磨きやフッ素洗口によりむし歯を予防するとともに、よい歯の表影や家庭との連携によりむし歯の治療率を高める。
- 日常的に交通安全や不審な声かけ等に対する指導を行い、自ら安全な生活を送る意識と態度の育成、自己の危険予知能力・危険回避能力を高め緊急時に対応できるようにする。

道徳教育の全体計画 (資料2)



(資料3)

主題名	ほんとうの友達		指導時期	6月(5月実施)
資料名	8 なかよしだから		副読本	31ページ
内容項目	2-3 信頼友情	主な関連活動		
ねらい	友達のことをよく考えて、友達を大切にしようとする態度を養う。			
主題設定の理由	交友関係が広がり、友達を大切にする傾向も強くなってくる。反面、友達だからと、よいことも悪いことも曖昧にし、いっしょになって悪いことをしたり、友達の悪い行為を見過ごしたりすることがある。友達どうし互いに助け合い、励まし合い、教え合い、学び合うことで、真の友情を育てていく態度を養いたい。			
指導過程例	導入	1 友達はいいな、と思った経験を発表する。 ○友達がいてよかったと思ったのは、どんなときですか。		
	展開	2 「なかよしだから」を読んで話し合う。 ○「だめだよ。自分でやれよ。」と実くんに断られたとき、「ぼく」はどんな気持ちになったのでしょうか。→役割演技を初めて行った ○◎実くんがにっこり笑いかけてきたとき、「ぼく」はどんなことを考えたのでしょうか。 ◎○実くんの考えがわかったとき、「ぼく」はどんな気持ちになったのでしょうか。→中心発問とし、実の気持ちが分かってすっきりしたことを考えさせたかった 3 友達のことについて、自分を振り返る。 ○あなたは、これまでに、どんなときに注意したりされたりしましたか。		
	終末	4 教師の説話でまとめる。→学級目標の「仲のいいクラス」について話した ○友情を育ててきた体験を語るようにしたい。		
<授業改善のために> ○ 中心発問は、指導書通りに行った方が、いろいろな考えが出て深まったのではないか。 ○ 書く活動を取り入れたことで、考えをまとめられたが、発表は少なかった。				
<備考>				

3年 1組 道徳の学級プラン (資料 4)

クラスの良いところ

- 穏やかで素直な児童が多い。
- 指示に従い、時間を守ることができる。
- あいさつについては個人差がある。
- 男子も女子も昔遊びや外遊びが好きであり、仲良く遊んでいる。
- 優しい児童が多い。
- 自分の仕事や係活動をきちんとできる児童が多い。

クラスの直したいところ

- 指示待ちの児童が多いので、自分で考え行動させたい。
- 集中できない児童がおり、集中して学習に取り組ませたい。
- 乱暴な児童がおり、問題を起こしやすいので、自分の行動について思慮反省させたい。
- 仕事や活動にはすぐ取り組むが、継続が難しいので、最後まで継続させたい。
- 全員が心を込めたあいさつができるようにしたい。
- 忘れ物の多い児童がいるので、直させたい。

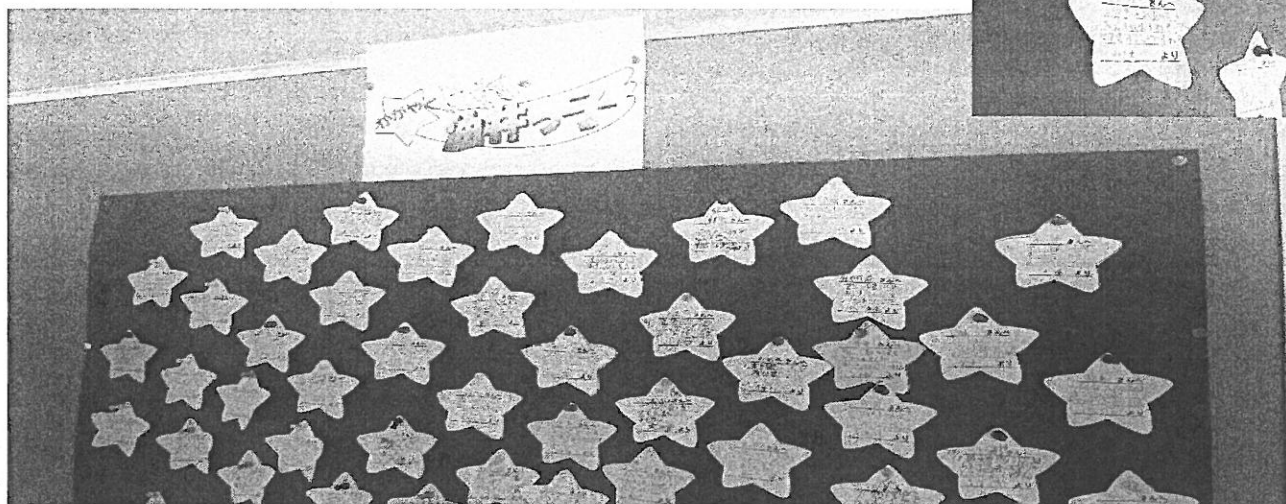
クラスのQ Uの結果

- 本学級は「親和的なまとまりのある学級集団」との判定が出た。
今のところ学級に満足している児童が多く、この状態を続けさせたい。
しかし、「学級生活不満足群」の児童が2人おり、今後の生活の中で注意してみていきたい。
- また「非承認群」の2名については、称賛する場を設けて称賛するなど意識していきたい。

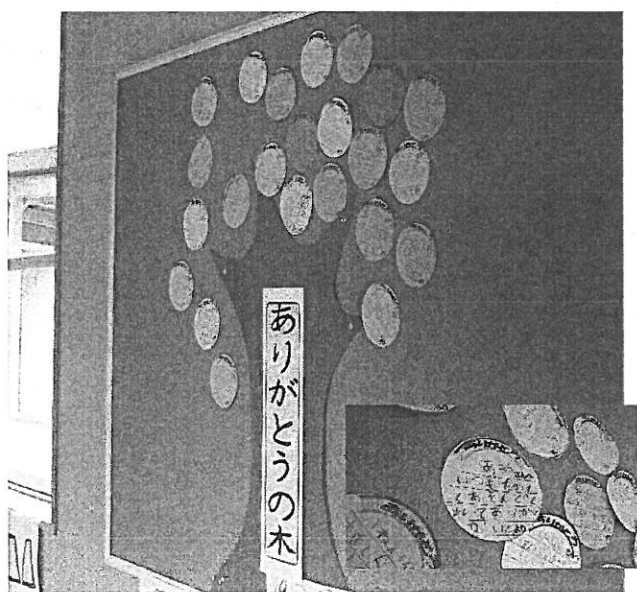
クラスをよりよくする手立て

- あいさつについては、毎日上手な児童をほめ、全員ができるようにしていく。
- 決まりの守れない児童は、個別に話し、できたところはほめていく。
- 軽度発達障害の児童も、係活動でみんなの前でお笑いをやっているなので、今後も認めていきたい。
- 忘れ物については、チェックをしながら確かめている児童を取り上げて称賛し、実践させる。
- 係活動や学級会を活用して、クラス全体で遊んだりゲームをしたりして、みんなが仲良くする活動を取り入れる。
- みんなの中でほめたり、称賛したりして、自信をもたせるようにする。

【道徳コーナー】



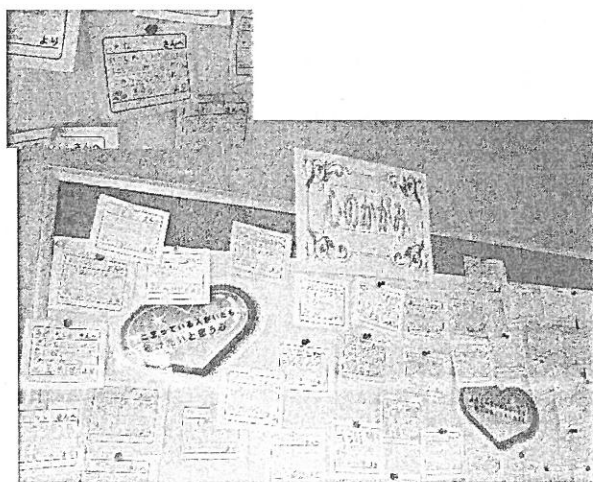
(友達のよいところを記入したきらりんカード)



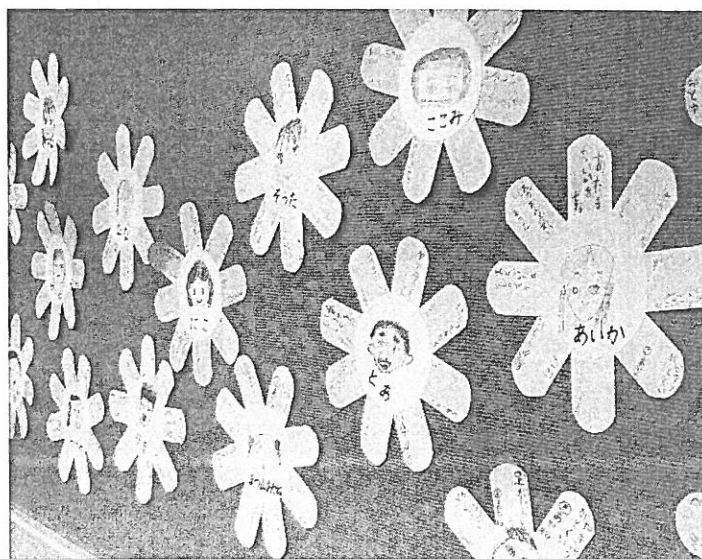
(感謝の気持ちを表した「ありがとうの木」)



(思いやり・親切のカード)



(思いやり・親切のカード)



(花びらに友達からの長所を書いてもらった似顔絵)

授業者 遠藤 美子

授業テーマ

事前アンケート結果とワークシートに記入した児童の考えをもとにして話し合いを結果にし、多様な考えにふれさせることにより、相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする態度を養うことができる授業

- 1 主題名 温かい心 2- (2) 思いやり・親切
2 資料名 「もうすぐきます」 (自作資料)
3 主題設定の理由

- (1) おらいとする価値について

思いやりや親切は、他人に接する時にいろいろな人間関係を築く上で基本となるものたりである。思いやりのある人というのは、相手がよい気持にならなくてもよいからともなり、相手の心におさまらないかを考えたりすることである。思いやりのある行為をしたつもりでも、逆に不快に感じたりあったり、あるいは反感を起し相手にも悪影響を及ぼす場合もある。親切な行為は、相手の立場に立ったものでなければならず、行為に基いては勇気が必要なことも多い。そして、それを具体的な行為として変ずることが、最終的な行為と成る。思いやりの気持は、どのようにして人に受け入れられ、相手に勇気や自信を保つことができるのか、そのためにはどのような接し方が必要なのかを考えていくことによって育まれるものであると考えられる。しかし、日常的にかかわりの多い友達や先生等からは意図できるが、幼い人や高齢者には受けにくい場合がある。そこでえてくれる人とのなかかわりに気をつけることにより、誰に対しても思いやりの気持で接し、親切にすることの大切さを指導していく必要がある。

- (2) 児童の実態について(男子13名、女子12名、計25名)

[illegible]

- ### (3) 資料について

[illegible]

っていたその人に、自分でできることをした主人公の気持ちを考え、誰に対しても親切にすることの大切さに気付かせていきたい。

- 4 本時の指導にあたっての手だて

- (1) 事前の実態把握による意図的指名

事前にアンケートを取り、児童の睡眠や考え方について把握しておくことで、意図的指名をし、多様な意見を出すことができるようにする。

- (2) ワークシートの活用と詰合いの時間の確保

中心発問の際に、ワークシートに自分の考えを書くことで、思いやりや親切について自分なりに考えて書くことで安心して発表でき、友だちの意見を聞いて自分の意見と比較しやすくなり、より深く考えて今後の行動に反映させられると考える。

- ### (3) 映像資料の活用

終末で、自分と息子にとって必要な手話のことを手話をしながら話すお母さんの映像を見せることにより、「体の不自由な人の存在」に気付かせたい。そして、誰に対しても温かい心で接し、共に助け合って生きていこうとする態度を育てたい。

- 5 2時のねらい

相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする態度を養う。

6. 展開

学級活動①主な発問 ②中心発問	時間	予想される児童の反応	指導上の留意点 評価
導入 1 親切にされたことについて発問する。 ○ 今までに親切にしてくれたことを発問しましょう。	5	・水をこぼしたとき、一緒に拭いてくれた。 ・けがをした時、救急ばんそうこうをもらった。	・親切にされた経験を問い、本日の道徳的価値への方向づけを図る。
展開 2 資料「もうすぐきます」を読んでも話し合う。 ○ ボールを取ってもらえなかったとき、ぼくはどんな気持ちだったでしょう。 ○ お父さんに手紙の事を教えられて、振り向いたぼくはどんなことを考えたでしょう。	20	・いやな気分 ・どうして取ってくれないのかな ・いじわるだな ・びっくりした ・耳が聞こえないと分かった ・おじいさんを怒っていたことを恥ずかしいと思った ・びっくりして逃げてきて悪かったな ・耳が聞こえなくても楽しそう	・ボールを取ってもらえず、おじいさんに対していやな気分でいることを押さえる。 ・導入における体験をもとに、主人公の心情の移り変わりをとらえて考える。
前 段 ③ 電車を待っているおじいさんを見ていたぼくは、どんな事を考えたでしょう。		・知らせて安心させてあげようかな ・知らせたいけど聞こえないだろうし ・もうすぐだからいいかな ・知らせない	・ワークシートに書かせ、児童の考えを価値観の4類型をもとに分類して座席表に記録し、意図的指名をする。 ・多様な価値観が出ない時

展 開 後 段	3	親切な行為について 自分を振り返る。 ○ 困っている人や体の 不自由な人に親切にし たことはありますか。	15	・病院で床を落としたお ばあちゃんに拾ってあげ た。 ・小さい子が転んだので 助けてあげた	・児童の経験については、 事前に行ったアンケー ドから意図的指名をし、 親切にしたときの気持 ちを発表できるように 促す。 ※これまでの自分を振り 返り、親切にしたいとい う意欲をもつことがで きたか。
結 末	4	聴覚障がいの子ども を持つ母親の手話の映 像を見る。	5	・手話は言葉なんだな ・困っている人に親切に したいな	・障がい聴覚だけではな いので、困っている人 には親切にしようとい う気持ちをさらに深め させる。

7 板書計畫

もうすぐきます

どうして取つてくれないんだ。
いじわるだな。

耳が聞こえないんだ。
びっくり。

手話を初めて知った。

文とぼく

ホームの
松

はずかしいから言わない。
もうすぐだからいいや。
だれかが言ってくれるだろう。
言いたいけど聞こえないしな。
早く伝えてあげよう。

はわんとあたたかくなった。

うれしい。

いいことをした。

おじいさんがよろこんでくれた。

気持ちが悪くなった。

ぼくの顔

公置の松

こまづいてる人や体の不自由な人に親切に
したことはありますか。

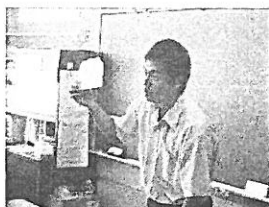


道徳の時間の指導の工夫

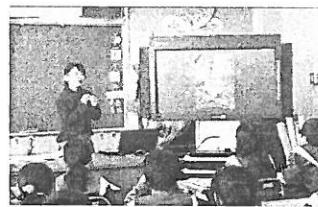
○ 導入での資料提示の工夫



【事前アンケートの結果の提示】



【資料内のはがきの説明】



【映像による提示】

○ 授業中の資料活用の工夫



【児童同士の称賛カード】



【映像による児童の体験提示】



【座席表を使つての机間巡視】



【話し合い】

○ 児童の考えの見取り

○ 書く活動の工夫



【ワークシート】



【心のノート】

○ 表現活動の工夫（役割演技）

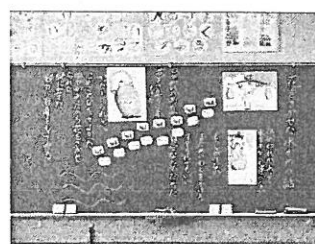
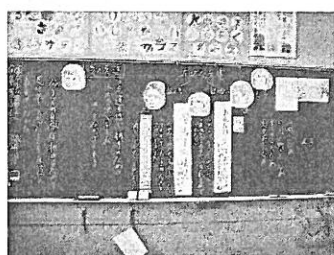


【はしの上のおおかみ】



【いけないよ】

○ 板書の工夫



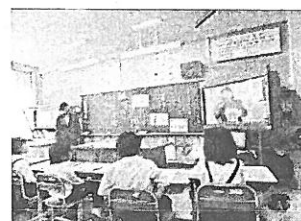
○ 終末の工夫



【担任の説話】



【本の読み聞かせ】



【映像提示】



道徳教育の全体計画 別業 (各教科等と道徳のかかわり)

(資料7-2)

二本松市立油井小学校

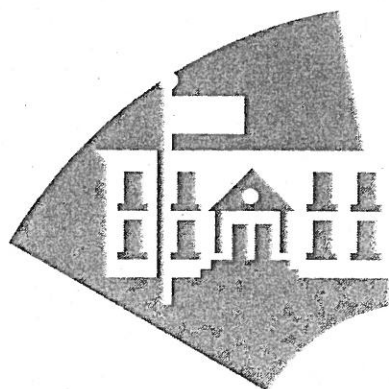
価値項目	国語	月	社会	月	算数	月	理科	月	音楽	月	図工	月	体育	月	総合学習	月	学級活動	月	特別活動	月	学校行事	月
1-(1) 節度ある 生活態度				4	時こくと時間の もとめ方																始業式 終業式	
1-(2) 不倒不屈 努力					かけ算の筆算	9							マラソン大会 なわとび大会	11 2							運動会	5
1-(3) 勇氣	サーカスのライ オン	9																				
1-(4) 正直誠実 明朗	木かげにごろり	12																				
1-(5) 個性の伸長	自分をしようか いしよう	4			かたちで遊ぼう	8 2	わたしの研究 つくって遊ぼう	7 3	とどけようこの ゆめを	7	絵の具で遊ぼう これも顔に貼るよ 粘土から生まれたよ	4 7 12	表現運動	11	3年生の自分を 表現しよう	10	3年生になって	4			学習発表会	10
2-(1) 礼儀																						
2-(2) 思いやり 親切	案内の手紙を書 こう	9																	集会活動	6 11		
2-(3) 信頼友情	手ぶくろを買い に	2							友だち	4	寒い寒い だんだん段ボール 新聞紙でいくつもの 場所が	5 5 1	ベースボール型 ゲーム ネット型ゲーム ゴール型ゲーム	6 11 3			みんななかよく	9	学級会 係活動		遠足	9
2-(4) 感謝	ゆうすげ村の小 さな旅館	6																				
3-(1) 生命の尊重							たねをまこう チヨウを育てよ う	4 5					保健 活動 健康な生活	4 11			わたしたちの体	11			身体測定 防犯教室 避難訓練	4 4 5
3-(2) 自然愛 動植物愛護	自然のかくし絵 働く犬について 調べよう	5 10	わたしたちのま ちみんなのまち 農家のしごと	4 9			昆虫を調べよう 本腰よかけの動 きを調べよう 太陽の光を調べ よう	6 9 10	春の小川 海風きつて 小鳥のために 小さな花 あの雲のように	4 5 6 3		スキー教室	2	大豆を育てよう	4							
3-(3) 敬けん	俳句に親しもう	1							夕やけこやけ	6												
4-(1) 公德心 規則の尊重																						
4-(2) 勤労			働く人とわたし たちのくらし	8																		
4-(3) 家庭愛	手ぶくろを買い に	2																				
4-(4) 愛校心																						
4-(5) 郷土愛	わたしたちの町 の紹介をしよう	2	変わってきて人 々のくらし	1																		
4-(6) 愛国心	研究レポートを 書こう	11			そろばん	3		2	茶つみ うさぎ ふじ山	5 10 11												

【 第3学年 指導の概要 】

月	週	主題名	内容項目	資料名(出典)	関連資料
4	1	分かり合える友達	2-(3) 友情・信頼・助け合い	貝がら (学研)	つなぎ合わせたメダル(文部省資料)
ねらい		言葉のなまりに引け目を感じ、なかなか口をきかない中山君の気持ちを通して、相手の身になって考え、信頼し助け合おうとする気持ちを育てる。			
展開の 大要 主な発問		1 仲間はずれにされている場面の一枚絵を見て、絵の中の人物の気持ちを想像する。 2 資料「貝がら」を読んで話し合う。 ○何を聞いても何も話してくれない中山君を「ぼく」はどんなふうに思っているか。 ○中山君の言葉を聞いて笑い出した女の子たちを見て、「ぼく」はどんな気持ちになったか。 ◎中山君が貝がらを持ってお見舞いに来てくれたのはどんな気持ちからか。 ○布団の中で貝がらを1つ1つ眺めながら「ぼく」はどんなことを考えていたか。 3 友達を助けたり助けられたりした経験について話し合う。 4 生きる上で、友達がどんなに心の支えになるか、教師の経験した話を聞く。			
評価(期待する姿)				評価の方法	
友達の気持ちや立場を考えることがお互いの友情に必要なことに気づき、信頼し合うことや助け合うことの大切さを感じている。				・授業中の発言 ・ワークシート	
他の教育活動との関連				「心のノート」の活用例	
・学級活動(学級びらき)				P. を読み、考えたり調べたりする。	

月	週	主題名	内容項目	資料名(出典)	関連資料
4	2	きまりは何のために	4-(1) 規則の尊重・公德心	ポケットのあき かん(学研)	あめ玉 (学研)
ねらい		転がっている空き缶を拾い、ポケットに入れるおじさんの行為をとおして、みんなとの約束やきまりを守るだけでなく、進んで公德を守り、環境を大切にする態度を養う。			
展開の 大要 主な発問		1 道路や公園に、あき缶やごみが落ちているのを見た経験を発表する。 2 資料「ポケットのあきかん」を読んで話し合う。 ○自転車に乗ったおじさんから「あぶないから、やめんか。」と怒られた「ぼく」はどんなことを思ったか。 ◎お母さんの目に涙がたまっているのを見たとき「ぼく」は、どんなことを思ったか。 ○おじさんは、どんな思いであき缶を拾っていたか。 3 きまりについてどんなことを考えていたか話し合う。 ○決まりは何のためにあるか。 4 気持ちよく生活するために守るべき約束について、発表し合う。			
評価(期待する姿)				評価の方法	
みんなが気持ちよく過ごすためには、守らなければならないきまりや約束ごとがあることに気づき、それらを守ろうとしている。				・授業中の発言 ・ワークシート	
他の教育活動との関連				「心のノート」の活用例	
・社会科見学・生活目標への取組・校外学習				P. を読み、考えたり調べたりする。	

【県北地区】 県立梁川高等学校



推進校紹介②

1 学校概要

学校名	福島県立梁川高等学校
所在地	福島県伊達市梁川町字鶴ヶ岡 3 3
校長名	橘 和彦
学校の教育目標	(1) 広い視野を持って物事を見極め、考えることのできる豊かな教養と、確かな判断力を身につけさせる。 (2) 誠実明朗にして礼儀正しく、かつ人に優しく、誰とでも協調のできる社会性豊かな人間性を育成する。 (3) 自己の役割を認識し、良識と責任を持って自主的積極的に行動できる能力を身につけさせる。
学級及び児童生徒数	6 学級 1 8 4 名
道徳教育にかかる取組の概要	(1) 礼儀正しく、人に優しくする心情の育成 (2) 部活動への積極的な参加 (3) 責任を持って自主的積極的に行動できるころ豊かな人間性の育成

2 研究テーマ

「道徳教育全体計画における重点目標の具現化」

3 テーマ設定の理由

- (1) 礼儀正しく、人に優しくする心情の育成
 - (2) 部活動への積極的な参加
 - (3) 責任を持って自主的積極的に行動できるころ豊かな人間性の育成
- 上記のことを具体的に教育活動のどの場面でどのように取り組むか、試行錯誤を重ね、次年度以降に反映させる。

4 研究計画

授業、ホームルーム、学校行事、部活動等学校教育全体において取り組む。

5 児童生徒の実態及び地域の課題

全日制普通科全校生徒 1 8 4 名（男子 1 0 0 名、女子 8 4 名）、学年 2 学級の合計 6 学級の小規模校である。

地元の伊達市や伊達郡出身の生徒が約 8 0 % を占める地域密着型の学校でもある。教師の指示を素直に聞き入れ、指導の成果が表れやすい傾向にある反面、指示待ちが多く、自分の考えで行動することに自信が持てず、コミュニケーション能力がやや不足していることから、人間関係を構築する力も個人差が大きい。

そのために、生徒指導面での課題もあり課題解決に取り組んでいる。

6 道徳教育における校長の指導方針

(資料1)

生徒一人ひとりの進路目標実現のため、基礎学力の定着・基本的生活習慣の確立を図り、地域に認められ、地域に求められる人材を育成するための全体計画を作成し、教職員・生徒全員で実践する。

7 平成25年度 道徳教育の全体計画の特徴

(資料2)

教育目標、道徳教育の重点目標を踏まえて家庭、地域と連携することにより、生徒指導の充実を図りながら総合的な学習の時間、各教科及び特別活動等を通して計画を実践することに配慮した。

8 平成25年度 道徳教育の年間指導計画の特徴

(資料3)

教育目標を踏まえての重点目標を実践するために服装・頭髪指導や長期休業前の事前指導の徹底やボランティア活動を実践することにより基本的生活習慣の確立や礼節の大切さそして、こころ豊かな生徒の育成に繋がるように配慮した。

9 平成25年度 学級における指導の計画の特徴

(資料4)

各学年の総合的な学習の時間の計画に道徳教育の目標が達成できるように指導目標や活動計画に配慮した。

10 道徳教育推進教師等における実践レポート

(1) 基本的生活習慣を身につけさせ、規律ある落ち着いた学校生活を送らせる。

① 朝の登校時指導、生徒会役員・PTAによる朝のあいさつ運動

・ 毎朝職員が交替で校門付近に立ち、服装・遅刻指導を兼ねながらあいさつの習慣を定着させる。

② 考査前や各学期の始業式終了後の頭髪・服装指導

・ 正しい着こなしを意識させ、正しい服装での生活や授業・考査に取り組む姿勢を習慣づける。

③ 服育セミナー(1年)

・ 学校という学ぶ場所に相応しい生徒の服装・着こなしについて、制服企画コーディネーターによる講演を通して自分自身の服装について考えさせる。

③ 職員室等への入室方法や教職員に対する言葉遣いの指導

・ TPOを考慮し、就職・進学試験対策も考えて自分の服装や言葉遣いに注意する習慣をつける。

④ 時間を守る習慣をつける指導

・ 遅刻指導カード・・・遅刻をする回数が増えるにつれ、担任指導から保護者同席の管理職による指導など、段階的に指導し時間の大切さを理解させる。

(2) 校内研修会の実施

① 目的

・ 平成25年度道徳教育地区別推進協議会道徳教育推進校に指定され、「道徳教育全体計画における重点目標の具現化」をテーマに研究を進めていくにあたり、高等学校における道徳教育のあり方について理解を深め、本校としてどのように取り組んでいくための知識・方法等についての理解を深める。

② 期日

・ 平成25年10月15日(火) 13:15～14:15

③ 場所

・ 202教室

④ 内容

- ・ 課題協議 1 「高等学校における道德教育のあり方」・・・15分
- ・ 課題協議 2 「全体計画の作成の具体的方法について」・・・10分
- ・ 演習 「本校の特別活動、HR活動、総合的な学習の時間と道德教育の関わり」(本校の諸活動に含まれる道德的要素の検証を行う)・・・15分
- ・ 課題協議 3 「全体計画の作成に向けて(各教科と道德教育の関わり)」

⑤ 資料

- ・ 「道德の内容」中学校学習指導要領 第3章 道德 第2 内容 (資料5)
- ・ ワークシート
演習「本校の特別活動、HR活動、総合的な学習の時間と道德教育の関わり」
(資料6)

1 1 道德の時間に係る資料 (資料5, 7)

- 本校の特別活動、HR活動、総合的な学習の時間の内容と道德教育の内容との関連性を検証することにより道德教育の意識付けの推進・充実を目標とした。

1 2 平成26年度 道德教育の全体計画の特徴 (資料8)

- 昨年度と同様に各教科の授業、学校行事等を通して、道德教育の意識付けに力を入れて定着を図りたい。

1 3 平成26年度 道德の時間の年間指導計画の特徴 (資料9)

- 総合的な学習の時間等を活用してインターンシップやボランティア活動等の体験活動を重視し、道德教育の充実を図ることができるようにした。

1 4 成果と課題

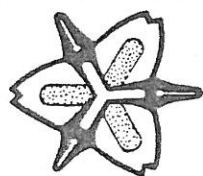
(1) 成果

- 小・中学校とは異なり高等学校には道德の時間がないために、各教科の授業の中で重点目標と関連づけることのできる部分を精選し、総合的な学習の時間LHR、学校行事等の中に道德教育の要素を加味しながら、実践した。
- 生徒の実態を踏まえ、本校の教育目標の達成、目指す生徒像実現に向かい、明るく礼儀正しいあいさつの励行やボランティア活動を通しての公共の精神を尊ぶ心の育成等を目標にして道德教育と関連づけて取り組むことができた。
- 教員が道德教育を念頭に各授業・行事に取り組み、進路指導においても望ましい勤労観を育てること等、道德教育の重要性を教員も再認識することができた。

(2) 課題

- 道德教育の推進を単年度で終わるのではなく、生徒の実情を踏まえて、基本的生活習慣・規範意識の確立、社会意識の高揚、自他の生命の尊重等に対して効果的な継続的指導を模索しながら今後も道德教育の創意工夫に努めたい。
- 道德教育は、家庭・地域社会と共通理解を図りながら推進するのが望ましいと考えるが、効果的な取組体制や実践活動に対して、どのように取り組むかを考えたい。
- 道德教育の指導が道德的価値の理解に偏る傾向になりがちで、例えば、自分の思いを伝え、相手の思いを酌むためには具体的にどう行動すれば良いかという側面からの指導教育を十分にすることが必要がある。特に、相手に思いを伝えるコミュニケーション力に欠ける生徒が多い本校では重要な課題と考える。

平成25年度 福島県立梁川高等学校 学校経営・運営ビジョン



教育目標

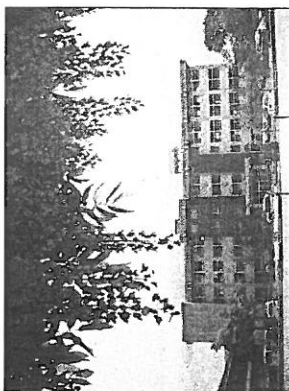
知性 誠実 責任

- 1 広い視野を持って物事を見極め、考えることのできる豊かな教養と、確かな判断力を身につけさせる。
- 2 誠実明朗にして礼儀正しく、かつ人に優しく、誰とでも協調のできる社会性豊かな人間を育成する。
- 3 自己の役割を認識し、良識と責任をもって自主的積極的に行動のできる能力を身につけさせる。

目指す生徒像

本校は、生徒一人ひとりの進路目標の実現のため、基礎学力の定着を図るとともに、基本的生活習慣を確立させ、地域に認められ、地域に求められるところ豊かな生徒を育成します。そのため、5つの柱の重点目標を実践してまいります。

校長 橋 和 彦



重点目標と具体的実践計画

◇学び直しの支援・充実

- ・少人数指導、T T授業の充実
- ・課外学習の推進

◇授業の工夫

- ・わかりやすい授業実践
- ・生徒に考えさせる授業実践

◇道徳教育の充実

- ・こころ豊かな人間性の育成

◇基本的生活習慣の定着

- ・欠席・遅刻の減少
- ・保護者との連携強化
- ・組織的・段階的指導の徹底

◇服装・頭髮の端正化

- ・登校指導の実践・充実
- ・制服の正しい着用推進

◇問題行動の未然防止

- ・計画的な校内外巡視の実践
- ・生徒理解の面談等の充実
- ・薬物乱用防止、サイバー犯罪防止、「4プラス1ない運動」の徹底
- ・携帯電話のマナー推進
- ・自転車安全走行の徹底
- ・節度ある男女交際の推進

◇キャリア教育の充実

- ・進路ガイダンスの実践・充実
- ・進路講話等の推進
- ・企業見学やインターンシップの充実

◇試験対応力の向上

- ・課外学習を推進・充実
- ・進路に応じた個別面談の充実

◇学校生活環境の整備

- ・清掃の徹底
- ・校内の緑化推進

◇心身の健康の維持増進

- ・カウンセラーによるカウンセリングの充実
- ・心身の健康意識の醸成・推進

◇部活動の活性化

- ・部活動の活動率の向上
- ・愛校心の高揚

◇生徒会運営の活性化

- ・自主活動の推進・支援

◇委員会活動の充実

- ・効率的・効果的活動の推進

◇倫理観・使命感の高揚

- ・職員一丸で、風通しの良い職場環境整備の推進・充実
- ・信頼され、期待される学校の構築

充実した授業の実践

生徒指導の充実

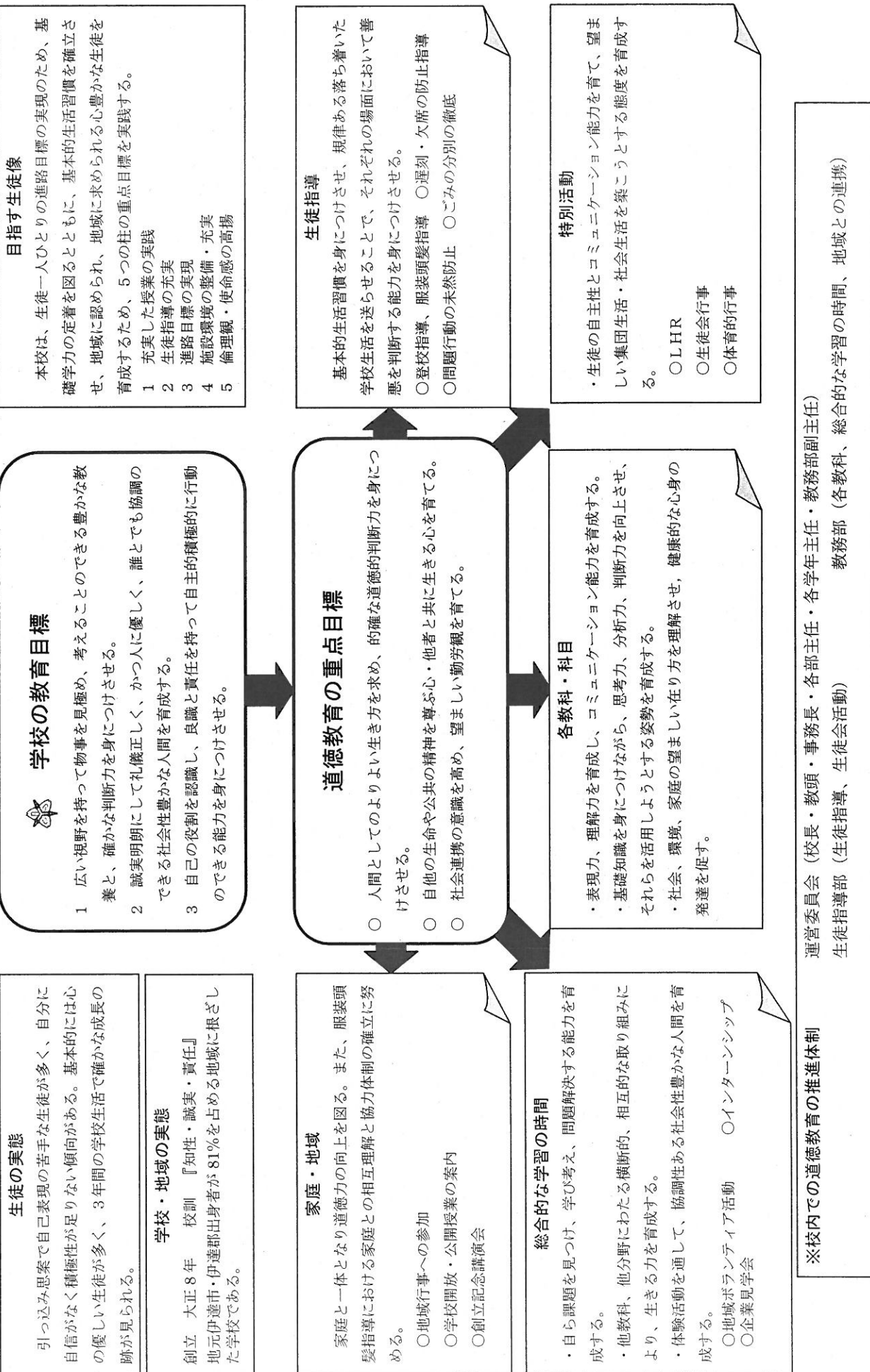
進路目標の実現

施設環境の整備・充実

倫理観・使命感の高揚

平成25年度 道德教育の全体計画

福島県立梁川高等学校 全日制の課程 普通科



(資料3)

平成25年度 道徳教育の年間指導計画

朝の登校指導(通年)

月	全体	学年(学級)	その他
4	服装・頭髪指導 交通安全指導 面接週間 連休中生活心得指導	対面式 校舎内引越ボランティア(2年)	通常カウンセリング(通年) 1年生カウンセリング
5	服装・頭髪指導 創立記念講演会 (昔話による道徳講話)	校舎内引越ボランティア(2年)	1年生カウンセリング
6	衣更え・服装・頭髪指導 列車補導 県北地区自転車一斉指導 花いっぱい運動	性教育講座(1年) 校舎内引越ボランティア(2年)	朝のあいさつ運動 (PTA健全育成委員会) 1年生カウンセリング
7	服装・頭髪指導 夏休み事前指導 交通安全指導	警察署員による講話(1年)	生徒会による地域内清掃活動 校舎内引越ボランティア (部活動)
8	夏休み校外指導 服装・頭髪指導		3年生就職面接指導
9	県北地区自転車一斉指導 列車補導 登校指導 面接旬間		
10	衣更え・服装・頭髪指導	地域清掃ボランティア(1・3年)	
11	服装・頭髪指導	地域清掃ボランティア(1年) 校内清掃ボランティア(3年)	
12	県北地区自転車一斉指導 列車補導 冬休み事前指導 交通安全指導		
1	服装・頭髪指導 面接旬間		
2	服装・頭髪指導	就職内定セミナー講習会(3年)	
3	服装・頭髪指導 春休み事前指導		

学年	第 1 学 年										第 2 学 年										第 3 学 年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	月	日	時間	学習のねらい	学習テーマ	担当分掌・担当者	時刻	学習のねらい	学習テーマ	担当分掌・担当者	時刻	学習のねらい	学習テーマ	担当分掌・担当者	時刻	学習のねらい	学習テーマ	担当分掌・担当者	時刻																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
1	4	16	火	1	1	1	1	1	1	1	1	4	11	木	1	1	1	1	1	1	4	12	金	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1</

「中学校学習指導要領 第3章 道徳 第2 内容」

道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容は、次のとおりとする。

1 主として自分自身に関すること。

- (1) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。
- (2) より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。
- (3) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。
- (4) 真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。
- (5) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。

2 主として他の人とのかかわりに関すること。

- (1) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。
- (2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。
- (3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。
- (4) 男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。
- (5) それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。
- (6) 多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。

3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること。

- (1) 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。
- (2) 自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心をもち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。
- (3) 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きること喜びを見いだすように努める。

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること。

- (1) 法やきまりの意義を理解し、遵（じゅん）守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。
- (2) 公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。
- (3) 正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。
- (4) 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。
- (5) 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。
- (6) 父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。
- (7) 学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。
- (8) 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。
- (9) 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。
- (10) 世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。

演習 「本校の特別活動, HR活動, 総合的な学習の時間と道德教育との関わり」

	行事名	関連が強いと考えられる内容項目	
A	始業式		
	着任式		
	入学式(1年)		
	生徒会対面式		
	生徒会部紹介		
	身体測定		
	生徒会総会		
	高体連壮行会		
	創立記念講演会		
	避難訓練		
B	衣替え 服装点検		
	自転車指導		
	校内球技大会		
	終業式		
	始業式		
	立会演説会		
	体育祭		
	修学旅行(2年)		
	マラソン大会		
	芋煮会		
C	梁華祭(3年に1度)		
	遠足(1・3年)		
	避難訓練		
	終業式		
	始業式		
	インターンシップ		
	表彰式・予行		
	卒業式		
	終業式(1・2年)		

「特別活動、HRR活動、総合的な学習の時間と道徳教育との関連表」

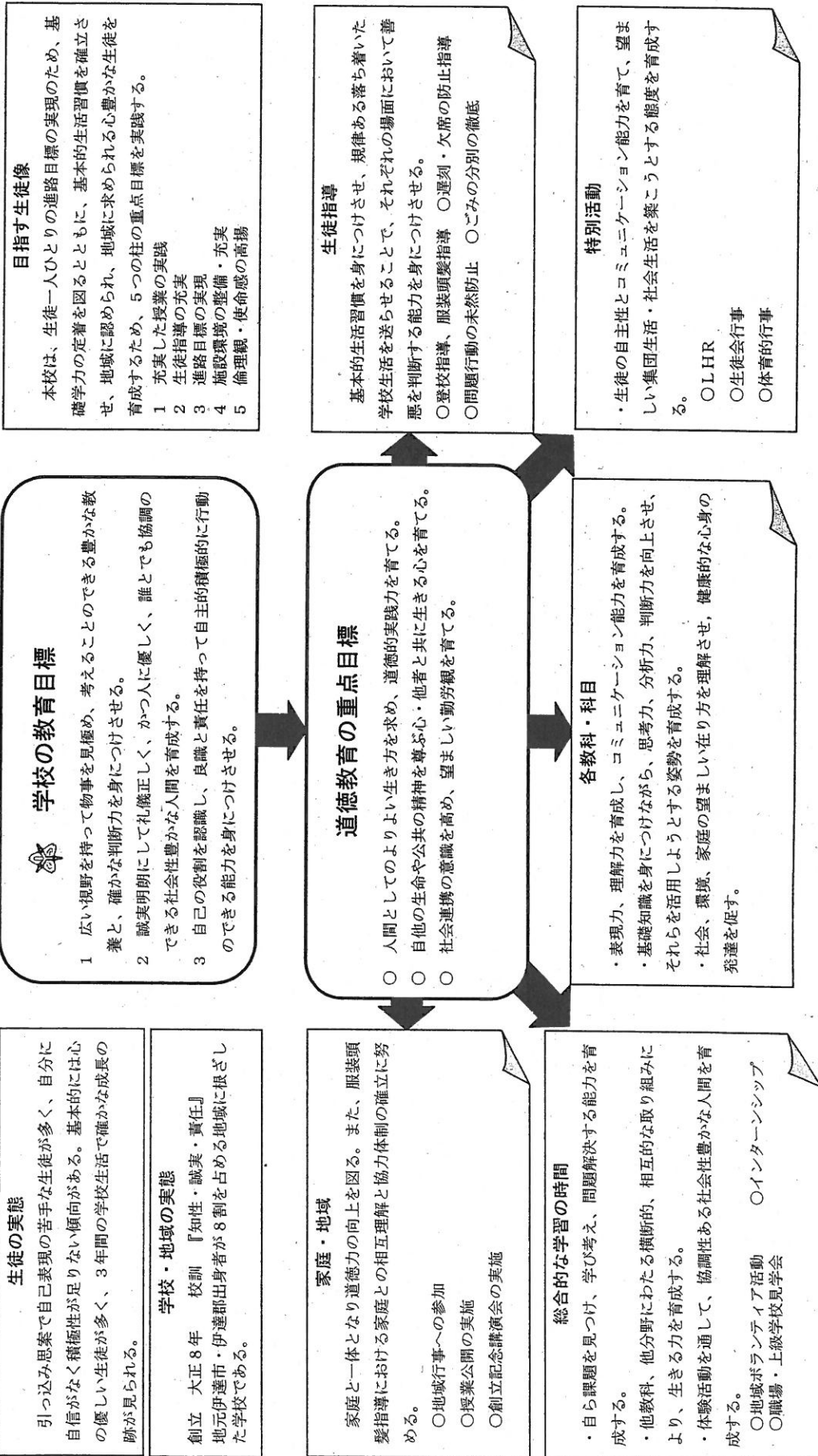
行事名	内容 番号	関連する内容項目	内容 番号	関連する内容項目
始業式	2(1)	礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。	1(2)	より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。
入学式	4(4)	自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。	1(1)	望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。
生徒会対面 式部紹介	2(1)	礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。	4(7)	学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。
身体測定	1(1)	望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。	1(5)	自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。
生徒会総会	4(4)	自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。	2(5)	それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。
高体連壮行 会	2(6)	多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。	4(2)	公徳心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。
創立記念講 演会	4(8)	地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。	4(4)	自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。
避難訓練	3(1)	生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。	4(1)	法やまじりの意義を理解し、遵(じゅん)守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。
衣替え服装 点検	1(1)	望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。	4(1)	法やまじりの意義を理解し、遵(じゅん)守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。
自転車指導	4(1)	法やまじりの意義を理解し、遵(じゅん)守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。	4(2)	公徳心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。
校内球技大 会	2(3)	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。	4(4)	自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。
終業式	1(5)	自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。	2(1)	礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。
始業式	2(1)	礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。	1(2)	より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。
立会演説会	4(4)	自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。	4(7)	学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。
体育祭	2(3)	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。	4(3)	正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。
修学旅行	3(2)	自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心をもち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。	4(9) (10)	日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。 世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。

マラソン大会	1 (1)	望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。	1 (2)	より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。
芋煮会	2 (3)	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。	4 (7)	学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。
梁華祭	4 (7)	学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。	4 (8)	地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。
遠足	2 (5)	それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。	4 (2)	公徳心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。
避難訓練	3 (1)	生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。	4 (4)	自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。
終業式	1 (2)	より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。	1 (5)	自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。
始業式	1 (2)	より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。	4 (4)	自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。
インターンシップ	4 (5)	勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。	2 (6)	多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。
表彰式・予行	1 (2)	より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。	2 (5)	それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。
卒業式	1 (5)	自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。	4 (9)	日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。
終業式	1 (5)	自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。	4 (7)	学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。

※ 内容番号は、中学校学習指導要領 第3章 道徳 第2の内容の番号です。

平成26年度 道徳教育の全体計画

福島県立梁川高等学校 全日制の課程 普通科



※校内での道徳教育の推進体制

運営委員会 (校長・教頭・事務長・各部主任・各学年主任・教務部副主任)

生徒指導部 (生徒指導、生徒会活動)

教務部 (各教科、総合的な学習の時間、地域との連携)

平成26年度 道徳教育の年間指導計画

朝の登校指導(通年)

月	全体	学年(学級)	その他
4	服装・頭髪指導 交通安全指導 面接週間 連休中生活心得指導	対面式	通常カウンセリング(通年)
5	服装・頭髪指導 創立記念講演会 (道徳講話)	<u>服育セミナーの実施(1年)</u>	
6	衣更え・服装・頭髪指導 列車補導 県北地区自転車一斉指導 花いっぱい運動	性教育講座(1年) <u>健康教育講座(2年)</u>	朝のあいさつ運動 (PTA健全育成委員会)
7	服装・頭髪指導 夏休み事前指導 交通安全指導 <u>薬物乱用防止キャンペーン</u>	警察署員による講話(1年)	生徒会による地域内清掃活動 1年生カウンセリング
8	夏休み校外指導 服装・頭髪指導		3年生就職面接指導 1年生カウンセリング
9	県北地区自転車一斉指導 登校補導 列車指導 面接週間		1年生カウンセリング
10	衣更え・服装・頭髪指導 <u>花いっぱい運動</u>	地域清掃ボランティア(1・3年) <u>性教育講座(3年)</u>	
11	服装・頭髪指導	地域清掃ボランティア(2年) 校内清掃ボランティア(3年) <u>AED講習会(1年)</u> <u>葬祭マナー講座(3年)</u>	
12	県北地区自転車一斉指導 列車指導 交通安全指導 冬休み事前指導		
1	服装・頭髪指導 面接週間	<u>インターンシップ(2年)</u>	
2	服装・頭髪指導	就職内定セミナー講習会(3年)	
3	服装・頭髪指導 春休み事前指導		

【県中地区】小野町立小野新町小学校



推進校紹介③

1 学校概要

学 校 名	田村郡小野町立小野新町小学校
所 在 地	田村郡小野町大字小野新町字万景 4 3
校長名	渡辺 裕
学校の教育目標	自ら学び、心豊かで、たくましい子どもの育成 考える子ども・明るい子ども・強い子ども
学級及び児童生徒数	普通学級 14 児童数 373 特別支援学級 2 児童数 7 計 380 名
道德教育にかかる 取組みの概要	本校の教育目標である「自ら学び、心豊かで、たくましい子どもの育成」をめざし、「道德的価値への自覚を深め、よりよく生きようとする児童の育成」を研究テーマに掲げ、3つの手立てをもとに研究実践を進める。 手立て1：子どもの心をゆさぶる発問の工夫 ～「場面発問」から「テーマ発問」への転換～ 手立て2：自己を見つめ発言力を高める「書く活動」の工夫 手立て3：道德的価値への自覚を促す「学び合い」の工夫

2 研究テーマ

道德的価値への自覚を深め、よりよく生きようとする児童の育成

3 テーマ設定の理由

社会の激しい変化の中でも、人と協調し合い、自律的に社会生活を営むことができる生きる力を育てることが必要である。特に震災の経験から、「家族」のあり方や「人間愛」について考える道德教育の推進が求められている。そのためには、道德の授業において、子ども達が、日常生活の中にある様々な価値に真剣に向き合い、友達と話し合いながら道德的価値への自覚を深めることができるようにすることが必要である。これらを踏まえ、児童の心の発達を促すことができれば、よりよく生きようとする児童を育てることができると考え、研究主題を「道德的価値への自覚を深め、よりよく生きようとする児童の育成」と設定した。

4 研究計画

月	全体会	現職推進委員会	全体授業	ブロック授業	研究会・小中連携など
4	第1回	第1回			
5	第2回	第2回			小中連携夏井川清掃活動
6	第3回		第1回		小中連絡会（小野中）
7	第4回		第2回		
8	第5回				
9		第3、4回	第3、4回	低学年	特別授業研究会（講師招聘予定）
10	第6回		第5回	中学年 高学年	小教研学習指導法研究会道德部会 小中連携道德授業（小野中）
11	第7回	第5回		高学年	道德教育研究発表会（低・中・高学年）
12	第8回	第6回			

5 児童生徒の実態及び地域の課題

(1) 児童の実態

- 明るくはつらつとした生活を送ることができている。

- 教師の指示など、言われたことを素直に聞き、真面目に取り組む。
- 「教師や友だちから認められたい、ほめられたい」という思いが強い。
- 「大事なことを落とさずに」「話し手の意図や話の中心をとらえながら」聞いたり、「目的を持って」、「表現を工夫して」、「組み立てを工夫して」話したりすることが苦手である。
- 様々な道徳的価値を知っているが、実践できない児童が見られる。

(2) 地域の実態

- 学校教育に対して、保護者や地域の方々は、大変協力的であり、期待も大きい。
- 学校統合に伴い、学区が広く、スクールバス等による自動車送迎の児童が多い。
- 震災後、活動制限が多少あったが、現在は震災以前とほぼ同様の活動が行われている。

6 道徳教育における校長の指導の方針 (資料1)

- (1) 「生きる力」を育む教育を推進し、豊かな人間性・社会性を育成するため、学校教育活動全体を通して道徳教育を行う。
 - ① 豊かな感受性の育成を図る。
 - 朝の活動や集会活動、読書活動の工夫と計画的な運営
 - ② 学級活動の充実
 - 自発的・自治的活動の育成と話し合い活動の充実
 - ③ 道徳の時間の充実
 - 自分を見つめる時間の充実
- (2) 道徳教育推進教師を中心として、教職員の研修意欲を高め、道徳教育の一層の充実を図る。

7 平成25年度 道徳教育の全体計画の特徴 (資料2)

- (1) 道徳教育推進教師を中心として、全教職員が協力し、学校全体として組織的に道徳教育が行われるよう計画した。
- (2) 児童の実態をもとに、各学年における指導の重点化を図った。特に「生命尊重」、「節度・節制」、「公德心」、「思いやり」を全校共通の重点内容として設定した。
- (3) 各教科、特別活動、豊かな体験活動、家庭・地域との連携等との関連を総合的に示し、学校教育全体を通して、「生きる力」を育む教育を推進し、豊かな人間性・社会性を育成する道徳教育全体計画を作成した。

8 平成25年度 道徳の時間の年間指導計画の特徴 (資料3)

- (1) 道徳教育全体計画に基づきながら、児童の実態と学校行事との関連を考慮して計画を作成した。また、年間を通して系統的発展的な指導ができるように工夫した。
- (2) 人権教育、キャリア教育、心のノート等との関連を図り、計画の中に位置づけた。

9 平成25年度 学級における指導の計画の特徴 (資料4)

- (1) 道徳教育全体計画に基づきながら、学級の実態や学級担任の願いを考慮して、学級における道徳教育の基本方針を設定した。
- (2) 「豊かな体験」、「環境の整備」、「基本的な生活習慣」の3つの観点から、学級ごとに具体的な指導の手立てを計画するとともに、学期ごとに反省を記入し、改善を図れるようにした。

10 道徳教育推進教師等における実践レポート (資料5)

- (1) 道徳の時間の充実と指導体制に関すること (ウ)

教職員へ「道徳だより」を発行し、道徳の授業を構想する上で必要な内容や効果的な板書の仕方などを全職員で共通理解を図りながら実践研究を進めてきた。
- (2) 授業公開など家庭や地域社会の連携に関すること (カ)

保護者や近隣の小中学校教員にも授業を参観していただき、本校の取り組みについて様々なご意

見をいただけるように計画した。授業参観では積極的に道徳の授業を行うよう担任に促した。

保護者から、算数や国語以外の授業を見ることができ、大変有意義だったという感想をいただいた。また、中学校教員からは、小学校とのつながりや道徳の授業の進め方など、今後の指導の改善に生かすことができたという感想が出された。

(3) 道徳教育の研修の充実に関すること (キ)

筑波大学附属小学校の加藤宣行先生を講師として招き、実際に提案授業をしていただき、ご指導いただいた。提案授業を通して、児童が自分自身と重ね合わせながら価値理解を深められるような発問の仕方や本時の授業の流れが一目で分かる板書の工夫、ノートの活用の仕方などについて研修を深めることができた。

1 1 道徳の時間にかかる資料 (資料6)、(資料7)、(資料8)、(資料9)

(1) 研究発表会について

(2) 研究授業に関する資料 (指導案)

- 低学年 第1学年1組 主題名 家族の人の願い【4-(3) 家族愛】
資料名 「かやねずみの おかあさん」
指導者 1年1組担任 服部由美子
- 中学年 第4学年3組 主題名 家族の助け合い【4-(3) 家族愛】
資料名 「お母さんのせいきゅう書」
指導者 4年3組担任 遠藤 正樹
- 高学年 第6学年2組 主題名 家族のために【4-(5) 家族愛】
資料名 「たまご焼き」
指導者 6年2組担任 村越 洋平

1 2 平成26年度 道徳教育の全体計画の特徴 (資料10)

- 平成25年度の実践研究を通して、児童の実態を再度把握し、課題を明らかにしてきた。その結果、あいさつや言葉遣いなど「礼儀」に関わる内容と、普段当たり前のようになっている家族に関した内容(「家族愛」)を指導の重点に加え、全体計画を作成した。

1 3 平成26年度 道徳の時間の年間指導計画の特徴 (資料11)

- 改訂した道徳教育全体計画をもとに、指導の重点価値を計画的に位置付け、系統的発展的な指導ができるようにした。
- これまで通り、人権教育、キャリア教育、心のノート等との関連を図り、計画の中に位置付けた。

1 4 成果と課題

(1) 成果

<導入の工夫>

- これまでの道徳に対する既成概念を取り払い、自ら望ましい態度や心情を選び取り、実践につなげようとする子どもたちの自覚を促す授業を目指すことができた。特に導入において、本時で取り扱う価値について、子どもたちの気持ちを「どうせ…」から、「あれ？」へと転換させ、子どもたちの頭と体全体で、「この価値について深めたい。」という積極的な動機付けをする手立てについて、研究を深めることができた。

<子どもの心をゆさぶる発問の工夫 ～「場面発問」から「テーマ発問」への転換～ >

- 「当たり前のことを聞いても、当たり前の答えしか出ない。」という過去の反省を生かし、発問を「場面発問」から「テーマ発問」へと転換し、子どもたちの心をゆさぶり、子どもたちが自ら考えながら「本時の価値」へ迫れるようにした。それによって、これまで「読解的」といわれた道徳の授業が、子どもたちの活発な話合いで進められる授業へと変わっていった。

また、授業中の子どもたちの発言に対して、問い返しをすることによって、子どもたちの心にゆさぶりがかけた。それによって、教室の雰囲気が変わり、問い返しに対して「ちがう！」と反論するなど活発な話し合いがなされた。

- 「テーマ発問」を軸に、子どもたちの発言を生かしながら価値に迫っていく手法は、これまで形式的になりがちだった道徳の授業に、変化をもたらした。子どもたちの思考の流れや発言を大切に、教師と子どもたちが一緒に価値の本質に気づき、迫っていくことで授業に臨場感が生み出され、自ずと道徳的価値への自覚を深めることができた。

<自己を見つめ発言力を高める『書く活動』の工夫>

- 道徳の授業で「分かったこと」「思ったこと」「これからのこと」を継続的に書き込めるように、道徳ノートを取り入れた。他の教科のノートと異なり、板書を写すのではなく、「自分や友達と対話するためのノート」として位置づけ、一人一人の感性を生かしたオリジナルノートづくりを進めた。授業の中でノートを友達同士で見せ合ったり、考えを確認しあったりすることができ、道徳ノートは効果的であった。特に高学年では、子どもたちが自由な発想でノートに書き込み、様々な考えを生み出すきっかけを作ることができた。

<道徳的価値への自覚を促す『学び合い』の工夫>

- 交流の中で友だちの意見に対する感想やコメントを伝え合うことにより、自分の考えを深めたり、新たな考えを生み出したりすることができた。道徳だけでなく他教科でも繰り返し伝え合うことを実践してきたため、学び合う活動が活発にできるようになってきた。また、「書く活動」で、自分の考えを持たせ、「学び合い」で深めるという基本的な授業展開の有効性が明らかになった。

<板書の工夫>

- 指導案（授業案）作成において、発問とともに板書計画を重視した。事前に授業の展開を予想し、板書計画を作成するが、実際の授業では子どもたちの表情や発言等をもとに新たに板書をつくっていった。「テーマ発問」を軸に、そこへ子どもたちの言葉（発言）を生かしながら、子どもたちが参加する板書にしていったことで、「導入→展開→終末」と筋が通り、1時間の流れが把握できる板書になった。

<中学校との連携>

- これまでも中学校との連携を図った様々な取り組みを行ってきた。それらの活動を道徳の観点から、改めて位置づけし、実践研究を行った。小学校教員が中学校の道徳の授業にTTとして関わったり、小中連携による道徳授業研究会等を実施したりしたことで、小・中学校それぞれの道徳的課題について互いに理解し合うとともに、9年間の成長を見通した指導の在り方について意見交流を深めることができた。

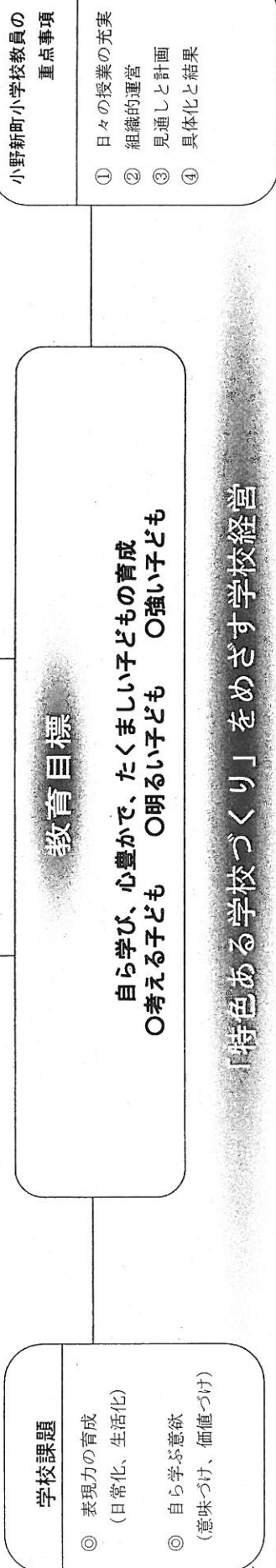
(2) 課題

- 「テーマ発問」をもとに、子どもたちに「問い返し」と「ゆさぶり」をかける授業は、教師にとって、授業力を試される場となった。子どもたちの発言を生かし、それを問い返すことで子どもたちの心をゆさぶる。そして本時のねらいに迫れるように授業を組み立てていく。そのためには教師自身のとっさの判断力が求められた。何度も研究授業を行う中で、徐々にその力を身に付けてきたところである。確かなねらいと見通しを持ちながら、子どもたちと一緒に作り上げていく生き生きとした授業をこれからも追究していきたい。
- 今回の道徳教育研究を通して、改めて導入、発問、学び合いや書く活動、板書計画といった授業づくりを構成する基本的事項を吟味しながら実施していくことで、子どもたちの学びの質が深まることが明らかになった。この研究の成果を国語や算数などその他の教科でも生かし、子どもたちの確かな学力の向上を図りたい。

小野新町小学校 学校経営ビジョン 2013



学校経営の方針 人間尊重を基盤とし、温かい人間関係に包まれ、楽しく規律ある学校生活の中で、子ども一人一人が夢や生きがいを持ち、輝く瞳とはじける笑顔で自己実現が図れる学校



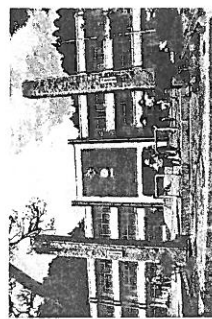
「特色ある学校づくり」をめざす学校経営

(1) 「生きる力」を育む教育推進に向けた新教育課程への編成・実施・評価

- ① 確かな学力の定着
 - 「わかる・できる」授業を推進します。
 - ・ 子どもがやがる気になる学習課題の設定
 - ・ 個に応じたきめ細かな指導と称賛
 - ・ 表現力育成のための言語活動の充実
 - 家庭学習習慣の定着と充実を図ります。
 - ・ 学年×10分+10分の家庭学習の習慣化
 - ・ 個に応じた内容(量・質)の改善
- ② 豊かな人間性・社会性の育成
 - 豊かな感受性の育成を図ります。
 - ・ 朝の活動(子どもと向き合う時間)の充実
 - ・ 集会活動や読書活動の工夫と計画的な運営
 - 学級活動の充実
 - ・ 自発的・自立的活動の育成と話し合い活動の充実
 - 道徳の時間の充実
 - ・ 自分を見つめる時間の充実
- ③ 健康教育の充実
 - 基本的な生活習慣の形成を図ります。
 - ・ 早寝・早起き・朝ごはんの推進
 - ・ ハンカチ・ちり紙携帯の推進
 - 危険予知能力を育成します。
 - ・ 廊下の正しい歩行と安全な登下校
 - ・ 放射線に対する正しい理解と、判断力・行動力の育成
 - 体力の向上
 - ・ 体育の日常化(遊び方の工夫)
 - ・ 体力テストの結果に基づいた指導
 - ・ 粘り強く最後までやりぬく心の向上

(2) 豊かな教育を支える環境づくりの推進

- ① 教育課題の解決を目指す研修
 - 教員の資質・向上…研修、教育改革の動向と対応、児童理解、学校経営、指導技術、問題行動への具体的な対応、保護者対応、主題研究推進
 - 事故防止対策…具体的な対応と情報提供
 - 生徒指導委員会の充実…実態把握と組織的対応
 - 家庭・地域住民・関係機関との連携・協力
 - 情報提供…学校要覧、学年・学級だより、学校経営・学年経営方針の発表、公開・発表・参観・活動等の工夫・改善
 - 地域の教育力の活用…授業への計画的・組織的活用、各種行事・作業等の運営改善、各種団体との連携と組織化
 - 創意ある交流活動…学年行事、新小まつり、バザー、各委員会活動の充実、定期的な話し合いの場の設定
- ② 「協働」の考えの啓発…各種会合・広報紙の充実
 - 校内職務倫理委員会の充実…具体的な対応策と情報提供
 - 「協働」の考えの啓発…各種会合・広報紙の充実



学校経営の基盤

- 協働的な経営意識、学年主任やミドルリーダーによる組織的な指導体制、説明責任
- 「生きる力」の育成、豊かな人間性・社会性の育成、価値判断能力の育成
- 確かな学力の定着、日々の授業の充実、基礎的・基本的な内容の指導徹底、自ら学び、自ら考える力の育成
- 学校経営が基盤、主体的な活動、潤いと感動のある活気ある学校
- 教育専門職としての自覚、資質能力を高める、現職教育の推進
- 学校事故防止、潤いと落ち着きのある環境構成と児童の安全確保
- 家庭・地域社会との融合、人間形成に望ましく機能し合う開かれた学校づくり

道徳教育全体計画

(資料2)
小野新町小学校 道徳部

教育目標

考える子ども…自ら考え工夫する
 明るい子ども…思いやりの心をもち協力し合う
 強い子ども…たくましく元気

道徳教育の目標

本校の教育活動全体を通して、人間尊重の精神を基盤として、人間性豊かな心身共に調和のとれた健全な児童の育成にあたる。

1. 生命を尊び、健康・安全に心がける子ども
2. 公德を守り、節度ある生活をする子ども
3. 友達を大切に思いやりのある子ども

各学年における指導の重点

	指導の重点	指導内容	共通重点内容
低学年	○生きることを喜び、生命を大切にしようとする心情を育てる。 ○自分勝手な行動を取らずに、みんなが使う物を大切に、約束を守る。 ○相手のことを考え、友達に親切にする。	生命尊重 節度・節制、自立 思いやり・親切	生命尊重
中学年	○生命の尊さを知り、自他の生命を大切にしようとする態度を育てる。 ○自らの行動をふり返り、節度ある行動を取る。 ○相手の立場を理解して、思いやりや親切な心育てる。	生命尊重 思慮・自立、節度・節制 公德心 思いやり・親切	節度・節制 公德心
高学年	○自他の生命を尊重し、かけがえない命を大切にしようとする心情を育てる。 ○集団の活動に積極的に参加し、その中で自分の役割を自覚し、責任を果たす。 ○相手の立場に立ち、思いやりの心もち、親切にする。	生命尊重 役割の責任と自覚 思いやり・親切	思いやり

特別活動における

集団の一員としての自覚を高め、協力してよりよい生活をつくこうとする自発的・自主的な実践活動を通して、以下のような態度や実践意欲を高めさせる。

学級活動

学級や学校の生活づくり、日常の生活や学習への適応及び健康安全。

児童会活動

集団の一員としての役割・責任と協力。

クラブ活動

相違ある活動への向上意欲、協調性。

学校行事

集団の中での個人のあり方、協力・責任、勤労などの重要性の認識。

各教科における

各教科の目標達成の中で、課題をやりぬく態度、自ら学ぶ姿勢、協力したり学び合う姿勢を培う。特に以下の内容にポイントをあてる。

国語 表現力、豊かな心情
算数 合理的な追求態度
社会 郷土を愛する心、公民的な資質
理科 生命の尊厳、自然の愛護
生活 基本的な生活態度、自立への基礎
音楽 美的情操、崇高さ。
図工 美的情操と創造性
家庭 家族の一員としての役割
体育 健康・安全、集団のルール

外国語活動

国際理解・親善

学級における道徳の指導計画の作成

道徳の時間

一人ひとりの児童が道徳的価値の自覚を深め、道徳的判断力を培い、道徳的心情を豊かにすることを通して、態度や実践意欲の向上を図り、道徳実践力の育成を図っていく。

1. 共感的な理解を軸とした心のたがやしを進める指導
2. 友達と高め合い、自己を見つめる場を大事にした指導
3. 道徳実践力を育成する指導

教育環境の整備

- ・魅力ある学級環境づくり
- ・環境づくりへの児童の参加

総合的な学習の時間

- ・問題を解決する資質や能力
- ・自己の生き方を考える

補充・深化・統合

道徳実践の日常化

生徒指導・学級経営

豊かな体験

ふれあい体験活動	ボランティア活動	自然体験活動	文化芸術体験活動	職場体験活動	集団宿泊活動
縦割り班清掃 あいさつ運動 6年生を送る会	落ち葉はき 小野町デイサービスセンター 訪問 雪はき	遠足	鑑賞教室 小野町音楽祭	キャリア教育 キッズニア体験学習	宿泊学習 修学旅行

家庭・地域との連携

学校と家庭、地域社会が相互に連携や交流を深める場を設ける。
 通信・心のノート・家庭訪問・授業参観・学校行事への参加を通して

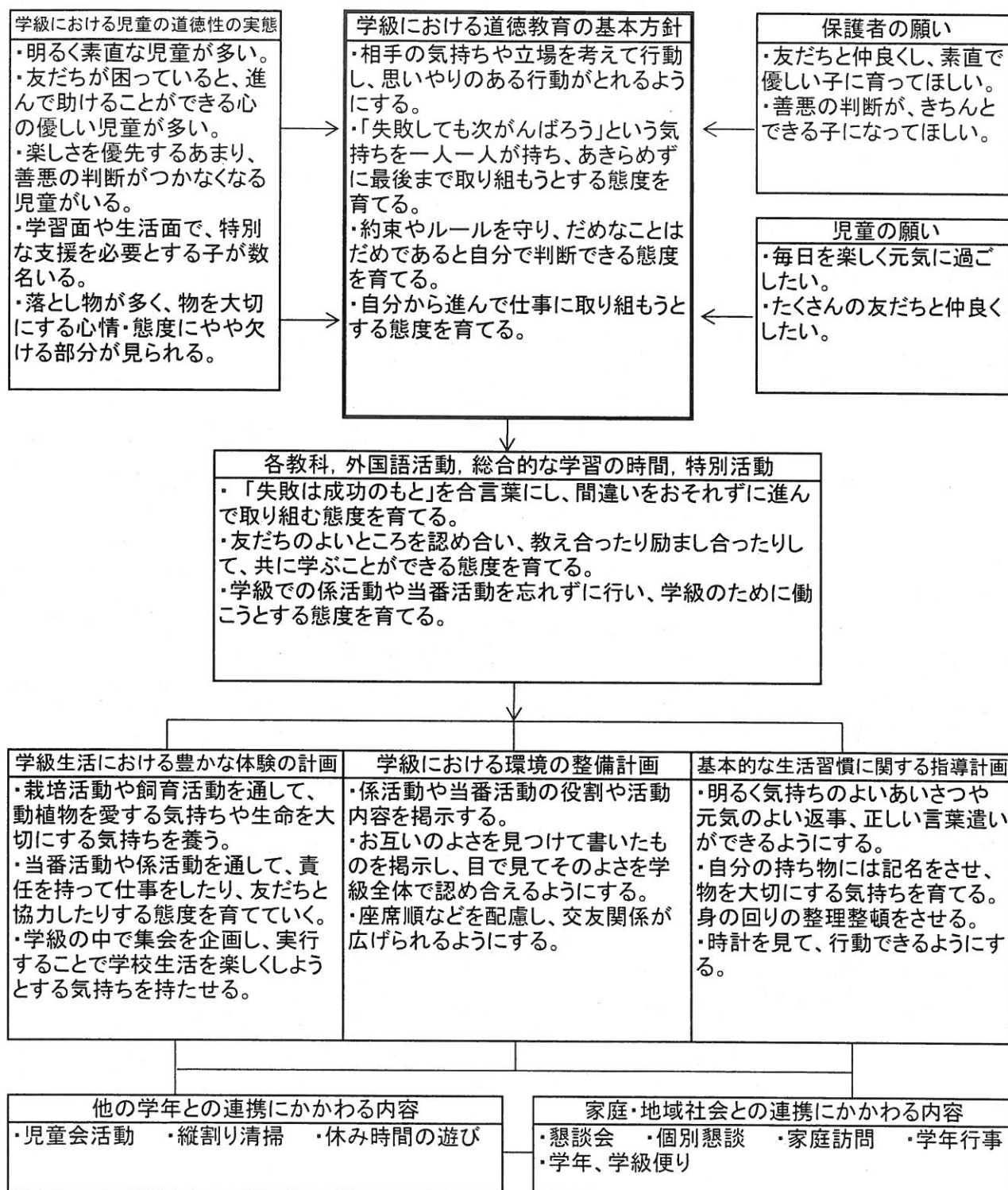
(2)道徳の指導計画

第3学年 (資料3)

主 題 配 当 表							
計画作成上、特に工夫配慮した事項		命の大切さを知り、集団や社会のきまりを守り、相手の立場を理解して、信頼し助け合いながら、親切な行為を自ら進んで行うことができるよう、それらの価値を扱う時間を多く配当した。					
月	主 題 名	時数	消耗品・教材・教具 私費負担品 公費負担品		講師等	活動場所	その他
4	◎きまりのある生活(あつしの計画ひょう) 1-(1) ○きまりはなんのために(きまりじゃないか) 4-(1) ◆ ○真心からの行い(ぬれた本) 1-(4) 「心」	3		道徳副読本		教室	
5	○真心を込めて(あいさつをすると) 2-(1) ○正しい心、強い心(二つの声) 1-(3) ○つながる命(ヌチヌグスージ(命のまつり)) 3-(1)	3		道徳副読本		教室	
6	○親切っていいな(やさしい人たくさん) 2-(2) ○ほんとうの友達(なかよしだから) 2-(3) ○自然の大切さ(ホタルの引っこし) 3-(2) ○くじけない心(まけるものか) 1-(2) ☆	4		道徳副読本		教室	
7	○日本のよさ(ぼくのおべんとう) 4-(6) ◇ ○人のために(ことぶき園に行ったよ) 4-(2)「心」 ◆CA ○みんなクラスのなかま(くうちゃんの絵) 4-(4)	3		道徳副読本		教室	
8	○自然とのつながり(ケヤキのやさしさ) 3-(2)	1		道徳副読本		教室	
9	◎みんなで守る命(健ちゃんをたすけろ) 3-(1) ○働くことの大切さ(公園ボランティア) 4-(2) CA ○励まし合う友達(いいち、にいつ、いいち、にいつ) 2-(3)	3		道徳副読本		教室	
10	◎困っている人のために(ぼくたち、手つだいます!) 2-(2) ◎計画的に行動する(ゆうすけの朝) 1-(1) ○尊敬の気持ちを持って(大通りのサクラなみ木) 2-(4) ○自分の心への誠実(与作のカキの実) 1-(4)	4		道徳副読本		教室	
11	○仲間を思う心(百羽のツル) 3-(3) ○みんなの使うもの(黄色いかさ) 4-(1) ◆ ○温かい家族(ぼくのおばあちゃん) 4-(3)	3		道徳副読本		教室	
12	○自分らしさ(じゃがいもの歌) 1-(5) ○めあてに向かって(ーりん車にのれた) 1-(2) ○美しくやさしい心(しあわせの王子) 3-(3)	3		道徳副読本		教室	
1	◎命を大切に(いっただいのち) 3-(1) ○みんなが使う場所(あめだま) 4-(1)	2		道徳副読本		教室	
2	○よく考えて(だれにも言えない) 1-(1) ○新しい友だち(カンボジアから来た転校生) 4-(4)文4 ○わたしたちのふるさと(ふるさといいとこさがし) 4-(5)	3		道徳副読本		教室	
3	◎温かな心(六べえじいとちよ) 2-(2) ○友達のよさ(たまちゃん、大すき) 2-(3) ○明るい家庭(耳の聞こえないお母さんへ) 4-(3)	3		道徳副読本		教室	
時数計		35 時間					

◎重点価値 ●郷土資料 「CA」…キャリア

「栄」…学校栄養士との連携 「養」…養護教諭との連携 「◇」…国際理解 「☆」…環境 「★」…性 「◆」…人権 「▽」…食 「▼」…情報



	1学期	2学期	3学期
反省			

道徳だより

第3号

先日の小教研道徳部会で、宮武泰先生のお話を聞きました。全校で共有すべき情報をたくさん聞くことができましたので、お知らせします。

○ 道徳指導の手法について

- ① **モラルジレンマ**→生命尊重か、規律順守かを選ばせるなど
児童の実態を踏まえて、時々取り入れる程度でよい。(35時間すべてで行う必要はない)
- ② **再現構成法**→資料を途中でとめながら発問する ※低学年向き
板書の構造をあらかじめ決めておくことが必要である。
- ③ **先行オーガナイザー**→物語の構成を伝えてから本時に入る
資料の構造を理解したうえで学習させたいときに有効(資料の文章が難しい時など)
- ④ **資料の分割提示**→資料を途中で切って児童に提示
資料によっては「やらなくてはならない」時もある。
教師が必要と思うならやってみるのも一つの手段。

○ 話し合いについて

- ① **グループ・ペアでの話し合い**
隣同士に固定しない方がよい・・・双方向の話し合いにこだわる
- ② **役割演技(動作化)**
話すだけならやらないほうがよい。動きや間を付けることが大切。
動作化はほとんどいらない(わかりきっているから)
- ③ **心情図**→板書に自分の気持ちをプレートで表わすなど
いつでも変えられるようにしておかないと主体性が無くなる。

○ ワークシートについて

- ① **コミック会話**→吹き出し
人物に表情をつけない方が自由に考えを書くことができる。
- ② **事前、事後アンケート**
アンケートと展開後段(自分との関わり)、資料の関連性をよく考える。

平成25年度ふくしま道徳推進プラン指定校 ～和で奏でる！望ましい道徳性の育成～
小野町立小野新町小学校 道徳教育研究発表会

- 1 期 日 平成25年11月8日(金)
- 2 会 場 小野町立小野新町小学校
- 3 研究主題 「道徳的価値への自覚を深め、よりよく生きようとする児童の育成」
- 4 日 程 開会行事・研究発表 13:30～14:00
研究授業 14:15～15:00
分科会 15:10～16:30
- 5 研究発表 小野町立小野新町小学校 研修主任 横田 和典
- 6 研究授業
- (1) 低学年 第1学年1組 主題名 家族の人の願い【4-(3)家族愛】
資料名 「かやねずみの おかあさん」 指導者 1年1組担任 服部由美子
- (2) 中学年 第4学年3組 主題名 家族の助け合い【4-(3)家族愛】
資料名 「お母さんのせいきゅう書」 指導者 4年3組担任 遠藤 正樹
- (3) 高学年 第6学年2組 主題名 家族のために【4-(5)家族愛】
資料名 「たまご焼き」 指導者 6年2組担任 村越 洋平
- 7 指導助言者
- (1) 低学年分科会 小野町立夏井第一小学校長 鈴木 陽子 様
- (2) 中学年分科会 田村市立芦沢小学校教頭 佐藤 潤 様
- (3) 高学年分科会 県中教育事務所学校教育課指導主事 本田 一意 様

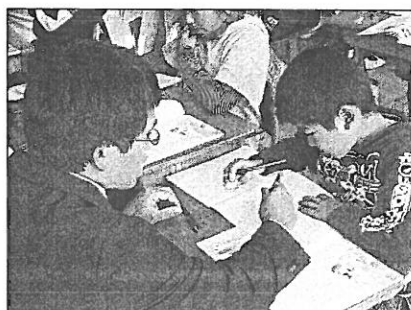
8 分科会

分科会	運営責任者	司 会	記 録	分科会会場
低学年	渡辺 幸子	影山 郁子	増子 健二	1年1組教室(校舎1階)
中学年	櫛田 正人	菅野 直美	松山香奈子	4年3組教室(校舎3階)
高学年	先崎 文子	横田 和典	宗形 美郷	6年2組教室(校舎3階)

<研究会当日の様子>



【1年1組研究授業】



【4年3組研究授業】



【6年2組分科会】

第1学年1組 道徳学習指導案

日 時：平成25年11月8日(金) 5校時

授業者：1年1組担任 服部 由美子

場 所：1年1組教室

授業テーマ

子ども達が自ら考えたいと思うような発問により子どもの考えを引き出し、問い返すことを通して思いを深めることができる授業。

1 主題名 家族の人の願い【4－（3）家族愛】

資料名 「かやねずみの おかあさん」（出典：『どうとく1 みんななかよく』東京書籍）

2 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の（3）として、「父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。」とある。児童の日々の生活は、父母や家族の心遣いの上に成り立っているが、子ども達はそのことに十分、気付いているとは言えない。家族の日々の心遣いに気付くことにより、父母や祖父母への敬愛を深め家族の一員として、家族を愛する心を育てていくことが大切である。

〈児童の実態について〉（男子16名、女子13名、計29名）

道徳アンケート「かぞくやともだち、ちいきのひとのやくにたつにんげんになりたいとおもう」では、「そうおもう」82%、「いえのひとやともだちとのやくそくをまもっている」71%、「いえのてつだいをしている」75%というように明るく素直な子が多い。どの家庭も忙しい毎日の生活の中で、できる限りの愛情を持って子どもを育てている。しかしながら、子ども達は、父母や家族からの愛情や心遣いをあまりに当たり前と受け取り、してもらうのが当然のように思っているように見受けられる。家族が心から子どものことを大切に思っていることや、家の人が心配したり、しかったりするの、子どものことを大切に思っているからであることを理解させたい。

道徳の授業にも慣れてきて、自分の考えを発表できる児童も増えてきたが、発表する児童がいつも同じになってしまう傾向が見られる。班やペアで活動することや話し合い活動を他の教科においても意識して取り上げ、誰もが意欲的に発言できるように努めているところである。

〈資料について〉

5匹の子どもを連れたかやねずみのお母さんが原っぱに出かける。原っぱでキツネに追われたお母さんは、子ども達を助けるために、葉に自分のにおいをつけてキツネを引き寄せ、なんとかきつねから逃れる。子ども達も母親の教えを守って助かり、母親を助けに戻ってくるという内容である。

母親が子どもを守ろうとする姿と子ども達が母親を助ける行為から、母親の子どもを思う心に気付かせるとともに、子どもでも家族の一員として家族を大切にしようとする心情を育てたい。

3 授業テーマに迫るための手立て

手立て1【子どもの心をゆさぶる発問の工夫】

「無事でよかった。」「助けにきてくれてうれしい。」等の気持ちになる大前提としての、「家族はいるだけでうれしい。」という価値に気付かせるために、「元気な姿を見たお母さんと子ども達は、どんな気持ちだったでしょう。」という発問を投げかけ、子ども達の考えを引き出すとともに、子どもの発言に問い返しを行い、思いや考えを深めることができるようにする。



友達の発表を聞いて考えを深める。

手立て2【自己を見つめ発言力を高める『書く活動』の工夫】

授業の後段で、家族に手紙を書くことを通して、父母など家族の優しい心遣いに気付き感謝し、自分もまた家族の一員として家族を大切にしようとする心情を育てたい。

手立て3【道徳的価値への自覚を促す『学び合い』の工夫】

発問に対して考えを発表し、考えを交流すると共に、児童の答えに対して問い返しを意識して行い、思いを深めるようにしたい。また、手紙を友達と交流することにより、思いを深めることができるようにする。



書くことで発言力を高める。



(資料7)

子ども達は嬉しそうに読んだり読んでもらったりする。

教室のあちこちで交流が始まる。

4 本時のねらい

父母など家族の人のやさしい心づかいに気付き感謝し、自分もまた家族を大切にしようとする心情を育てる。

5 学習過程

6 板書計画

(県中教育事務所のホームページをご覧ください。)

7 成果と課題

(1)「子どもの心をゆさぶる発問の工夫(手立て1)」について

- 中心発問を「元気な姿を見たお母さんと子ども達は、どんな気持ちだったでしょう。」の1つだけに絞ったことは、授業を深まりのあるものにするためにとても有効だった。話し合いの焦点を絞ることにより時間に余裕ができ、価値に迫ることができた。
- 発問を1つに絞るためには、一度読んだだけで資料をしっかりとらえさせることが重要になってくる。資料を読む前に、読むポイントなどを確認しておく必要がある。

(2)「自己を見つめ発言力を高める『書く活動』の工夫(手立て2)」について

- 書くことにより思いを確認することができた。シートも1年生の実態に合っていた。
- 家族が多様化しており、父親・母親に限定しない「おうちのひとへ」という言葉かけをして書かせたが、扱いにくいテーマではあった。

(3)「道徳的価値への自覚を促す『学び合い』の工夫(手立て3)」について

- 手紙を交流することで子ども達は本当に嬉しそうに読んだり読んでもらったりしていた。
- 書くことに時間がかかってしまい、友達のところについて交流する時間がない児童が数名いた。最後に全体に紹介したが、友達と交流する楽しさをどの児童も味わうことができるようにしていきたい。

(4) その他

- 本時の授業を行うにあたって、授業者の課題として次のことを考えた。

- ① 友達の考えを友達に返す。
- ② 子どものつぶやきを聞き逃さない。
- ③ 「〇〇さんは、〇〇って言ったけど、みんなはどう思う。」など全員に広げる。

教師が教えたいことを当てこするような道徳の授業から一歩進めて、伝えたい道徳の価値に少しでも自分達で迫ることができるようにと強く思いながら授業を進めた。



友達の発表を真剣に聞く。

- 問い返しとして、次の言葉を考えていた。
 - ・「〇〇ってどういうこと。」「何があったの。」「どうしてよかったの。」「何がよかったの。」「どうしてこんなに戦うの。」「どうして守るの。」「みんなのおうちの人はキツネと戦ったりしないよね。でも、ねずみのおかあさんと同じだよね。」
 - ・答えが返ってこない時は、全員に投げかける。
 - ・こどもの答えにつっこむ。「いい言葉だね。」「くわしく教えて。」
- このような言葉をあらかじめ用意しておくことで、気持ちに余裕を持ち、価値からそれぞれに子どもの発言を深めることができた。子どもに伝えたい価値を子どもにわかる言葉で教師がきちんと持っていることがとても大切だと感じた。

第4学年3組 道徳学習指導案

日 時：平成25年11月8日(金) 5校時

授業者：4年3組担任 遠藤 正樹

場 所：4年3組教室

授業テーマ

発問や書く活動の工夫により、道徳的価値の自覚を深めさせることができる授業

1 主題名 家族の助け合い【4—(3) 家族愛】

資料名 「お母さんのせいきゅう書」(出典：『どうとく4 ゆたかな心で』東京書籍)

2 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

中学年としてのねらいは「父母・祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる」ことである。「家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくろう」とする心は、家族への敬愛の念の深まりによって自然に生まれるものである。子どもたちに、父母や祖父母が慈しみの心をもって自分の成長を祈り見守ってくれたことに対する「親愛の情」や、父母や祖父母が家族のために働き家族を支えてきたことに対する「尊敬の念」を育てることで、「敬愛の念」を深めさせたい。

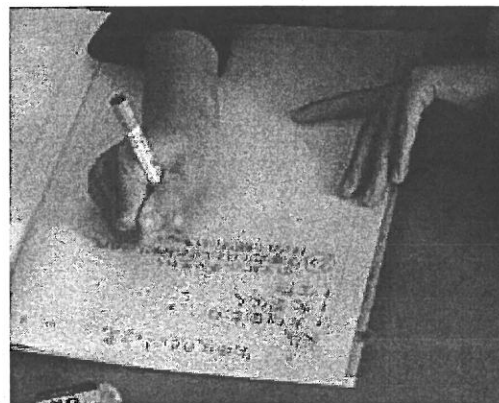
〈児童の実態について〉(男子14名、女子10名、計24名)

事前アンケートによると「親や祖父母の言うことを聞いていますか」という質問に対しては、「聞かない時がある」と答えた児童が14名おり、理由としては、「1つ1つ注意されるから」などを挙げている。子どもたちには父母・祖父母の思いがなかなか伝わっていない様子が見られる。本資料で取り上げられた具体的事実やゲストティーチャーの話を通し、父母・祖父母の愛情や家族のために働いている立派さに気づかせ、敬愛の念を深めさせたい。

〈資料について〉

前半は、たかしの「おかあさんへのせいきゅう書」を母が読む場面。後半は、たかしが母に出した請求書どおり五百円を手に入れるが、母の0円と書かれた請求書を見て反省し、心からわびるという構成になっている。

本資料において母の請求書に込められた思いを考えさせることで、親の深い愛情に気づき、親愛の情を持つとともに、家族の幸せのために働いている両親に対して尊敬の念を持つことができると考えた。



道徳用にノートを作り授業で利用している



ノートに書いた自分の考えをもとにしながら話し合いを行っている。

3 授業テーマに迫るための手立て

手立て1 【子どもの心を揺さぶる発問の工夫】

中心発問において、たかしの請求書と母の請求書を比べて考えさせることで資料全体を見通し、たかしの心情に寄り添った考えができるようになると考えた。

手立て2 【自己を見つめ発言力を高める『書く活動』の工夫】

教師の発問を受け、自分の考えや意見をすぐに発表できるまでには、子どもたちは高まっていない。学び合う活動の前にノートに考えを書かせることによって、自分の考えを確認させるとともに、発表する時の手助けにできるようにする。

手立て3 【道徳的価値への自覚を促す『学び合い』の工夫】

(資料8)

問い返しを行うことで、登場人物の表面的な行動や言葉の裏にある気持ちに気づかせるとともに、自分と自分の家族に照らし合わせながら考えさせたい。ゲストティーチャーに話をしてもらうことで、自分の身近にいる大人も子どもに対して愛情を持って接していることを知り、自分に対する家族の心情を考えることができるようになっていくと考えた。

4 本時のねらい

父母や祖父母が家族の幸せのために働いていることに気づき、父母や祖父母への敬愛の念を持つことができる。

5 学習過程

6 板書計画

(県中教育事務所のホームページをご覧ください。)

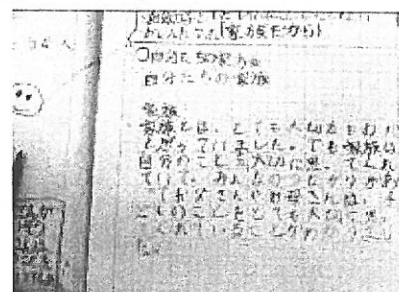
7 成果と課題

(1) 「子どもの心をゆさぶる発問の工夫(手立て1)」について

- 場面ごとの登場人物の気持ちを考えていく「場面発問」ではなく、資料全体を通して考えることのできる「テーマ発問」ということで今回は「2つの請求書のちがいは何か。」という発問を設定した。しかし、子どもたちの中でどのような価値について考えていくのかという見通しがたらず、お金の話から抜け出せないまま授業が進んでいく結果になってしまった。問い返しによって方向修正を試みたが、再びお金の話題にもどってしまい、「両親の子どもを思う気持ち」や「自分の両親の思い」という方向に進めることができなかった。子どもの思考の流れを考えた問い返しができなかったことも反省点であるが、やはり最初の発問の段階で主人公の母親の気持ちを考えた「たかしはどうしてないてしまったのか。」など主人公たかしの気持ちを考えさせる発問を行う必要があった。

(2) 「自己を見つめ発言力を高める『書く活動』の工夫(手立て2)」について

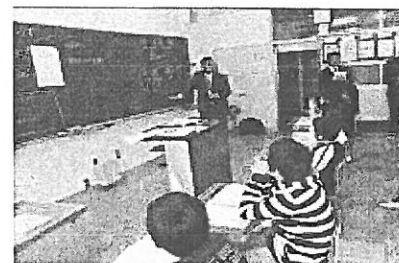
- 道徳のノートを使用することで、授業を重ねるごとに子どもたちが自分の考えをノートに書くことができるようになってきた。また、授業の始まりと終わりで自分の考えの変化を意識して書くことができるようになってきている。ワークシートは授業の進み方や自分の書くべきことがわかりやすいという利点はあるが、「蓄積していく」という意識が薄く、自分の考えの変化や授業のつながりを意識することができない。
- 道徳の時間だけでなく、普段の生活や家庭とのつながりも考えていきたい。



ノートに書いた自分の考えをもとにしながら話し合いを行っている。

(3) 「道徳的価値への自覚を促す『学び合い』の工夫(手立て3)」について

- ゲストティーチャーの話を聞くことによって子どもたちの中で自分たちの両親のことや、今までわからなかった親の思いに気づく姿が見られた。
- ゲストティーチャーの話を聞いた後に子どもたちの思いを交流・発表させることで上辺だけでなく自分の思いのこもった話し合いにすることができたと考えられる。



ゲストティーチャーの話を聞く様子。

(4) その他

- 黒板に横書きに板書をし、「初め・中・終わり」と3段で構成することは、授業の始まりと終わりの考えの変化を意識することができ有効である。
- テーマ発問によって道徳の授業を進める上では、問い返しを効果的に行っていくことが重要である。授業の振り返りをする際に、どの場面でどのような問い返しを行うとよいのか検討する際に、授業の流れを正確に記録しておく必要がある。写真記録に加え、録音などを行うことで事後検討に役立てたい。

第6学年2組 道徳学習指導案

日 時：平成25年11月 8日（金）5校時

授業者：6年2組担任 村越 洋平

場 所：6年2組教室

授業テーマ

発問の設定や問い返しから子どもたちの考えを引き出し、道徳的価値の自覚を深めさせることができる授業

- 1 **主題名** 家族のために【4—（5）家族愛】
資料名 「たまご焼き」（出典：『5年生の道徳』文溪堂）

2 **主題設定の理由**

〈ねらいとする価値について〉

親は我が子を自分のこと以上に心配し、子の成長を喜び、さらなる成長を願っている。子どもはそんな親の心を知ることによって、親の慈しみの心に感謝し、それにこたえたいと思うようになる。さらに、親の仕事や人付き合いに対する考え方にふれることによって、親に対する敬愛の念を抱く。この感謝の心と敬愛の念が「もと」となり、子どもたちは自分の家族のために役に立とうと考えるようになっていくと思われる。家庭における自己の在り方を踏まえて、家族のために役立とうとする心を育てていきたい。

〈児童の実態について〉（男子11名、女子18名、計29名）

道徳アンケート「家の手伝いをしていますか」では、17名の児童が手伝いをしていると答え、半分以上の児童が家の手伝いをしていることが分かる。また、「家族に進んで話しかけていますか」では、22名が進んで話しかけていると答え、家族との関係はおおむね良好だと言える。しかしその反面、自立への欲求が高まり、親の言葉に素直に従えなくなったり、反抗的になったりするなど、精神的に不安定な時期であると考えられる。学習を通して、児童が持っている家族に対する感謝の心や敬愛の念について改めて考えさせるとともに、家族のために働くようとする意欲を高められるようにしたい。

〈資料について〉

由紀は、遠足の日の前日に、卵がないと知りながら「たまご焼きいれてや。」と駄々をこねる。父に叱られ、泣きながら眠る由紀。次の日、弁当の中にたまご焼きを見つけ、みんなと離れて一人でたまご焼きを食べながら涙を流す。家に帰り、母から父が卵を手に入れたことを聞き、ふろたきをしようとする。

由紀の心情の変化をとらえることを通して、家族のためにできることは何かを考えさせる資料である。

3 **授業テーマに迫るための手立て**

手立て1 【子どもの心を揺さぶる発問の工夫】

親に叱られて流す涙と、たまご焼きを食べながら流す涙を対比させたり、「たまご焼き」には両親のどんな思いがこめられているのかを考えさせたりすることにより、家族のために役に立とうとする心情は、両親への感謝の気持ちと敬愛の念が「もと」となっていることに気付かせるようにする。

手立て2 【自己を見つめ発言力を高める『書く活動』の工夫】

友達と交流することを前提にして自分の考えを道徳ノートにまとめさせることにより、伝えたいことや話したいことを明確にして考えをまとめることができるようにする。



自分の考えをノートに書く習慣をつけた。



ノートに書いたことをもとに友達と交流する。

手立て3 【道徳的価値への自覚を促す『学び合い』の工夫】

席を離れて自由に意見を交流する場面を設けることで、様々な意見を参考にしながら自分の考えを深めることができるようにする。また、全体で話し合う場面でも、板書を工夫しながら、児童の考えが相互につながっていることを意識できるようにする。

4 本時のねらい

家族に感謝するとともに、家族の一員として自分にできることをしようとする心情を育てる。



黒板に自分の考えを書かせ、一緒に板書作りを行った。



積極的に授業に参加する児童が多かった。

5 学習過程**6 板書計画****7 成果と課題**

県中教育事務所のホームページをご覧ください。

(1)「子どもの心を揺さぶる発問の工夫(手立て1)」について

- 由紀の流した涙の違いについては短時間で確認するだけにし、由紀が家族のために働こうと思った理由を考える時間を確保したことにより、由紀と自分自身を重ね合わせながら、由紀の決意の原動力となった思いについて、ポイントを絞って考えさせることができた。
- 子どもたちの発言に「問い返し」を行いながら授業を展開したことにより、「たまご焼き」にこめられた両親の思いや、由紀が風呂焚きを選んだ理由などについて深く考えさせることができた。また、児童が黒板に自分の考えを書く活動を行ったことで、児童が主体的に学習に取り組む雰囲気醸成することができた。
- 児童の生活経験を引き出せるような発問を効果的に取り入れることで、さらに価値理解が深まると感じた。

(2)「自己を見つめ発言力を高める『書く活動』の工夫(手立て2)」について

- 友達と意見を交流することを前提として道徳ノートに自分の考えを書かせたことで、自分の伝えたいことを明確にすることができた。指名された児童も迷うことなく考えを述べることができた。
- 自分なりに色やレイアウトを工夫しながらノートを書くことを指導してきたことで、道徳ノートに愛着を持ち、進んで書く活動に取り組めるようになった。
- 全体で話し合っている時に、板書を写すことに集中してしまう児童が見られた。ノートを書くタイミングや速度については指導していきたい。

(3)「道徳的価値への自覚を促す『学び合い』の工夫(手立て3)」について

- 席を離れて自由に意見を交流する場面を設けたことで、友達の考えを参考にしながら自分の考えを再度見直したり、新たな考えを生み出したりしている児童が見られた。
- 全体での話し合いの中で、自分の考えだけでなく「学び合い」で交流した友達の考えを紹介する児童がみられるなど、教師と児童のやり取りだけでなく、児童の考えをつながげながら展開することができた。
- 本時の展開が一目でわかるような板書にするために、文字の大きさや色、スペースの空け方などをさらに工夫したい。

(4) その他

- 資料の時代背景について事前に確認しておいたことにより、卵の価値や風呂焚きの大変さ等についての説明を省くことができ、スムーズに授業を展開させることができた。
- 「お手伝いレベル」をA～Sまで設定したことで、本時のねらいである「家族の一員としてどのような気持ちで手伝ったらいいのか」を考える有効な手がかりとなった。

道徳教育全体計画

小野新町小学校 道徳部

教育目標

考える子ども…自ら考え工夫する
 明るい子ども…思いやりの心をもち協力し合う
 強い子ども…たくましく元気

道徳教育の目標

本校の教育活動全体を通して、人間尊重の精神を基盤として、人間性豊かな心身共に調和のとれた健全な児童の育成にあたる。

1. 生命を尊び、健康・安全に心がける子ども
2. 礼儀正しく、公德を守り、節度ある生活をする子ども
3. 家族や友達を大切に思いやりのある子ども

各学年における指導の重点

	指導の重点	指導内容	共通重点内容
低学年	○生きることを喜び、生命を大切にしようとする心情を育てる。 ○自分勝手な行動を取らずに、みんなが使う物を大切に、約束を守る。 ○気持ちのよいあいさつや言葉遣いを心がける。 ○家族の一員として家族の役に立つ喜びを知る。 ○相手のことを考え、友達に親切にする。	生命尊重 節度・節制 礼儀 公德心 家族愛 思いやり・親切	生命尊重
中学年	○生命の尊さを知り、自他の生命を大切にしようとする態度を育てる。 ○自らの行動をふり返り、節度ある行動を取る。 ○誰に対しても礼儀正しく接する態度を育てる。 ○協力し合って楽しい家庭を作ろうとする姿勢を持つ。 ○相手の立場を理解して、思いやりや親切な心を育てる。	生命尊重 節度・節制 礼儀 公德心 家族愛 思いやり・親切	節度・節制 礼儀 公德心 家族愛
高学年	○自他の生命を尊重し、かけがえない命を大切にしようとする態度を育てる。 ○礼儀作法を正しく理解し、時と場をわきまえた言動をする。 ○集団の活動に積極的に参加し、その中で自分の役割を自覚し、責任を果たす。 ○家族の幸せのために進んで役に立つことをする。 ○相手の立場に立ち、思いやりの心をもち、親切にする。	生命尊重 節度・節制 礼儀 公德心 家族愛 役割の責任と自覚 思いやり・親切	思いやり

特別活動における

集団の一員としての自覚を高め、協力してよりよい生活を気づこうとする自発的・自主的な実践活動を通して、以下のような態度や実践意欲を高めさせる。

学級活動

学級や学校の生活づくり、日常の生活や学習への適応及び健康安全。

児童会活動

集団の一員としての役割・責任と協力。

クラブ活動

相違ある活動への向上意欲、協調性。

学校行事

集団の中での個人のあり方、協力・責任、勤労などの重要性の認識。

各教科における

各教科の目標達成の中で、課題をやりぬく態度、自ら学ぶ姿勢、協力したり学び合う姿勢を培う。特に以下の内容にポイントをあてる。

国語 表現力、豊かな心情
算数 合理的な追求態度
社会 郷土を愛する心、公民的な資質
理科 生命の尊厳、自然の愛護
生活 基本的な生活態度、自立への基礎
音楽 美的情操、崇高さ
図工 美的情操と創造性
家庭 家族の一員としての役割
体育 健康・安全、集団のルール

外国語活動

国際理解・親善

学級における道徳の指導計画の作成

道徳の時間

一人ひとりの児童が道徳的価値の自覚を深め、道徳的判断力を培い、道徳的心情を豊かにすることを通して、態度や実践意欲の向上を図り、道徳実践力の育成を図っていく。

1. 共感の高理解を軸とした心のつながりを進める指導
2. 友達と高め合い、自己を見つめる場を大事にした指導
3. 道徳実践力を育成する指導

教育環境の整備

- ・魅力ある学級環境づくり
- ・環境づくりへの児童の参加

総合的な学習の時間

- ・問題を解決する資質や能力
- ・自己の生き方を考える

補充・深化・統合

道徳実践の日常化

生徒指導・学級経営

豊かな体験

ふれあい体験活動	ボランティア活動	自然体験活動	文化芸術体験活動	職場体験活動	集団宿泊活動
縦割り班清掃 あいさつ運動 6年生を送る会	落ち葉はき 小野町デイサービスセンター 訪問 雪はき	遠足 森林環境学習	鑑賞教室 小野町音楽祭	キャリア教育 キッズニア体験学習	宿泊学習 修学旅行

家庭・地域との連携

学校と家庭、地域社会が相互に連携や交流を深める場を設ける。
 通信・心のノート・家庭訪問・授業参観・学校行事への参加を通して

(2)道徳の指導計画

第3学年

主 題 配 当 表

第5学年

計画作成上、特に工夫配慮した事項

命の大切さを知り、礼儀正しく集団や社会のきまりを守り、相手の立場を理解して、信頼し助け合いながら、親切な行為を自ら進んで行うことができるよう、それらの価値を扱う時間を多く配当した。

月	主 題 名	時数	消耗品、教材・教具		講師等	活動場所	その他
			私費負担品	公費負担品			
4	◎きまりのある生活(あつしの計画ひょう) 1-(1) ○きまりはなんのために(きまりじゃないか) 4-(1) ◆ ○真心からの行い(ぬれた本) 1-(4) 「心」	3		道徳副読本		教室	
5	◎真心を込めて(あいさつをすると) 2-(1) ○正しい心、強い心(二つの声) 1-(3) ○つながる命(ヌチヌグスージ(命のまつり)) 3-(1)	3		道徳副読本		教室	
6	○親切っていいな(やさしい人大さくせん) 2-(2) ○ほんとうの友達(なかよしだから) 2-(3) ○自然の大切さ(ホテルの引こし) 3-(2) ☆ ○くじけない心(まけるものか) 1-(2)	4		道徳副読本		教室	
7	○日本のよさ(ぼくのおべんとう) 4-(6) ◇ ○人のために(ことぶき園に行ったよ) 4-(2)「心」 ◆CA ○温かい家族(プレゼント) 4-(3)文3	3		道徳副読本		教室	
8	◎礼儀正しい振る舞い(言葉のまほう) 2-(1)文3	1		道徳副読本		教室	
9	◎みんなで守る命(健ちゃんをたすけろ) 3-(1) ○働くことの大切さ(公園ボランティア) 4-(2) CA ○励まし合う友達(いいち、にいつ、いいち、にいつ) 2-(3)	3		道徳副読本		教室	
10	◎困っている人のために(ぼくたち、手つだいます!) 2-(2) ◎計画的に行動する(ゆうすけの朝) 1-(1) ◎尊敬の気持ちを持って(大通りのサクラなみ木) 2-(4) ◎自分の心への誠実(与作のカキの実) 1-(4)	4		道徳副読本		教室	
11	○気持ちをこめて(手紙を書くね) 2-(1)文3 ○みんなの使うもの(黄色いかさ) 4-(1) ◆ ○温かい家族(ぼくのおばあちゃん) 4-(3)	3		道徳副読本		教室	
12	○自分らしさ(じゃがいもの歌) 1-(5) ○めあてに向かって(ーりん車にのれた) 1-(2) ○美しくやさしい心(しあわせの王子) 3-(3)	3		道徳副読本		教室	
1	◎命を大切に(いただいたいのち) 3-(1) ○みんなが使う場所(あめだま) 4-(1)	2		道徳副読本		教室	
2	○よく考えて(だれにも言えない) 1-(1) ○みんなクラスのなかま(くうちゃんの絵) 4-(4) ○わたしたちのふるさと(ふるさといいとこさがし) 4-(5)	3		道徳副読本		教室	
3	◎温かな心(六べえじとちよ) 2-(2) ○友達のよさ(たまちゃん、大すき) 2-(3) ◎明るい家庭(耳の聞こえないお母さんへ) 4-(3)	3		道徳副読本		教室	
時数計		35 時間					

◎重点価値 ●郷土資料 「CA」…キャリア

「栄」…学校栄養士との連携 「養」…養護教諭との連携 「◇」…国際理解 「☆」…環境 「★」…性 「◆」…人権 「▽」…食 「▼」…情報

【県南地区】白河市立白河第三小学校



推進校紹介④

1 学校概要

学校名	白河市立白河第三小学校
所在地	白河市寺小路64番地2
校長名	鈴木 且雪
学校の教育目標	「自分に問いかけ 進んで考え行動する 心も体も健康で明るい子ども」
学級及び児童数	21学級 540名 (内 特別支援学級3 児童数11名)
道徳教育にかかる取組みの概要	○ 学び合い、支え合う学級をもとに、学校全体で道徳的実践力を育成する。 ○ 縦割り班活動を生かし、やさしさと思いやりの心を育む。 ○ 家庭や地域と連携を図っていく。

2 研究テーマ

自分に問いかけ、自己客観性を磨き、道徳的実践力を高める授業の工夫

3 テーマ設定の理由

本校教育目標具現化の視点から

本校では、徳育の基本目標として「礼儀正しく思いやりのある子ども」を掲げている。そのめざす子ども像を具現化するためには、道徳教育の充実が基盤となる。道徳の時間の授業の質を高めるとともに、豊かな心を育むことが重要と考える。

豊かな心の育成には、児童自らが自分に問いかけ、自分自身をよく知り、高い目標に向かって努力することができるように、児童一人ひとりが所属感や自己肯定感、達成感を実感できる教育活動の展開が重要とされる。また、「支え合う学級」づくりによる支持的風土の醸成や、縦割り班活動の異学年交流を通した、人を思いやる心の育成など、集団活動の充実も必要不可欠なものである。

これらを踏まえ、道徳の時間の授業充実を図るとともに、各教科及び総合的な学習の時間や特別活動との関連を図りながら、道徳的実践力の育成に努めていくことが重要と考え、本テーマを設定した。

4 研究計画

時 期	内 容
6月12日 ～7月12日 ～6月14日 7月10日 8月23日 8月28日 9月20日	第1回校内推進会議の開催 研究計画作成 i－チェックの実施 全校道徳授業参観（保護者参観日に実施） 道徳授業案検討会 i－チェック結果による学級の実態把握 第1回校内道徳授業研究（講師招聘） （講師： 藤田克彦 先生）
10月11日 10月17日 12月 5日 12月19日 1月～	道徳部会の開催 第2回校内道徳授業研究（地区小教研 秋の半日研修を兼ねる） 第2回校内推進会議の開催 反省と改善 実践のまとめ作成・校内全体会
年間を通して	道徳資料の改善・開発 道徳年間指導計画の改善 道徳全体計画の改善

5 児童生徒の実態及び地域の課題

本校は児童数540名の大規模校である。全体的に元気で明るく、伸び伸びとしている。陸上部、器楽部、合唱部などが活発に活動しており、部に所属して自分の得意な分野で積極的に力を発揮している児童が多い。また、学校行事などでは学級で協力して取り組んだり、縦割り班で仲良く活動したりしている。反面、規範意識が低い姿も時折見られ、校舎内の過ごし方や放課後の過ごし方については、教師の指導が必要な場面もある。さらに、友達関係で困難な場面になると、解決できずに気持ちが不安定になり、登校をしぶったりグループ活動ができなくなったりする児童もいる。

地域は、白河市内の中心からやや東に位置するが、大きく分けると、古くから白河提灯祭りの担い手である伝統ある地域と新興住宅地に区分される。2年に一度の白河提灯祭りでは、大人の指導のもと児童が熱心に練習に取り組み、祭りに参加して地域を盛り上げている。また、地域では、「見守り隊」が活躍し、児童の登下校の安全を見守りながら、元気な挨拶をしたり交通ルールを守ったりできるように働きかけている。そのほかの地域住民も児童の様子をよく気にかけており、問題行動などがあった場合、学校へ連絡があり、迅速な対応につながっている。

保護者は、学校に対して協力的であり、学習内容や児童の友人関係に関して関心が高い。一方で、就学援助を受けている実家庭は全体の17%にのぼり、経済的に余裕がなく、子育てに十分に関わっていない保護者もいるのが実情である。

このような実態を踏まえ、児童が自分に問いかけ、客観的に自己を見つめ直し、よりよい自分を目指して学び続ける力を育成していきたいと考える。

6 道徳教育における校長の指導方針 (資料1)

- (1) 教育目標＜自分に問いかけ、進んで考え行動する、心も体も健康で明るい子ども＞から、道徳教育の基本を押さえる。
- ① 本校の教育目標について、今年度は「自分に問いかけ」という理念を加え、児童が自らの行動や活動について主体的に見つめ、更によりよい自分になるために能動的に自己に関わることを大事にさせる。
 - ② 「心が健康である」ということはどのような心の状態なのかということ、学年の発達段階に応じて問い返しを行わせ、自分自身の心の健康について考えさせる。
- (2) 学校経営構想から、道徳教育の基本を確認する。
- ① 徳「優しさと思いやりのある、心豊かな子どもを育成する。」について、特に道徳教育の充実を期して、道徳の授業の質を高め、多様な人との関わりを通して、思いやりの心を育成することを確認し実践にあたる。
 - ② 意「主体的に行動し、自分を高めようとする子どもを育成する。」において、自己客観性の育成を目指し、学校教育の全てにおいて自分自身にきちんと向き合うことにより、自分をよりよくしていこうとする心の育成を期することを学校全体で確認して取り組むようにする。
- (3) 学校教育の基本として「心を育てる」という視点を重視する。
- ① 道徳は、各教科の授業と同様に重要なものととらえ、教育活動の柱の一つとする。
 - ② 学力や体力の向上の基礎となるのは、心の成長であるということを常に大事にしながら指導にあたる。

7 平成25年度 道徳教育の全体計画の特徴 (資料2)

本校の教育目標から道徳教育重点目標を設定している。また、低・中・高学年別重点目標は、前年度の教育課程編成会議や児童の実態などから毎年見直しを図り、設定している。また、各教科や領域、環境整備等との関連を明記している。

8 平成25年度 道徳の時間の年間指導計画の特徴 (資料3)

主題名と資料名を明記しており、重点的に指導する主題名には●、情報モラルに関連する主題名には(情)、生徒指導と関連するものには(生)と表記している。更に、心のノート対応ページを記述して、活用が図れるように工夫している。

9 平成25年度 学級における指導の計画の特徴 (資料4)

児童の道徳性の実態とめざす児童の姿から、実践事項を明らかにしている。また、具体的な指導の重点に合わせて学期ごとの評価の欄を設け、実践と反省、改善に向けた取り組みが行われるように配慮している。

10 道徳教育推進教師等における実践レポート

本校は、平成25年度に西白河地区小学校教育研究会道徳部会の授業提供校（「秋の半日研究協議会」）となったため、小学校教育研究会の研究内容とリンクした実践研究を進めてきた経緯がある。

（１）道徳教育の指導計画の作成に関すること

年度当初に道徳部会を開催し、昨年度の成果と課題を踏まえた道徳教育年間指導計画の共通理解を図った。特に、児童の実態を考慮して設定した「重点価値」を確認し、年間を見通した実践ができるようにした。

- 【重点価値】
- 1の（２） 勤勉・努力
 - 2の（２） 思いやり・親切
 - 3の（１） 生命の尊重
 - 4の（１） 公徳心・規則の尊重

（２）道徳教育の情報提供や情報交換に関すること

西白河地区小学校教育研究会の代表として県大会に参加し、県全体の研究の方向性を見据えた上で、授業実践を提供することができた。特に、子どもの心を揺さぶる発問の工夫として提唱されている「テーマ発問」を導入した指導展開を公開し、問題提起をすることができた。

また、指導案については小教研夏の研究協議会において協議の場が設けられた。各学校の道徳部員の意見交換から様々な展開案が出されることとなり、各人の研修のみならず、地区内の横の連携を深めることができた。

（３）授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること（資料5）

本校では、7月の授業参観は全学級で道徳の授業を公開している。同じ内容項目について、学年の共同研究による授業公開をしたり、同じ資料を活用しながら各自で展開を工夫したり、同月に配当されている内容項目を学級ごとに変えて授業公開をしたりするなど、教師集団のバラエティに富んだ研究実践へとつなげることができた。

さらには、この授業公開を通して、保護者や地域住民の理解と協力を得ながら、双方向の連携において道徳教育の推進を図ることができた。

（４）道徳教育の研修の充実に関すること

校内研究としては、全職員が指定授業を参観し、基本的な道徳の時間の指導について共通理解を図った。また、同日に講師を招聘し、「道徳教育に携わる教師の姿勢」と題した講義を受け、道徳的実践力を高める授業についての研修を深めることができた。全職員が、道徳の基礎・基本に触れることで、授業の進め方等に共通の関心や問題意識をもって臨もうとする、よい契機となった。

1 1 道徳の時間にかかる資料

【第1回 校内道徳授業研究】 (資料6-①)

第5学年 主題名：人々の支え合い 2-(5) 尊敬・感謝

資料名：やさしい人たち 『みんなで考える道徳5年』(日本標準)

<授業に関する主な成果と課題>

(1) 資料の読み取りについて

- 発問を精選することで児童の多様な考えが出され、本時のねらいとする価値に気付かせ、展開後段へとつなげることができた。
- 資料に入り込むための手立てがあると、さらに主人公の気持ちに寄り添って考えることができ、さらに多様な考えも生まれるのではないかと考える。

(2) 展開後段の工夫について

- 心のノートを活用して、自分の立場を明確にして話し合う時間を設定した。自分に問いかけたり、友達の話の聞いたりして、ねらいとする価値について考えることができた。
- 児童同士で話し合っ価値を深める際に、たくさんの考えを引き出すのではなく、葛藤する内容を取り上げていくことで価値をさらに深めることができたと考える。

【第2回 校内道徳授業研究】(地区小教研「秋の半日研究協議会」を兼ねる) (資料6-②)

第5学年 主題名：「いじめ」を考える 2-(3) 信頼・友情と男女の協力

資料名：からかっただけなのに・・・ 『みんなで考える道徳5年』(日本標準)

<授業に関する主な成果と課題>

(1) 「テーマ発問」の試みについて

- 従来の「場面発問」ではない指導法に挑戦することができた。「気になったこと」を問うことで、子どもたちは資料の全体像から中心価値に迫ろうとする姿勢がうかがえた。
- 全ての資料に活用できるわけではないので、資料の吟味と展開の工夫に配慮しながら、子どもが深く考えることのできる発問を追究していきたい。

(2) 展開後段の工夫について

- 言語活動として書く活動を設定した。自分の立場を明確にしながら、自分自身に問いかける有効な時間として働いた。
- 葛藤場面をつくり、揺さぶりをかける発問で話し合わせる場合、その「引き際」が重要と考える。教師の意図する終末を迎えさせるには、話し合いの方向性を見極めて、切り替えるようにしたい。

1 2 平成26年度 道徳教育全体計画の特徴 (資料7)

本校では平成25年度に学校教育目標を改訂し、児童が自分自身を深く見つめ、正しい判断力を身につけ、よりよく生きていこうとする態度の育成に取り組むこととした。この理念の下に学校の全教育活動に取り組む上で、道徳の時間の果たす役割は大きく、重要であり、理念が教育活動に浸透するように推進する必要がある。そのため、学校教育目標と道徳教育目標、各学年で取り扱う重点価値、そして各教科を始め各領域で高めていく道徳的価値とのそれぞれの関連が明確になるよう全体計画の見直しを図った。

1 3 平成26年度 道徳の時間の年間指導計画の特徴 (資料8)

これまでの主題名と内容項目、関連する心のノートのページを明記することに加え、新たに関連する学校行事や諸活動を明記するように改善した。このことにより、道徳の授業で培った道徳的心情や道徳的判断力が、確かな実践意欲や態度として発揮できる場を児童に自覚させるとともに、教師が道徳の内容との関連で学校教育をとらえ、効果的・具体的な指導にあたることができるようにした。

1 4 成果と課題 (○成果 ●課題)

本校教育目標具現化の視点から「自分に問いかけ、自己客観性を磨き、道徳的实践力を高める授業の工夫」というテーマを設定し、取り組んできた。以下の3つの観点から本年度の成果と課題をまとめた。

(1) 所属感や自己肯定感、成就感を実感できる教育活動の展開

- ミュージックフェスティバルや持久走記録会などの行事を通して、目的を理解させ、目標をもたせ、意欲を高めながら取り組ませてきた。協力する心や最後まで努力する気持ちが育ってきた。
- 一つ一つの行事を通して、個のよさを認めながら声を掛けていくことにより、集団の一員であるという自覚が高まり、児童の心や集団全体としての心の成長が見られた。
- 「自分に問いかける」をキーワードとして個人への指導だけでなく、学年集会等においても取り上げた。児童は意識して自己を振り返る機会を持つことができた。
- 個人差があり、まだ十分に自分で善悪の判断ができない児童もいる。正しい判断と行動について一つ一つ具体的に指導することもあった。よりよい自分を常に目指そうとする気持ちを高めさせる指導法を工夫していくことが必要である。

(2) 道徳の授業の質の向上と多様な人との交流による思いやりの心の育成

- 校内授業研究会や講演会を通して多くのことを研修することができた。研修から得たことを道徳の授業に生かすように努めてきた。
- 「場面発問」ではなく「テーマ発問」を試みたことで、児童は資料全体から中心価値に迫ろうとする意識をもつことができるようになってきている。
- 「昔遊び交流会」や「町探検」などで、地域の方や保護者と関わる機会を多く設けることができた。その中で、人との関わり方や礼儀作法を身に付けたり周りの人々への感謝の心を学んだりすることができた。
- 縦割り班活動など異学年間の交流を通して、下学年へ優しく接している様子が多く見られた。また、特別に支援が必要な児童に対して理解を示したり協力したりする児童が多くなった。
- 授業は副読本による読み物資料が中心になりがちであった。児童の内面により迫るために工夫のある授業展開が必要であった。また、主として他の人との関わりに関することに比べ、主として自分自身に関することについては、本音が出にくいことから、更に授業展開に工夫が必要である。

(3) 各教科及び総合的な学習の時間、特別活動との関連を図った道徳的实践力の育成

- 総合的な学習の時間では、実践力を高めるため、グループ活動を多く取り入れて活動した結果、相手のことを思いやる気持ちや助け合う姿がみられた。
- 学級活動の時間等も利用して励ましたり称賛したりすることによって、トイレのスリッパを次に使う人のことを考えて揃えるなどのことができるようになってきている。
- 児童が善い行いをした時に、それを教師が紹介するタイミングがうまくいかなかった。学年フロアにあるホワイトボードに、よい行いをした児童を紹介する等、児童が称賛される場を設定することで道徳的实践力を育てていきたい。

白河市学校教育重点施策
 ○ 確かな学力の向上
 ○ 豊かな心の育成
 ○ 健やかな体の育成
 ○ 各種教育活動の充実

平成25年度 白河第三小学校 学校経営構想

教育目標 自分に問いかけ 進んで考え行動する 心も体も健康で明るい子ども

教師としての構え
 常に自らを高めようとする熱意
 子どもにも求めるものは、教師にも求められる

めざす子どもの姿

知 主体的に学ぶ子ども
 徳 礼儀正しく思いやりのある子ども
 体 いのちを大切に自ら鍛える子ども
 意 常に自分を高めようとする子ども

◇ 児童の願い
 ・ 勉強ができるようになりたい
 ・ 楽しい授業をしてほしい
 ・ 行きたくなる学校にしたい

◇ 保護者の願い
 ・ 学力を確実に身につけてほしい
 ・ 優しさや思いやりを育んでほしい
 ・ 明るく健康な子どもに育ってほしい

知：主体的に学び、確かな学力を身に付ける子どもを育成する

- (1) 日々の授業の改善充実
 - ① 主体的な学習態度の育成
 - ② 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着
 - ③ 学習意欲、追究意欲の高揚
 - ④ 学び合いの質の向上と、確かな学力の育成
 - ⑤ 学び合いの基礎となる「支え合う学習」作りの推進
- (2) モジュール学習の充実
 - ① 集中力の育成による学びの基礎作りの推進
 - ② 6年間を見通した内容作り
 - ③ 取り組みの成果確認と、取り組む意欲が高まる工夫
- (3) 定着の時間の充実
 - ① 自ら学習内容を獲得しようとする意欲の向上
 - ② 一年間を見通した計画的な取り組みの工夫
 - ③ 定着の確認による達成感の確保
- (4) 漢字前倒し学習の充実
 - ① 読める、書ける、使える
 - ② 漢字前倒し学習の質の確保
- (5) 学習環境の整備
 - ① 知的好奇心を高める環境作り
 - ② 学び合いを高めるのに役立つ提示の工夫
 - ③ 学習の成果や取り組みが見える環境作り

学校とは
 子どもが育つことを通して、保護者も教師も育つところである。

徳：優しさと思いやりのある、心豊かな子どもを育成する

- (1) 道徳教育の充実
 - ① 道徳の授業の質を高める
 - ② 縦割り班などの多様な人との関わりによる思いやりの心の育成
 - ③ 豊かな体験を生かした道徳的な実践力の育成
 - ④ 「華行賞」による、進んで善い行いをしようとする心の育成
- (2) 規範意識の向上
 - ① 自分の言動について、自ら振り返る学習の醸成
 - ② きまりを守ることの大切さが実感できる工夫
 - ③ 主体的な生活態度の育成
- (3) いじめ、不登校への積極的な対応
 - ① 早期発見、早期対応に努め、学校全体での組織的な対応
 - ② 学級担任や養護教諭、スクールカウンセラーによる相談活動の充実
 - ③ 「かえって子宣言」の徹底と自ら実践しようとする意欲の向上
- (4) 集団活動の充実
 - ① 「支え合う学級」作りによる支持的風土の醸成
 - ② 縦割り班活動を通して、人を思いやる心の育成
 - ③ 清掃活動を通して、人のために自分を役立てる心の育成
- (5) 読書活動の推進
 - ① 朝の読書活動を通して、自ら進んでよい本に親しむ習慣作り
 - ② 保護者等の協力による、読み聞かせ活動の実施
 - ③ 学校図書館や市立図書館の積極活用

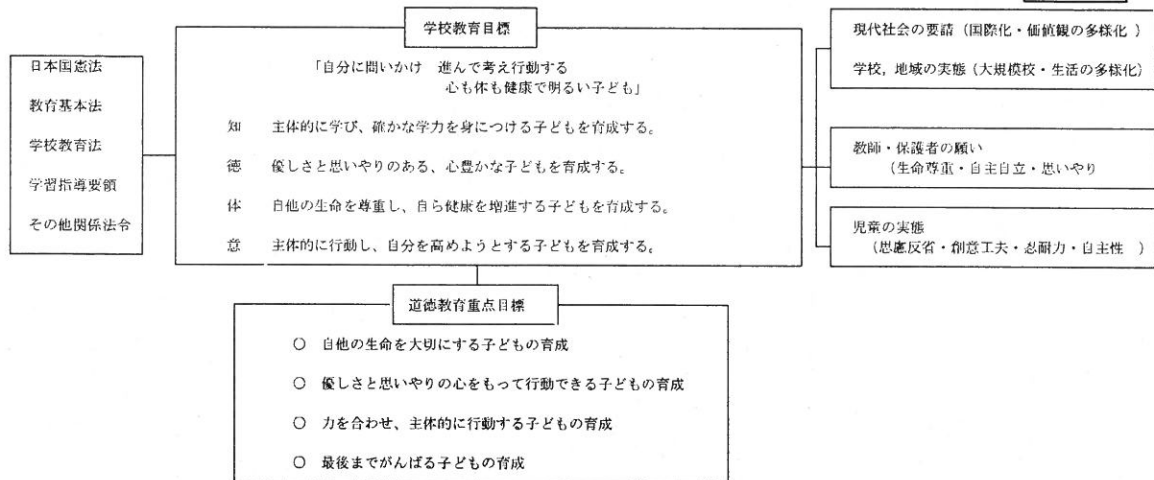
体：自他の生命を尊重し、自ら健康を増進する子どもを育成する

- (1) 基礎体力の向上
 - ① 体育の時間の運動量の確保と、質的な充実
 - ② 朝のマラソンや縄跳びを通して、自ら体力を高める意欲の育成
 - ③ 体力・運動能力検査の結果を踏まえ、指導の重点化
- (2) 健康教育の充実
 - ① 自らの健康や安全について主体的に考え、実践する態度の育成
 - ② 栄養教諭や養護教諭との連携による食育の推進
 - ③ 食後の歯磨きなどによる虫歯予防と、う歯の治療率向上の工夫
 - ④ けがをしたり事故に遭ったりしないようにするために自分から気をつける力の向上
- (3) いのちの授業の実施
 - ① 助産師等の外部講師と連携した、いのちの大切さを学ぶ機会の設定
 - ② 道徳の授業や学校教育全体を通して、いのちの大切さの指導充実

意：主体的に行動し、自分を高めようとする子どもを育成する

- (1) 自己実現の場の設定
 - ① 自らの目標の設定と、達成に向けた取り組みの充実
 - ② 学校行事や各種コンクール等の活用による、よりよい自己実現の場の設定
- (2) 児童会活動・係活動の充実
 - ① 児童会活動を通して、主体的取り組みの充実
 - ② 委員会活動や学級の係活動への積極的取り組みによる、人のために自分を立てる心の育成
- (3) 特設部活動の充実
 - ① 特設部の活動による、自分を高めようとする意識の高揚
 - ② 目標に向かって地道に努力することの大切さの指導充実
- (4) 自己客観性の育成
 - ① 学校教育の全てにおいて、自分に問いかけて自分自身にきちんと向き合うことにより、自分をよりよくしていくとする心の育成

「生きる力」
 いかに社会が変化しようとも、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性であり、たくましく生きるための健康や体力



低・中・高		学		年		別		重		点		目		標	
低	◎ 自分がやらなければならない勉強や仕事はしっかりと行う。 ◎ 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。 ◎ 生きることを喜び、生命を大切にすることを待つ。 ◎ 約束や決まりを守り、みんなが使うものを大切に使う。	中	◎ 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。 ◎ 相手のことを思いやり、進んで親切にする。	学	◎ 生命の尊さを感じ取り生命あるものを大切にすること。 ◎ 約束や社会のきまりを守り、公徳心を持つ。	年	高	◎ より高い目標を立て、希望と勇気をもつてくじけないで努力する。 ◎ だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立つて親切にする。 ◎ 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。 ◎ 公徳心を持って法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。	学		年				

道徳の時間に着点的に取り組もう		道徳的価値	
低	○ 自分がやらなければならない勉強や仕事はしっかりと行う。 1の(2) 勉強・努力	中	○ 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。 1の(2) 勉強・努力
学	○ 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。 2の(2) 思いやり・親切	学	○ 相手のことを思いやり、進んで親切にする。 2の(2) 思いやり・親切
年	○ 生きることの喜び、生命を大切にすることを待つ。 3の(1) 生命の尊重	年	○ 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にすること。 3の(1) 生命の尊重
高	○ 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。 4の(1) 公徳心・規則の尊重	高	○ 公徳心を持って法やきまりを守り、自他の権利を大切にし進んで義務を果たす。 4の(1) 公徳心・規則の尊重

豊かな心を持ち、道徳的実践力の育成を図る。

各学年別活動表

各学年別活動表	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	工芸	家庭	体育
豊かな心 思考力 話す力 聞く力 読解力 表現力	郷土愛 創意進取 勤労 愛国心 社会規範 国際理解	合理性 論理的思考 探求心 数理的处理	理尊重 自然、動物 愛護 探求心 思いやり 敬虔	基本的生活習慣 社会規範 自立心 探究心 生命尊重	美的情操 美的情操 個性尊重	美的情操 創意工夫 創造性	家庭 礼儀 健康安全 創意進取	協力的 規律 忍耐力 健康安全 進取 生命尊重	

総合的な学習の時間

道徳性を生かした問題解決学習
(体験活動を生かして)
・自主性 ・社会性 ・探求心
・郷土愛 ・生命尊重・動物愛護
・社会規範

学年別活動表	学級活動	児童会活動	クラブ活動	学校行事
協力性・協調性 進取 個性伸長 思いやり 自主自立 話し合いの仕方 健康安全	実務的態度 思いやり・愛校心 創意進取 計画性 勤労奉仕 規則尊重 公平公正	個性伸長 協力性 協調性 思いやり 創意工夫 自主自立	豊かな体験活動 社会的役割 規律・協力性・礼儀 責任 主体的参加態度 尊敬感謝・いたわり 郷土愛・思いやり	

生徒指導

道徳実践・判断力
正しい価値観
基本的生活習慣
相互理解・信頼感
思いやり

家庭・地域との連携

家庭教育力の向上 学年通信
全校道徳授業参観日 懇談会に
道徳的意識の向上 によって
道徳教育への理解と協力
基本的生活習慣の徹底

近隣幼小中学校との連携

・白河市青少年健全育成会議
・地区生徒指導協議会 ・地区学警連
・集団登校指導・交対協・交通安全指導

授業内容表

◇勤労の尊さを知り、愛校心を持って環境美化に努める態度を育てる。(花壇作り、学校園、奉仕活動)

◇掲示板及び掲示資料の充実(学級目標やきまりの掲示、児童の考えや意見に関する表示等)

◇異学年交流により児童相互、児童と教師との望ましい人間関係の育成に努める。(授業、休み時間、縦割りによる清掃活動。)

道 徳			
努力事項 及び計画 作成上特 に工夫・ 配慮した 事項	○ 児童や学校の実態、今日的な課題を踏まえ、指導内容を重点化すると共に、他の教育活動との関連を図り、内面に根ざした道徳性を培うことができるように主題の配当を工夫する。		
	・ 児童の実態を考慮して重点価値を定め、望ましい道徳性が育成できるように、主題を配当した。●は重点的に指導する主題名（ ）は資料名 (情)・・・情報モラルとの関連 (生)・・・生徒指導との関連		
月	主題名(資料名)・指導内容	時数	心のノート
4	● 目標をもって(日付とコトバ) 1 - (2) ○ 地域の一員として(ごみ出しまかせて) 4 - (3) ○ 前向きな心(だから私はがんばれる!) 1 - (4)	3	まじめであることはわたしのほこり P 24~27
5	○ いろいろな自分を伝えあう(自分の気持ちおしゃべりしあおう) 1 - (6) ● 今、自分のやりたいこと(目の前にあることを一生懸命やる) 1 - (2) ○ 自分にふりかかる責任(インターネットの掲示板)(情) 1 - (3) ○ 本当の友情とは(ロレンゾの友だち) 2 - (3)	4	夢に届くまでのステップがある P 16~19
6	● 身近な人の命への思い(涙そうそう) 3 - (1) ○ 共に生きる(世界がもし100人の村だったら) 4 - (8) ○ 自分をみつめ直して(キッパリ!自分を変えよう) 1 - (1)	3	いきいきしている自分 かがやいている仲間 P 88~91
7	○ 祭りへの思い(よみがえった立ねぶた) 4 - (7) ○ 困っている友だち(今、いちばん苦しんでいるのは...) 2 - (4) ○ 平和な世界のために(二十一世紀をにう若い人たちへ) 4 - (4)	3	見つめようわたしのふるさと そしてこの国 P 104~107
8	○ 世界平和への思い(科学は平和のためにある) 4 - (8)	1	心は世界を結ぶ P 108~111
9	● 相手の気持ちを考えて(積極的に話そう) 2 - (2) (生) ● けん命に生きるすがた(エイズと闘った少年の記録) 3 - (1) ○ ほんとうに必要なものとは(「ほしい」ってなに? 「必要」ってなに?) 1 - (1)	3	
10	○ 相手の気持ちを理解する(積極的に聞こう) 2 - (3) ○ 自分らしく生きる(オトちゃんルール) 1 - (6) ● 相手の立場に立って(しらんぷりはできないよ) 2 - (2)	3	自分をみつめがきをかけよう P 32~35
11	○ うやまう気持ち(コタンに生きる) 3 - (3) ○ 礼儀の意味(親しき仲にも礼儀あり) 2 - (1) ○ 家族への思い(まゆみちゃんと私) 4 - (5)	3	大いなるものの息づかいをきこう P 72~75 心と心をつなぐネットワーク P 40~43
12	● やらなければならないことは(どうして、学校へ行くのかな?) 4 - (1) ○ 人のためにできること(助け合って生きる) 4 - (4) ○ 自然の中の命(サケの一生) 3 - (2)	3	働くってどういうこと? P 92~95 生きているんだね自然とともに P 68~71
1	○ 自分にできること(人と人をつなぐ地域通貨) 2 - (5) ○ 日本のよいところ(目ざめよ日本) 4 - (7) ○ 自分の責任(犬と私の10の約束) 1 - (3)	3	「ありがとう」って言えますか? P 56~59 見つめようわたしのふるさと そしてこの国 P 104~107
2	○ 正しいと思うことを伝える(こんなとき、どうする?) 4 - (2) ○ 事実を見つけ、工夫する(木のいのち) 1 - (5) ● 社会の一員として(落書き) 4 - (1)	3	
3	● 生命の不思議(ヘソのお話) 3 - (1) ○ 地球を守るために(地球があぶない) 3 - (2) ○ 出会った人たちや学校への思い(卒業まで五十日) 4 - (6)	3	いま生きているわたしを感じよう P 64~67 生きているんだね自然とともに P 68~71 学び合う中で P 100~103
時数計		35	

学年目標

だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。

児童の道徳性の実態

- ・明るく元気なあいさつをすることができる。
- ・他との違いを意識して、自分の考えを明確に話す児童が増えてきた。
- ・命の大切さを理解はしているが、軽率な行動で危険な状況になることがある。

めざす児童の姿

- ・自他の命を大切に子ども
- ・友達の立場や気持ちを考えて、思いやりのある行動ができる子ども
- ・自分を客観的に見つめ直し、適切な目標を立てて努力をすることができる子ども

めざす児童の姿にせまるための実践事項

- ・授業において、自分の立場を明確にした「学び合い」の充実を図る。
- ・支持的風土をもつ学級集団を形成するために、友達の良さを認め、互いを励まし合う場を帰りの会に設ける。
- ・学級への所属感を高める手だてとして、学級活動の一環で寸劇やスピーチなど、アイディアを生かして表現力を磨く機会を確保する。
- ・道徳的な価値につながる内容や学級全体で考えたい事を、「学級づくりキーワード」として掲示する。

指導の場面	具体的な指導の重点	評価 (◎○△)		
		1学期	2学期	3学期
1 道徳の時間	○ 価値に照らし合わせて自己を見つめさせ、道徳的実践力を育てる。 ○ 教科、特別活動との関連を図り、体験活動を重視した指導・支援を工夫していく。			
2 各教科特別活動	○ 自分の考えを話したり、人の話をよく聞いたりする態度を身につけさせ、相互の心のふれあいを通して豊かな心情を育てる。			
3 総合的な学習の時間	○ 協力して活動することを通して、思いやりの気持ちや友達との信頼関係を育てる。 ○ 課題追究活動を通して、自己決定力を育てる。			
4 生徒指導	○ 児童とのふれあいの場を多く持ち、児童相互及び児童と担任の信頼関係を深めるとともに、一人一人の児童理解に努める。 ○ 学校生活への適応や自己実現に関する支援を心掛ける。			
5 学級環境整備	○ 整理整頓に心掛けさせ、気持ちの安らぐ教室にする。 ○ 植物や生き物を育て、季節感や愛護する気持ちを育てる。			
6 基本的生活習慣	○ 時と場に応じたあいさつができるようにする。 ○ 健康安全のための決まりを守り、行動できるようにする。			

道徳授業参観 主題名・ねらい 一覧

保護者に配付する「授業参観のしおり」には、以下の文章を添えてある。

「心を育む学習です。保護者の皆様も一緒に心について見つめていただければありがたいと思います。」

年	組	担 任	主 題 名	本 時 の ね ら い
1	1 2 3 支 支	山田 順子 武藤 涼子 大越 子 熊井 奈緒 森 孝子	おしゃべりしましょ う	話し方・聞き方のルールを知り、ル ールを守って生活を豊かにする心情を養 う。
2	1	小出 文恵	今、すぐに	自分がやらなければならない勉強や仕 事は、しっかりと行う態度を育てる。
	2 3 支	二瓶 七重 黒瀧 七重 柳生 明美	家族にありがとう	父母を敬愛し、進んで家の手伝いなど をして、喜んで家族の役に立とうとする 態度を育てる。
3	1 2 3	水戸 亜弥 遠藤 史 関根 敦子	約束を守ること	約束や社会のきまりを守り、公德を大 切にする心情を養う。
4	1 2 3	皆川 幸子 近藤 和哉 川上 希久子	こう言ってほしいな	互いに理解し、信頼し合って友情を深 めていこうとする心情を養う。
5	1 2 3	新垣 雅喜 永島 慶和 齋藤 由美	自分らしさの発見	自分の長所を知り、それを伸ばしてい こうとする態度を育てる。
6	1	鈴木 博之	感じ方が変わるか な？	差別や偏見をもたずに他者を受け入れ ようとする心情を養う。
	2	高橋 諒久	共に生きる	世界には自分と異なる立場の人がいる ことを理解し、世界の人々の平和と幸せ のために努力しようとする心情を養う。
	3	岡田 征之	自分を見つめ直して	自分自身を見つめ直し、自分を高めよ うとする心情を養う。
あ お ぞ ら	担 支 支	菊池 薫子 菊地 輝子 斎須 美智子	「ありがとう」と「ご めんなさい」	「ありがとう」や「ごめんなさい」を 使う場面をふり返り、気持ちが伝わる言 い方や表情を考える。
わ か く さ		木村久美子	自分のことは自分で	自分でできることは自分でやり、節度 のある生活をしようとする態度を育て る。
たん ぼ		鈴木 綾華	お世話になった人 にお礼を言う	1学期にお世話になった人へ手紙を書 くことを通じて、感謝の気持ちをもつこ とや伝えることの大切さに気付く。

3 ねらい

日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえようとする態度を育てる。

4 展開

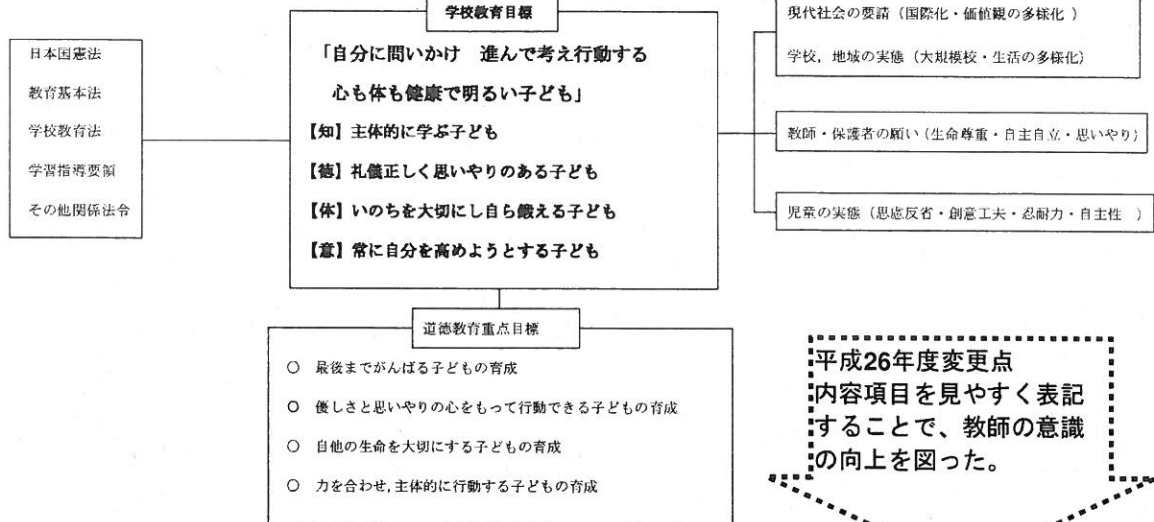
段階	学習内容・活動 ○基本発問 ◎中心発問 ・予想される反応	時間 (分)	○指導上の留意点 ◇評価
導入	1 どれくらいの人々が親切にしてあげたり、親切にされたりした経験があるのか知る。	3	○ 事前のアンケートの結果を掲示し、主題への関心を高める。
展開 前段	2 資料「やさしい人たち」を読んで話し合う。 ○ バスの中で財布をなくしたと気づいたとき、どんな気持ちだったでしょうか。 ・ バスを降ろされるかもしれない。 ・ 不安で泣きたい。 ◎ みんなから優しくしてもらったとき、どんな気持ちだったでしょうか。 ・ ホッとて、体中の力が抜けたような気持ち。 ・ みんなに感謝している気持ち。 ○ 財布が見つかったとき、どんなことを考えたでしょうか。 ・ 世の中には優しい人がたくさんいるんだな。 ・ 自分も進んで人のために何かしてあげたい。	17	○ どうしていいのか分からず不安になった主人公の気持ちをつかませるようにする。 ○ 親切にされてうれしかった主人公の気持ちをつかませると同時に、自分に優しくしてくれた多くの人々に心から感謝していることに気づかせるようにする。 ○ 自分がまったく知らない人から受けた親切に対して、主人公はこれからどうするのだろうといった、自分を主人公と同じ立場に立たせて考えさせる。
展開 後段	3 日常生活を振り返り、自分たちの体験について話し合う。 ◎ 「ありがとう」と思ったのは、どんな時誰に対してですか。 ・ 困っているとき、友達が手伝ってくれた。助けてくれた。 ・ 迷子になったとき、知らない人が一緒に親を探してくれた。 ○ これまでの生活で親切にされた時、どんな気持ちになりましたか。 ・ 助けてもらえてうれしかった。 ・ ○○がいてくれたから、苦しい状況でも乗り越えることができた。	22	○ 心のノート P56・P57 を活用して自分の「ありがとう」の思いを振り返り、全体で交流することで様々な場面で自分は支えられていることを実感できるようにする。 ○ ワークシートを活用して自分の気持ちを深化したり、友達の話を聞いて「うれしい」思いを共有したりできるようにする。 ◇ 自分が支えられ助けられながら生活していることに感謝の気持ちをもつことができている。 (ワークシート・話し合い)
終末	4 教師の話聞いてまとめる。	3	○ 学級内の出来事を紹介し、あたたかい気持ちで授業をまとめることができるようにする。

3 ねらい

相手の人格を尊重し、互いに協力し、助け合おうとする心情を養う。

4 展開

段階	学習内容・活動 ○基本発問 ◎中心発問 ・予想される反応	時間	○指導上の留意点 ◇評価
導入	1 学級内で、どんなことが「いじめ」だと思っているかについて知る。	3	○ 事前のアンケートの結果を提示し、主題への関心を高め、意欲を喚起する。
展開 前段	2 資料「からかっただけなのに・・・」を読み、登場人物の考えや行動に自分の思いを関わらせる。 ○ 資料の中で、どんなことが気になったか。 ・ 広大君がかわいそうだ。 ・ ぼくは、なぜ注意しないのか。 ・ 学級の反応も気になる・・・。 <予想される発問> ○ 登場人物の考え方や行動についてどう思ったか。 ・ 広大君はいやと言えないのかも。 ・ 海星君、幸太君は何も悪いと思っていないだろう。 ・ ぼくは、広大君の本当の気持ちを考えていない。 ◎ 「いじめなんかじゃない」というぼくの考えをどう思うか。 ・ 広大君はとても傷ついているのに。 ・ 学級の雰囲気がそうなのか。 ・ 見ているだけでもいじめと同じ。 ・ 自分がその場にいたら、ぼくと同じになってしまうかも・・・。 ○ この資料の学級に足りないものは何か。 ・ 信頼関係、友情 ・ 友達を大切に思う気持ち	20	○ 場面絵を提示して、問題意識を高めてから資料を読む。また、実物を使って、いじめ場面を演示して、可視化による鮮明な印象を与える。(※教師が被害者役となる。) ○ 場面ごとの発問だけでなく、児童の解釈や興味・関心の度合いを関わらせながら発問を構成することに努める。児童の考えた事柄を引き出す働きかけをする。 ○ 多様な意見にふれさせながら、被害者(広大君)には非はないことを明確に押さえる。徐々に傍観者(ぼく)に焦点化をして、思考の流れを追っていくようにする。 ○ 本事例がいじめかどうかや、その是非を話し合うのではないことを強調する。冒頭のアンケート結果と関連付けて、いじめと断定した上で、「傍観者の考え」について問うようにする。 ○ 傍観者の視点から物事を考えることにより、学級全体の問題としてとらえる方向付けをする。いじめ問題から、望ましい学級づくりへの転化を図りたい。
展開 後段	3 自分の生活に置きかえながら、自分の問題として話し合う。 ○ 自分の学級では、いじめが起きないようにするために、どんな気持ちを大切にしたらよいだろうか。 ・ お互いに信頼し合う。 ・ 相手の立場や気持ちを考えて。 ・ 友情、仲間を大切に。 ・ 善悪について、自分に問いかける。 ・ 学級スローガンを思い出す。	20	○ ワークシートを活用し、「このような場面」(アンケート結果)が起きないためにどんな気持ちをもつことが必要なのか考えさせる。 ◇ 信頼できる学級づくりのために、互いの立場や気持ちを考えることが大切であることに気付いている。 (ワークシート・発表)
終末	4 友達の作文を聞く。	2	○ 学級への想いを綴った作文を紹介し、互いの立場を思いやった生活を目指す、希望につながるまとめをしたい。



道徳の時間に重点的に取り扱う道徳的価値			
低学年	○ 自分がやらなければならない勉強や仕事はしっかりと行う。 1の(2) 勤勉・努力 ○ 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。 2の(2) 思いやり・親切 ○ 生きることの喜び、生命を大切にする心を持つ。 3の(1) 生命の尊重	○ 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。 1の(2) 勤勉・努力 ○ 相手のことを思いやり、進んで親切にする。 2の(2) 思いやり・親切 ○ 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。 3の(1) 生命の尊重	○ より高い目標を立て、希望と勇気を持ってくじけないで努力する。 1の(2) 勤勉・努力 ○ だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。 2の(2) 思いやり・親切 ○ 生命がかげがえのないものであることを知り、進んで自他の生命を大切にする。 3の(1) 生命の尊重
高学年	○ 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切に使う。 4の(1) 公徳心・規則の尊重	○ 約束や社会の決まりを守り、公徳心をもつ。 4の(1) 公徳心・規則の尊重	○ 公徳心を持って法やきまりを守り、自他の権利を大切にし進んで義務を果たす。 4の(1) 公徳心・規則の尊重

豊かな心を持ち、道徳実践力の育成を図る。
○道 足
○児童会総会
○運動会
○ふれあいタイム
○ボランティア活動
○水泳記録会
○宿泊活動
○見学旅行
○修学旅行
○ミュージアムスタイル
○持久走記録会
○なわとび記録会
○六年生を送る会

名	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育
教	豊かな心	郷土愛	合理性	生命尊重	基本的な生活習慣	協調性	美的情操	家庭愛	協力的
科	思考力	創意工夫	論理的思考	自然愛	社会規範	美的情操	創意工夫	礼儀	規律
	話す力	助言	探求心	動物愛護	自立心	個性尊重		健康安全	忍耐力
	聞く力	愛国心	数理的処理	探求心	探求心			創意工夫	健康安全
	読解力	社会規範		思いやり	生命尊重				創意工夫
	表現力	国際理解		敬虔					生命尊重

総合的な学習の時間	
道徳性を生かした問題解決学習 (体験活動を生かして)	
・自主性・主体性・探求心	
・環境意識・生命尊重・動物愛護	
・社会規範・伝統や文化	
外国語活動	
・他者とのコミュニケーション能力の育成	
・日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努めようとする意欲の向上	

平成26年度変更点
活動を精選し、指導が重点的に行われるようにした。

学級活動	児童会活動	クラブ活動	学校行事
4時 ・協力、協調性 ・創意工夫 ・個性の伸長	・愛校心 ・思いやり ・創意工夫 ・計画性	・個性の伸長 ・協力、協調性 ・思いやり ・創意工夫 ・自主自立	・愛校心 ・社会的役割 ・規律・協力性・礼儀 ・責任 ・主体的参加態度 ・尊敬感謝 ・郷土愛 ・思いやり
5時 ・思いやり ・自主自立	・勤労奉仕 ・規則尊重 ・公平公正		
6時 ・話し合いの仕方 ・健康安全			

生徒指導
・道徳実践・判断力
・正しい価値観
・基本的な生活習慣
・相互理解・信頼感
・優しさ・思いやり

家庭・地域との連携
・家庭教育力の向上 学年通信
・全校道徳授業参観日 懇談会によって
・道徳意識の向上
・道徳教育への理解と協力
・基本的な生活習慣の徹底

近隣幼小中学校との連携
・白河市青少年健全育成会議
・地区生徒指導協議会
・地区学警連
・集団登校指導・交対協・交通安全指導

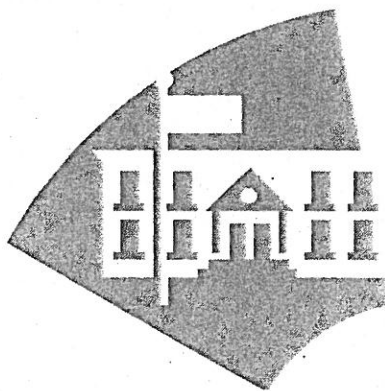
環境	◇ 勤労の尊さを知り、愛校心を持って環境美化に努める態度を育てる。(花壇作り、奉仕活動)
学習	◇ 掲示板及び掲示資料の充実(学級目標やきまりの掲示、児童の考えや意見に関する表示等)
交流	◇ 異学年交流により児童相互、児童と教師との望ましい人間関係の育成に努める。(授業、休み時間、縦割りによる補助活動)
評価	

第5学年指導計画

資料8

道徳				
努力事項 及び計画 作成上特 に工夫・ 配慮した 事項	○ 児童や学校の実態、今日的な課題を踏まえ、指導内容を重点化すると共に、他の教育活動との関連を図り、内面に根ざした道徳性を培うことができるように主題の配当を工夫する。			
	・ 児童の実態を考慮して重点価値を定め、望ましい道徳性が育成できるように主題を配当した。			
	●は、重点的に指導する主題名 () は資料名 (情)・・・情報モラルとの関連 (生)・・・生徒指導との関連			
平成26年度 追加変更				
月	単元(題材・主題)名	時数	心のノート	関連する学校行事・諸活動
4	○ インターネットで気をつけることは(ネチケット)(情) 1-(1) ○ 住んでいる町への思い(桜を守る) 4-(7) ○ 言葉のもつ力(一秒の言葉) 2-(1)	3	見つめようわたしのふるさとそしてこの国P104~109 心と心をつなぐネットワークP40~43	○春の遠足 ○運動会準備 ○かえで交流
5	○ 仲良く生活するために(こんなひとをさがせ!ピンゴ!!) 1-(3) ○ 正義ってなんだろう(シミズ先生とキヨ) 4-(2) ○ 今の自分を変える(キッパリ!今日からこれをやってみよう) 1-(1) ● 相手の気持ちを考えて(健太さんがなくったのは・・・) 2-(2)	4	自分の一日は自分でつくるP12~15	○運動会 ○家庭学習・生活チェック表の活用
6	● かけがえのない命(生きてます、15歳) 3-(1) ○ 家族の不思議を考える(家族ってなんだろう) 4-(5) ○ よりよいルールとは(ルールの決め方これでいいのかな?) 4-(1)	3	いま生きている私を感じようP64~67	○プール開き ○防犯教室 ○かえでピクニック
7	○ 気持ちを伝える(顔が表現するもの) 1-(4) ○ 自分らしさの発見(トマトとメロン) 1-(6) ○ 協力し合って学級づくり(私たちの生活) 4-(6)	3	まじめであることはわたしのほこりP24~27 自分を見つけみがきをかけようP32~35 学び合う中でP100~103	○1学期終業式 ○学級活動
8	○ みんなで意見を出し合って(地球を救おう子ども会議) 4-(3)	1		○2学期始業式
9	○ 自分が成長するために(サッカーの贈り物一高木義成選手) 2-(4) ○ 心が通い合う言葉(ソーリィ)(生) 2-(1) ○ ゲームとのつきあい方(ゲームってそんなに悪いの?) 1-(3)	3		○水泳記録会 ○見学学習旅行
10	○ 環境のためにできること(漂流ゴミのゆくえ) 3-(2) ○ いのちをつなぐ(よみがえれ大イチョウ) 3-(3) ● 目標に向かって(千里の道も一歩から) 1-(2)	3	生きているんだね自然とともにP68~71 夢に届くまでのステップがあるP16~19	○ミュージックフェスティバル練習 ○持久走記録会練習
11	○ 「いじめ」を考える(からかっただけなのに) 2-(3) ● カッコイってどういうこと?(ボーイ捨てカッコ悪い!) 4-(1) ○ ありのままの自分(そんなことないよ) 1-(6)	3	ぐるりとまわりを見渡せば・・・P80~83 自分を見つけみがきをかけようP32~35	○個別面談 ○教育相談
12	○ 社会のためにできること(ボランティアしてみよう) 4-(4) ● 限りある命(命の時間~死んだら、もどらない) 3-(1) ○ 世界の子どもの願い(みんな地球っ子) 4-(8)	3	いま生きている私を感じようP64~67	○2学期終業式 ○命の授業
1	● 夢を持って生きる(わたしの夢~1歳から100歳の夢) ● 相手の立場に立って(話し方・聞き方の基本を学ぼう) ○ 外国との習慣の違い(あいづちことば) 4-(8)	3		○3学期始業式 ○なわとび記録会 ○外国語活動
2	○ 友だちの思いや願い(友だち紹介「○○さんをご紹介します」) ○ 新しい発見を求めて(真理を守り抜いたガリレイ) ○ 人々の支え合い(やさしい人たち) 2-(5)	3	友だちっていいよねP48~51 「ありがとう」って言えますか?P56~59	○全校3色対抗長縄跳び大会 ○卒業生を送る会準備
3	○ 日本のよいところは(日本を愛した人) 4-(7) ○ 働くことの喜び(看護師さん) 4-(4) ● 生きることの意味(なぜ、私たちは生まれてきたのかな) 3-(1)	3	働くってどういうこと?P92~95	○かえでボランティア活動 ○修了式・卒業式
時数計		35		

【会津・南会津地区】金山町立金山小学校



推進校紹介⑤

1 学校概要

学 校 名	大沼郡金山町立金山小学校
所 在 地	大沼郡金山町川口馬場 3 2 4
校 長 名	山浦 京子
学校の教育目標	「未来をひらく 金山の子ども」 ○ か・・・かんがえる子 (知) ○ ね・・・ねばりづよい子 (体) ○ や・・・やさしい子 (徳) ○ ま・・・まなびあう子 (共生)
学級及び児童数	普通学級 4 (児童総数 41 名) 第 1 学年 1 学級 10 名 第 2 学年 1 学級 2 名 第 3・4 学年 1 学級 15 名 第 5・6 学年 1 学級 14 名
道徳教育にかかる 取り組みの概要	研究内容 (1) 心に響く道徳の時間の充実 ①資料提示の工夫 ②多様な価値観を引き出すための活動の工夫 (2) 教育課程における道徳の時間の日常化を図るための工夫 ①学級における指導計画・別葉の作成と活用 ②道徳の授業の「ふり返りカード」の作成 (3) 心に働きかける環境作り (4) 道徳性を培う体験活動の充実 ①学校教育の中での体験活動 ②家庭・地域社会との連携による体験活動

2 研究テーマ

互いに思いやることができる子どもの育成 (2 年次)
～「道徳の時間の指導」を通して～

3 テーマ設定の理由

(1) 今日の教育課題から

昨今、子どもたちを取り巻く社会の変化は著しく、学校生活、家庭生活において様々な問題が生じている。

家庭や地域社会の教育力の低下、生活体験の減少等、様々な問題を抱える中、子どもの自制心や規範意識の希薄化、生活習慣の確立が不十分であること、自分に自信が持てないこと、学習や将来の生活に対して無気力になりがちなことなど、子どもたちの心と体の状況にかかわる問題が見られる。また、「自分さえよければ」「どうせ自分は」という閉ざされた考えによる人間関係の不安や希薄さも指摘されている。

子どもたちが、他者、社会、自然、環境との豊かななかかわりの中で生きているという実感や達成感を深めてこそ自信が育まれる。共生の精神を涵養する中でこそ、生きる力や相手を思いやることのできる豊かな心が育まれると考え、「互いに思いやることができる子どもの育成」と設定した。そして、各活動における道徳教育の「要」としての「道徳の時間」の指導を重視し、道徳的実践力を身に付けさせたいと考え、副主題を「道徳の時間の指導を通して」とした。道徳の時間において、児童が自ら考え、学び合うことにより、価値の自覚を深め、自分の生き方につなげられるようにしたい。また各教科・領域等との関連を図りながら道徳教育の充実を目指したいと考える。

(2) 本校の教育目標から

本校では教育目標の具現化をめざし 4 つの児童像を掲げ、日々の教育活動に取り組んでいる。中でも、本年度の重点目標を「共に学び合いながら確かな学力を身に付け、豊かな心と健やかな体を持った子どもの育成」と設定し、「心の教育の充実を目指して、善悪を判断し、思いやりのある心と協力性を育成する」を努力目標にすることで、道徳の時間の指導を根幹とした道徳教育を充実させたいと考えた。特に、今年度は、児童の実態や保護者の願い等から、「思いやり・親切」の道徳的価値に重点をおくこととした。

(3) 昨年度の取り組みから

昨年度の取り組みでは、家庭や地域社会との連携等を図った学習活動・内容を工夫し、資料の選択や提示、活動の工夫等により「道徳の時間の指導法の改善」を行ってきた。その結果、以下に示すような成果が見られ、課題も明らかになった。

【研究の成果】

- 教師の「道徳の時間」に対する意識の変容が見られ、効果的な指導方法を取り入れながら、多様な価値観を引き出せるようになってきた。
- 児童の意識調査の結果から、「道徳の時間」を楽しいと思う児童が増えてきた。

【残された課題】

- 年間の見通しをもち、体験活動や学校行事、道徳の時間等のそれぞれの取り組みの関連性を図ること。
- 道徳教育や道徳の時間において、価値への迫らせ方を考え、日常生活の中で児童の道徳性を高めていくこと。

これらの成果と課題をもとに、今年度は、児童の道徳性をより高めるために、道徳教育の要としての「道徳の時間」を充実させるとともに、「道徳教育の日常化」を図り、児童の生活に根ざした道徳を目指して研究に取り組む必要がある。

4 研究計画

月 日	内 容	月 日	内 容
4 ～	・本年度研究の大枠決定	10/ 10	・一般研修
5/30	・全体会（研究内容の具体的な構想・授業研究の進め方の共通理解）	18	・第5回授業の事前研究（5年）
		24	・第5回校内研究授業・事後研究
6/04	・各部会	10/ 22	・小中連携事業（横田小）
10	・全体会（各部会からの提案）	27	・一般研修
11	・第1回授業の事前研究（4年）		
18	・第1回校内研究授業・事後研究	12/09	・全体会（研究のまとめ方の確認）
20	・小中連携事業（金山中）	13	・個人研修のまとめ
21	・第2回授業の事前研究（1年）	20	・個人研修のまとめ
7/ 1	・第2回校内研究授業（要請訪問）	12/ 21	・個人研修のまとめ
	・事後研究		
7/ 19	・個人研修のまとめ		
8/30	・個人研修	1/ 10	・各部会（研究のまとめに向けた作業）
9/ 02	・第3回授業の事前研究（3年）	2/ 10	・全体会（各自の研修等の伝達講習）
9/ 03	・第3回授業の事前研究（6年）	14	・全体会（次年度研究の内容検討）
13	・第3回校内研究授業・事後研究（道徳教育地区別推進会議提供授業）		
20	・第4回授業の事前研究（2年）		
27	・第4回校内研究授業・事後研究		

5 児童生徒の実態及び地域の課題

本校の児童は保育所の頃からほぼ同じ子どもで構成されているためか、人間関係の固定化と考えられるところが見られる。子どもたちのあいだにある潜在的・暗黙的な序列化、特定の個人とのかわり、自分さえよければという世界観がとりわけ顕著である。今日に至るまでに友だちとともに経験してきたことや各家庭での生活経験が相互作用的に編みこまれ、個そして集団が形成されてきたと考えられる。

各家庭での生活経験という点から、地域性による子どもの育ちということも考えていく必要がある。本学区では、子ども一人一人のことを、親をはじめとする家庭、そして地域住民が見守り、きめ細やかな配慮により育てている印象を強く受ける。そのため、子どもたちの多くは、家族や地域に対して感謝の念を抱いているが、その一方で、家族や地域住民の配慮の裏側にある思いに気がつかなかったり、かえって不快に感じたり、横柄なふるまいをとったりする子どもも少なくない。また、子どもが行為を起こす前に、大人が動くことが多い。子どもが問題場面に出合っても、それを見た大人が大人の考えで行動し対処してしまう場面も見られる。保護者はあいさつがきちんとできること、友だちを思いやれること、生命を大切にすること、決まりをしっかり守ることについて特に期待を寄せている。

6 道徳教育における校長の指導の方針 (資料 1)

- ① 学習指導要領の道徳教育のねらいを十分に踏まえ、道徳的判断力・道徳的实践力を高める要としての「道徳の時間」の充実に努める。
- ② 自分の意思で物事の善悪を判断し、勇気と自信をもって行動する規範意識を育成する体験的な場の設定に努める。
- ③ 家庭及び地域社会との連携を一層深め、日常生活における基本的な生活習慣（「早寝・早起き・朝ごはん」などを育成する指導に力を注ぎ、豊かに生きる力の育成に努める。

7 平成25年度 道徳教育の全体計画の特徴 (資料 2)

- ① 児童の実態、教師の願い、保護者の願いなどから、学校全体の重点指導内容を設定した。
- ② ブロックごとの重点目標の策定と家庭・地域との連携など、道徳教育の相互の関連を図るようにしていること。
- ③ 各教科・領域・総合的な学習の時間等との関連を図りながら、道徳教育の充実に努めるようにしていること。

8 平成25年度 道徳の時間の年間指導計画の特徴 (資料 3)

- ① 指導の方針、指導の重点を明記し、本校の重点価値項目をバランスよく配当した。
- ② 道徳の時間においては、価値項目に関連する「心のノート」、他の教育活動を明確にし、道徳教育の日常化を図られるように工夫した。

9 平成25年度 学級における指導の計画の特徴 (資料 4)

- ① 重点価値にかかわる資料名や関連を図ることのできる行事、体験活動等をより具体的に明確化することによって、年間にわたって見通しをもてるようにした。

10 道徳教育推進教師等における実践レポート

(資料5・6)

(1) 授業研究の実施

8月：学校公開に向けた授業案事前研究、9月：学校公開での指導助言

(2) 道徳教育啓発のための「道徳だより」の発行

家庭や地域向けの道徳だよりを毎月1回のペースで発行した。道徳教育の啓発や社会からの要請だけでなく、家庭教育の重要性や学校で重点を置く「生命尊重」、「思いやり・親切」、「公德心」の大切さなど、道徳的な価値の視点から伝えた。

(3) 意図的な授業実践

4月当初に行なわれた授業参観や学校公開日である一日授業参観など、意図的に道徳の授業を組み入れた。道徳の授業を保護者が参観するだけでなく、保護者の方にも積極的に参加していただく授業の展開に努めた。

また、全校朝の会では、「星野富弘さん」を取り上げて、「毎日の努力の積み重ねが生きる喜びにつながる」という負けない心の大切さを伝えた。

(4) 道徳的実践意欲向上のための工夫と推進

道徳的心情や態度を高めるために、各教室だけでなく、階段スペースや校内掲示場所の設置、動植物愛護のための田植え・稲刈り、チューリップ・マリーゴールド・サルビアなどの栽培活動、他校・異年齢交流（横田小学校や三島小学校との交流や金山ホームの訪問）、森林環境教育（木工作品づくり、只見町ブナセンター森林学習）の推進

(5) ゲストティーチャーの積極的活用

学校公開での「思いやり・親切」の授業における保護者による説話、消防署員による「救急救命活動」、外部講師（福島大学附属小学校教諭）による道徳模範授業

1 1 道徳の時間にかかる資料

(資料7・8・9)

1 2 平成26年度 道徳教育の全体計画の特徴

(資料10)

児童の実態・学校課題等から、重点価値項目を「思いやり・親切」「生命尊重」「公德心」とし、低・中・高3つのブロックごとに重点目標を設けた。

1 3 平成26年度 道徳の時間の年間指導計画の特徴

(資料11)

道徳の時間はもちろん諸教育活動との関連を図り、児童の感性や感動する心を育てたり、自主性、協調性を養えるように配慮した。また、他教科や領域・特別活動等との関連がより明確にするため、資料9「別葉」を作成した。

1 4 成果と課題（成果○ 課題●）

本校では、「互いに思いやることができる子どもの育成」を研究主題とし、以下の4つの研究内容を主な手立てとし研究を進めてきた。

(1) 心に響く道徳の時間の充実について

視点1 資料提示の工夫について

- 昨年度の研究成果や反省を基に、各担任がよりよい道徳の時間を目指して研究を深めることができた。その結果として、資料提示が効果的に行われることが多くなり、児童が生き生きと活動する場面も増えてきている。
- 学年の児童の発達段階や実態に応じて、資料を紙芝居形式で読み聞かせたり、資料を読む前に、中心となる場面絵を提示して場面設定や登場人物のかかわりなどを押さえたりするなど工夫が見られ、話の内容を理解することができた。

視点2 多様な価値観を引き出すための活動の工夫について

- 学級の雰囲気作りを心がけたり、ワークシートに書かせたりすることによって、自信をもって自分の考えを発表できる児童が多くなってきた。
- 終末の自分の心を見つめる段階では、教師の説話ばかりでなく、児童の実態に応じて、ゲストティーチャーの体験談を聞いたり、保護者からの手紙を読み聞かせたりすることによって児童の心が満たされ、実践意欲を育てるのに効果的であった。
- どの授業においても、基本発問を精選し、基本発問でどの場面や行為を取り上げるべきかしっかりと資料分析を行ったため、中心発問では、多様な道徳的価値を表出させることができた。

- 導入や展開後段において、自分の生活を振り返る場面では、事前アンケートで親切にできた経験やできなかった経験を書かせておいたため、発言する児童が多く見られた。また、発言に消極的な児童に対して、アンケートに書かれた内容を紹介することで自分の経験を振り返らせることができた。
- 自分の考えを発表できる児童は多くなってきているが、児童同士が互いの意見を交流し合い、よりよい価値へと高めていくことはまだ十分ではなく、今後の課題である。

(2) 教育課程における道徳の時間の日常化を図るための工夫について

- 指導者が、道徳の時間を大切にしようとする意識をもち、学級における「重点指導項目にかかわる学年指導計画」及び「別葉」を作成することができた。また、それらを日常的に活用することにより、学校行事や他教科と関連を意識しながら、意図的・計画的な指導が可能となった。
- 「重点価値項目にかかわる学年指導計画」及び「別葉」とともに、今年度は、重点価値項目に関わる計画であったため、他の価値項目についての意識が薄くなってしまった。実際に活用できるよう有効で具体性のある全体計画を作成し、学校全体で取り組む道徳教育の実質的な充実を図っていきたい。

(3) 道徳教育の日常化を進めるための心に働きかける環境づくりについて

- 教室環境については、共通理解のもと、どの学級も「ときめきコーナー」を設け、児童の活動写真や児童の考え（気づき）を掲示し、それをお互いに見合えるように工夫することができた。それによって、道徳の時間において、自分が親切にされた経験や親切にした経験等を発表する児童の姿も見られた。
- 校内環境についても「ときめきの森」や「教師の講話コーナー」など、共同掲示板を活用して設置し、児童の道徳的価値への気づきや講話を聞いた感想等を掲示した。日常的に児童がよく目にする場所であったため、立ち止まってカードを読む姿が見られ、道徳を考えるよいきっかけになった。

(4) 道徳性を培う体験活動の充実について

視点1 学校教育の中での体験活動

- 体験活動を通じた児童の気づきや感想等を体験後にまとめる活動を取り入れている学年が多くみられた。また、その内容を道徳の時間のみならず、他教科の授業内容とも関連させることができた。
- 体験活動が道徳の時間に生かされないこともあった。総合的な学習の時間や特別活動等との関連を重視し、さらに自分たちの地域を見直し、地域の人々やふれあいを大切にした活動を意図的・計画的に取り入れ、道徳の時間との関連性を強化する必要性がある。

視点2 家庭・地域との連携による体験活動

- 「道徳の時間」や講演会等、保護者や地域の方をゲストティーチャーに迎え、話をいただいたり、一緒に活動したりする機会を設けた。児童は、専門的な知識や技能、貴重な体験談をもつ方々と交流をする中で、道徳的価値に対する意識の高まりが見られるようになってきた。
- 道徳だよりを発行し、学校教育全体を通じた道徳教育の日常化を図る取り組みについて各家庭に発信してきた。児童の家庭や地域でのよい行いが、保護者を通して学校に届くようになった。

平成25年度 金山小の学校経営・運営ビジョン

教育目標

未来を開く金山の子ども

期待される学校像

- 子どもが学びたくなくなる学校
- 地域が温かく見つめる学校
- 職員がやりがいを持つ学校

児童像

ねばりづよい子

まなびあう子

かんがえる子

やさしい子

親の願い

- 思いやりがあり、心の痛みがわかる子ども
- 基本的なあいさつやマナーができる子ども
- 学習に意欲的に取り組む子ども

児童の実態やねがい

- 素直でまじめ
- 言動が受身的
- 優しい笑顔があふれる学校にしたい。

期待される教師像

- 子どもを中心に考える教師
- 研修に努める教師
- 地域に信頼される教師

確かな学力を身につけさせます。

- 一人一人の実態を把握し、個に応じた指導を進めます。
- 共に学びあう力を育てます。
- 話す、聞く指導を全教育活動を通して行います。
- 読書の好きな児童の育成に努めます。
- 家庭学習の習慣化を図ります。

健康安全の習慣を身につけさせます。

- 児童の能力に応じた目あてを持って運動に取り組ませ、体力の向上を図ります。
- 進んで運動に取り組む子どもを育てます。
- 望ましい生活習慣作りに努めます。
- 交通事故防止、声かけへの対策等安全指導の徹底を図ります。

心の教育を充実します。

- 道徳の時間を大切にして、心を育てる教育を推進します。(生命尊重・思いやり・公德心)
- 友達の良さを認めあえる学級・学校を作ります。
- 教育相談を定期的に実施し、一人一人の適応指導に努めます。

地域との連携を深めます。

- 地域の方々や地域素材を活用し、郷土の良さにふれさせます。
- 総合的な学習の時間や行事等を通して、体験的な活動の充実を図ります。
- 学校・学級便り等を通して、学校の様子をお知らせします。
- 他校との連携を深めます。

道徳教育全体計画

金山町立金山小学校



第6学年 道徳年間指導計画

指導方針	指導の重点	1. 本校の道徳教育の重点目標である「生命を尊重し、自然を愛し、美しいものや崇高なものに感動する児童」「誰に対しても思いやりの心を持ち、親切にする児童」「きまりをもって行動し、みんなのために進んで実践する児童」に重点をおいて指導する。 2. 道徳の時間はもちろん諸教育活動との関連を図り、児童の感性や感動する心を育てたり、自主性・協力を養えるようにする。 3. 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接するとともに、生きる喜び、生命を大切にすることを大切にする。 4. 身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする。 5. みんなが使うものを大切に、約束や決まりを守る。			
		月時数	主題名	指導内容	出典・資料名
4	4	4	・目標を持って生活	1・(2)理想、勇気、努力	1. 日付とコトバ
			・前向きな心	1- (4) 明朗・誠実	2. だから私はがんばれる!
			・真の友情	2・(3)信頼・友情と男女の協力	3. ロレンゾの友だち
			・地域の一員として	4- (3) 集団への参加と責任	4. ごみ出しまかせて
5	2	2	☆身近な人の死	3・(1)生命尊重	5. 涙そうそう
			・ともに生きる	2・(4)寛容・謙虚	6. 世界がもし100人の村だったら
6	4	4	・いろいろな自分に気づき、伝え合う	1・(6)個性の伸長	7. 自分の気持ちおしゃべりしあおう
			☆生命の尊さ	3・(1)生命尊重	8. エイズと闘った少年の記録
			・外国の子供たちを知る	4・(8)国際理解・親善と人類愛	9. 同じ地球の子どもたち
			・郷土を愛する心	4・(7)郷土愛・愛国心	10. よみがえった立ねぶた
7	4	4	・自分を律する心	1・(1)望ましい生活習慣 思慮・節制	11. 「ほしい」ってなに? 「必要」ってなに?」
			・あきらめない強さ	1・(2)理想、勇気、努力	12. 蘭学の書を求めて
			・みんなが平和に人間らしく暮らせるように	4・(4)勤労・社会奉仕	13. 二十一世紀をになう若い人たちに
			・できることから	3・(2)自然愛と環境保全	14. ペエスケ
8	1	1	・平和への思い	4・(8)国際理解・親善と人類愛	15. 科学は平和のためにある
9	3	3	・相手の気持ちを理解する	2・(3)信頼・友情と男女の協力	16. 積極的に聞こう
			・友達のかかわり	1・(6)個性の伸長	17. オトちゃんルール
			◇行動する勇氣	2・(2)思いやり	18. しらんぷりはできないよ
10	3	3	・支え合い	2・(5)尊敬・感謝	19. わたしの父さん
			・人間の力を超えたもの	3・(3)感動と畏敬	20. コタンに生きる
			・どんな人にも	2・(1)礼儀	21. 親しき仲にも礼儀あり
11	2	2	・自然との共存	3・(2)自然愛と環境保全	22. 地球があぶない
			・家族を愛する心	4・(5)家族愛	23. まゆみちゃんと私
12	4	4	◇相手の気持ちを大切に	2・(2)思いやり	24. 積極的に話そう
			・人のためにできること	4・(4)勤労・社会奉仕	25. 助け合って生きる
			・国境を越えて	4・(8)国際理解・親善と人類愛	26. ガンダーラの仏像
			・日本のよさを伝える	4・(7)郷土愛・愛国心	27. 目ざめよ日本
1	2	2	・自由と責任	1・(3)自由、自律と責任	28. 犬と私の10の約束
			・自然の厳しさ	3・(2)自然愛と環境保全	29. サケの一生
2	3	3	・正義の実現	4・(2)公正・公平、正義	30. こんなとき、どうする?
			・主体的に取り組む	1・(5)心理の尊重と創意工夫	31. 木のいのち
			◇社会のルールを守る	4・(1)公德心、規則の尊重 権利・義務	32. 落書き
3	3	3	・自由の中の責任	1・(3)自由、自律と責任	33. 十二歳のメッセージ
			☆生命の不思議	3・(1)生命尊重	34. ヘソのお話
			・学校への感謝とお礼	4・(6)愛校心	35. 卒業まで五十日

道徳学年指導計画 第 (1) 学年

【学級のめあて】

- だれとでも仲良くし、友だちと協力できる子ども
- 身近にいる幼い人や家族、お年寄りに親切にできる子ども

・新1年生を迎える準備をする。

↑
↑
↑

・個別懇談会等を通して、子どもたちの変容や成長をとらえる。

3時目：主題名 障害をもった人たちの思いやる心

『手話でうたおう』障がいのある人たちを身近に感じ、温かい心で接していこうとする態度を育てる。

・来年度の入学生を学校に招待し、学校を案内してあげるなどのふれあい。

↑
↑
↑

「金山ホーム」への慰問活動で、体の不自由なお年寄りとおふれあう。

・学習発表会に向けて、友達と協力しあう体験。

・保護者からの「ときめ木カード」の2回目の協力。

2時目：主題名 相手の気持ちを考える心

『くり』友だちと協力し、友だちのことを思いやる心情を育てる。

・全校集会で道徳劇を発表する。

↑
↑
↑

・夏休み中の様々な場を通しての体験

・教師も常に子どもを見守り、「ときめ木カード」を活用して称賛していく。

・学年だよりを通して、学習の様子や思いやりのある親切的な行動などを知らせ、継続して見守ってもらう。

1時目：主題名 身近な人への思いやり

『くまさんのなみだ』相手の気持ちを考えて、身近な人に思いやりの心を持って接する態度を育てる。

・運動会や、縦割り班清掃等、学校生活全般を通して、上級生に学校のことを親切に教えてもらう体験。

↑
↑
↑

・家庭に協力を求め、子どもたちが身近な人たちに親切や思いやりの行動があったことを見つけて「ときめ木カード」に書いて知らせてもらう。

学校生活

《学校生活・家庭・地域社会》

家庭・地域社会

・重点内容項目（親切・思いやり）にかかわる学級の指導内容

- なんでも話すことができ、互いを認め合う温かい学級の雰囲気づくり
- 「ときめ木カード」を活用し、親切や思いやりをもった行動への称賛
- 学年だより・連絡帳等による家庭との密接な連絡

金山小道徳だより

No. 2

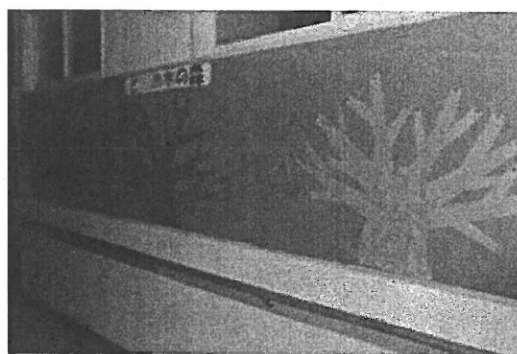
平成25年6月18日(火)

文責：道徳推進部

「ときめきの森」の掲示板を作りました

心に働きかける環境作りの一環として、学校全体での取り組みの様子を視覚的に啓発するために、本校会議室前の掲示板を活用して「ときめきの森」という掲示板を作りました。この掲示板には、子どもたちだけでなく、保護者の声や地域の方々の声を反映させていければと考えています。

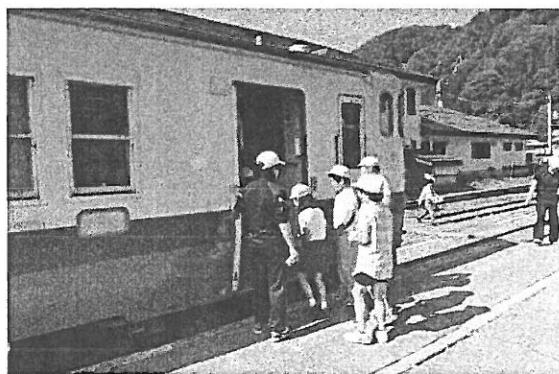
本校では「思いやり・親切」、「公德心」、「生命尊重」の三つの価値項目をテーマとして「家庭・地域で育む道徳教育」を推進していきたいと考えています。子どもたちの家庭での様子や保護者の願いや気持ちを黄色い用紙を用意しておきますので、気軽に記入していただければ幸いです。



全校児童で「只見線」乗車体験

先週の6月11日(火)に只見線の車窓から見える風景を題材とした絵画作品を描く活動を通して、奥会津の風景が全国に誇れるものであることを実感し、郷土愛を育むきっかけとなることを目的として、会津川口駅から会津宮下駅まで全校児童で体験することができました。

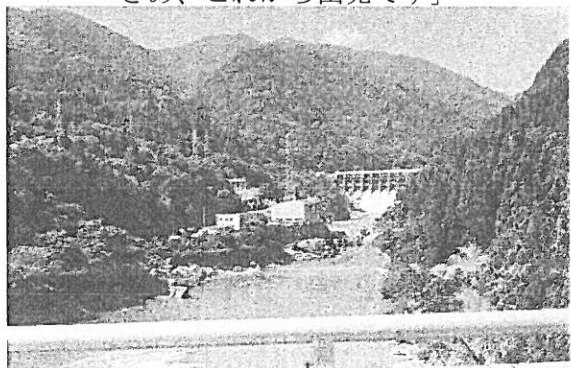
子どもたちは、それぞれ車窓からの風景を十分に堪能することができました。



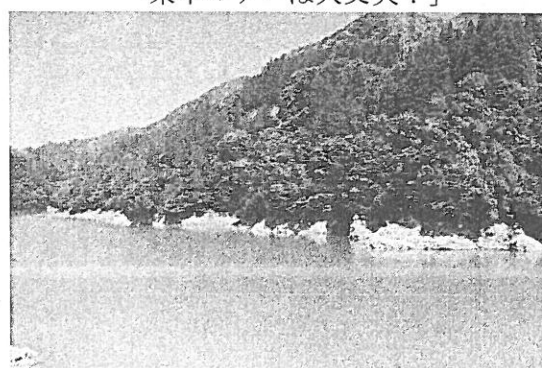
「さあ、これから出発です」



「乗車マナーは大丈夫？」



「遠くからの宮下ダム」



「ゆったり流れる只見川」

金山小道徳だより

No. 3

平成25年9月2日(月)

文責：道徳推進部

【1 学年研究授業 主題名：やさしい友達】

7月1日に第2回校内研究授業が行われました。今回は思いやりや親切をテーマに、「くまさんのなみだ」という道徳の資料を活用しました。始めに紙芝居にして読み聞かせをし、子どもたちは食い入るように話を聞き、資料の世界の中に引き込まれていました。次に、森の動物たちの気持ちになって簡単な劇をして、「思いやりや親切」について考えを出し合いました。初めての役割演技ということで少々戸惑う姿も見られましたが、動物になりきっていきいきと発表していました。最後に自分の生活を振り返る段階で、事前におうちの方に依頼し、子どもたちの親切や思いやりのある行動を書いていただいた「ときめきカード」を子どもたちに渡しました。そのとたんに、子どもたちの表情がぱっと明るくなり、とても嬉しそうに真剣に読んでいました。自分のことを、おうちの方がよく見てくれているという嬉しさが表情にあふれていました。

外部の方もいらっしゃった参観の中で緊張気味な子どもたちでしたが、1人1人が自分の内面と向き合い、親切や思いやりについてしっかり考えられていたようです。



「手書きの紙芝居」
(児童の感想)



「動物たちになりきって」

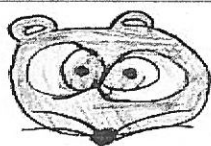


「カードを真剣に読んでいます」

くまさんのなみだ

7がつ 2にち かようび

さききだいさ

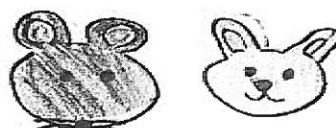


○どうぶつさんたちのきもちに
しげきや、たのがたのし
かーです。「ときめきカード」
をもらったのがよかったです。

くまさんのなみだ

7がつ 2にち かようび

わかばやしかなん



○みんながさいごに、なかよくな
てよかったです。うちのひとが「ときめき
カード」をもらってうれしかったです。

保護者の方々には子どもたちの「思いやりや親切」に関わる行動について、大いに褒めていただき、励ましていただきたいと思います。学校でも各ご家庭での子どもたちのそれらの様子を紹介していきたいので、何か子どもたちの「思いやりや親切」に関わる行動を見つけたら、別紙にご記入いただき担任へお届けください。

今回は、1年生の道徳の授業を紹介します。今後、他学年の道徳についても紹介できればと考えます。なお、本校では地域や家庭の方々と協力しながら道徳教育を進めていきたいと考えています。

ゲストティーチャーとして、道徳の時間や体験活動などでご協力を依頼する場合もあると思いますが、ご協力のほどよろしくお願いします。

第3学年 道徳学習指導案

平成25年9月13日(金) 第3校時
指導者 本名与四郎 場所 3・4年教室

1 主題名 できなかった親切 2-(2) 思いやり

2 資料名 「おじいさんの顔」(文溪堂)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本主題は、学習指導要領の第3学年及び第4学年の道徳内容項目2-(2)「相手のことを思いやり、進んで親切にする。」を基に設定したものである。

人はだれでも、親切にされると理屈ぬきでうれしい気持ちになる。自分でも周りの人にそうしてあげようと思う。しかしながら、他人を思いやり親切にするということは、実際の場面にぶつかったとき、なかなかできないものである。

「思いやる」と言うことは、単にその人の気持ちを「思う」だけでなく、その人の立場に立って心情を理解してやることである。そして、それを具体的な行動で表すことが「親切」となる。

そこで、この資料を通して他人のことに無関心な人が増えている今、相手を思いやり、親切にすることは、社会全体を温かい雰囲気包み、円滑な人間関係を結ぶことにつながるようになるものと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態(男子2名 女子5名 計7名)

- 落とし物を見つけると拾って友達に届けてあげたり、忘れ物をした友達にその時に使うコンパスやフェルトペンなどを貸してあげたりする児童もいる。しかし、日常生活を見ると給食当番の友達が休んだりした時に代わって手伝いをしたり、配布係の友達だけでは大変な時に手伝ってあげたりという行為までには至っていないことが見かけられる。
- 帰りの会での「よし・やっちまったタイム」で、良い行為や失敗して直したいと思う行為などを発表している。その中で、下級生が手洗い場で待っていたので、譲ってあげたこと、上級生に習字道具を貸したことや、友達に親切にしてもらったことなどを振り返る機会を設けて「思いやりや親切の心」を発表することで意識化を図ってきた。
- 道徳の時間を中心に「教室は間違えるところである」ことを「詩」を通して繰り返し指導し、自分の考えや気持ちを正直に発表できるような自由な雰囲気づくりに努めている。また、自分の意見や気持ちを書く活動を通して児童の気づいたことや良いところを称賛することで励ましているところである。

(3) 資料について

本資料は、4つの場面で構成されている。① 夏のある日曜日、母と「ぼく」はホームで電車を待っている。ホームにはたくさんの人が待っている。② 初めは席が空いていなかったが、3つ目の駅でようやく座ることができる。③ 大きな荷物を持ったおじいさんが、「ぼく」の前に立つ。ハンカチで汗を拭きながら、時々大きなため息をついている。④ 隣の若い男の人が、おじいさんに席を譲った。おじいさんは「ありがとう」を繰り返して「ぼく」の隣に腰かけた。

4つの場面をとおして、親切とは、相手の立場に立った接し方であり、無償の行為であることを考えさせたり、他人に関心を持ち、困っている人の立場になって考えさせたりして、その人がどうしてほしいのか察知できる感受性豊かな心を児童に育てるための好資料である。

(4) 本時の指導にあたって

- 一枚写真の提示(手立て1)
導入場面において、一枚写真を提示することにより児童の問題意識を高めさせながら、本時のねらいとする価値への方向付けを行ないたい。
- 道徳ノートの活用(手立て2)
「ため息をついて立っているおじいさんを見ている時のぼくの気持ち」の中心発問で多様性を出したい。そのためには、自分の考えを道徳ノートに書かせる。そして、次に児童の書いたことを基にして、「ぼく」の心の中にはさまざまな気持ちがあったことを捉えさせたい。
- 保護者の体験談(手立て3)
保護者自身が相手の気持ちを考えて、親切にできた体験についての話をしていただき、余韻を持って「親切」の授業を終わりたい。

4 指導計画(略)

5 本時のねらい

困っている人には、相手のことを考えて、進んで親切にしようとする心情を育てる。

6 展開

段階	学習内容（○主な発問・児童の反応）	時間	・ 指導上の留意点
つかむ	1 一枚写真を見て、どのような場面か考える。 ○この写真は、何をしているところでしょう。 ・おばあちゃんの手さげかばんを手伝っている。 ・おばあちゃんたちが学校へ遊びに来て帰ろうとしている。 ・祖父母学級にきたのかな。	3	（手立て1） ・導入場面において、一枚写真を提示することにより児童の問題意識を高めさせながら、本時のねらいとする「思いやり・親切」の価値への方向付けを行なう。
考える・高め合う	2 資料「おじいさんの顔」を読んで話し合う。 ○ようやく座ることができた時、「ぼく」はどんな気持ちだったか。 ・座れてよかった。 ・お母さんは座れたかな。 ・やっと楽になった。 ◎ ため息をついて立っているおじいさんを見ている時の「ぼく」の心の中はどんなか。 ・ぼくが立って席を譲ろう。 ・恥ずかしくてなかなか立てない。 ・そのうちにどこかが空くだろう。 ・知らないふりをしていようか。 ○隣に座ったおじいさんを見た時、「ぼく」はどんなことを考えたか。 ・ぼくが譲ればよかった。 ・譲った人はすごいなあ。 ・譲れなくて、恥ずかしい。 ・何で譲れなかったのだろう。	28	・教師が範読する。 ・初めは座れずにいたが、途中から座ることができたときの気持ちを十分に捉えさせる。 （手立て2） ・自分の考えを道徳ノートに書かせることによって「ぼく」の心の中にはさまざまな気持ちがあったことを捉えさせる。 ・一人一人の思いや気づきについて机間指導を通して、指導と賞賛により考えを深めさせる。 ・複雑な思いについて考えさせる。 （できなかったことへの反省、やればよかったという後悔、隣の若い人への尊敬、おじさんが座れたことへの安心感）
	3 自分の経験を振り返り、話し合う。 ○相手の気持ちを考えて、親切にしたことはありますか。 ・トイレのサンダルをそろえた。 ・理科の学習で校庭に行く時、友達のいすを持ってあげた。 ・給食の時、友達の食器を片付けた。 ・弟の面倒を見ている。 ・図工の時間に床が汚れないようにするための新聞紙を出してあげた。 ・ばあちゃんのおむつ交換や入れ歯のお手伝い。	10	・席を譲ることだけでなく、日常生活のさまざまな場面について振り返らせるようにする。 ・自分の経験を振り返ることができない場合は、「事前調査アンケート」を例示して、想起させるようにする。 ・行為だけでなく、その時における自分の気持ちも振り返らせる。
見つめる	4 保護者の体験談の話を聞く。	4	（手立て3） ・保護者自身が相手の気持ちを考えて、親切にできた体験についての話をしていただくとともにその時の気持ちについても付け加えていただきながら、余韻を持って「親切」についての授業を終わるようにする。

重点項目に関わる学年指導計画 第 (3) 学年

【学級のめあて】

- 相手の気持ちを考えて進んで親切にできる子ども
- 約束を守って友達と仲良くできる子ども
- 自分の命は自分で守ることのできる子ども

・次年度の4年生としての役割を自覚し、責任ある言動を見据える。

↑
↑

・家庭訪問や個別懇談会等を通して、子どもたちの変容や成長をとらえる。

3時目：主題名 さりげない親切

相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てる。

・お世話になった6年生に感謝をこめた「6年生を送る会」でのふれあい。

↑
↑
↑

「金山ホーム」への慰問活動で、お年寄りと思いやりを持ってふれあう。

・学習発表会に向けて、友達と協力・親切し合う体験活動。

・保護者からの「ときめ木カード」の2回目の協力。

2時目：主題名 でなかつた親切（本時）

困っている人には、相手のことを考えて、進んで親切にしようとする心情を育てる。

・全校集会で思いやりの大切さをを踏まえた発表をする。

↑
↑
↑

・夏休み中の学校以外の様々な場や機会を通しての体験

・全校朝の会での教師の講話における「親切」「公德心」「生命尊重」に関わる体験談を通して健全育成を図る。

・学年だよりや道徳だよりを通して、思いやりのある親切な言動などを知らせ、家庭や地域で育む道徳教育の推進。

1時目：主題名 困っている人に

相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てる。

・運動会、学習発表会や縦割り班清掃などの学校生活全般を通して、中学年としての思いやり・親切の体験の場と機会の設定。

↑
↑
↑

・家庭や地域の中で、子どもたちが親切や思いやりの行動があったことを見つけて「ときめ木カード」に書いて啓発を図る。

学校生活

《学校生活・家庭・地域社会》

家庭・地域社会

- ・重点内容項目（親切・思いやり）に関わる学級の指導内容
- 「教室は間違えるところである」という自由な学級の雰囲気づくり
- 「よし・やっちゃったタイム」での親切や思いやりの言動への称賛
- 道徳だより・学年だより・連絡帳による家庭や地域との密接な連携・連絡

別葉の活用 3年

(資料 9)

内容領域・教科・領域 など	道徳 日本国章	特別活動	総合的な学習の時間	国語 光村図書	社会 東京書籍	算数 東京書籍	理科 東京書籍	音楽 教育出版	図画工作 日本文芸出版	保健 東京書籍
1-(1) 基本的な生活習慣					「古い道具と昔のくらし」 [1月]	時とくちと時間のともめ方 [4月]			楽しくつかおう [4月]	けんこうな生活 [6月]
1-(2) 運動能力										
1-(3) 集気										
1-(4) 生活実態・仲間										
1-(5) 無知無畏										
2-(1) 九歳										
2-(2) 親切										
2-(3) 友誼										
2-(4) 尊敬・感謝										
3-(1) 生命尊重										
3-(2) 自然・動植物愛護										
3-(3) 飛行人										
4-(1) 民間尊重・公徳心										
4-(2) 節労										
4-(3) 宝気愛										
4-(4) 愛国心										
4-(5) 郷土愛										
4-(6) 愛国心・国際理解										

道徳教育全体計画

(資料10)
金山町立金山小学校

関係法規など ・ 日本国憲法 ・ 教育基本法 ・ 学校教育法 ・ 学習指導要領 ・ 県教育委員会の重点施策	教育目標 ○ 未来をひらく金山の子ども 「か」…かかんがえる子 「ね」…ねばりづよい子 「や」…やさしい子 「ま」…まなびあう子	児童の実態 ・ 明るく元気に生活し、素直な子どもが多い。 ・ 自分に自信をもちはじめ、自分がいいと考えたことを進んで行うようになってきた。 ・ 言動が受け身的である。 ・ 固定化された人間関係が見られる。 ・ 基本的な生活習慣や公共心が、十分身に付いていない子どももまだ見られる。																																				
生徒指導 ・ 児童理解を深めるとともに教師と指導及び児童相互の好ましい人間関係を育て、自他を認め、協力してよりよい生活を築こうとする態度を養う。	道徳重点目標 自他の生命を大切にし、互いに思いやり、ともに生きようとする児童を育成する。 ・ 生命を尊重し、生命あるものを大切にする児童。 ・ だれに対しても明るい挨拶ができ、思いやりの気持ちを持ち、親切にする児童。 ・ 決まりを守って行動し、みんなのために進んで実践する児童。	保護者の願い ・ 思いやりがあり、心の痛みが分かる子どもになってほしい。 ・ どんな場や集団でも、互いの違いを認め、自分の考えを堂々と伝える子どもになって欲しい。 ・ 明るくのびのびと誰にでも好かれる子どもに育ってほしい。																																				
学校・学級環境の充実・整備 ・ 豊かな人間関係の醸成に努めるとともに、校舎及び校庭・教室の環境を充実して、豊かな心情を育てる。	道徳教育基本方針 ・ 教師と児童、児童相互の人間関係を深め、学校教育全体を通して行なう。 ・ 各領域との関連を重視し、日常生活を通して、道徳実践力を養う。 ・ 家庭、地域社会との緊密な連携を図り、児童のあらゆる生活に即して指導にあたる。 ・ 全職員の共通理解を図り、指導の効果を高める。	教職員の願い ・ 生命を大切にし、美しいものに感動できる子どもに育てたい。 ・ 相手を理解して、助け合い、ともに向上しようとする子どもに育てたい。 ・ 自分を振り返り、向上させていく子どもに育てたい。 ・ これからの社会を生きていくための素地としての生きる力を身に付けさせたい。																																				
特別活動 学級活動 ・ よりよい学級づくりを目指し、夢や希望をもって生きる態度を育成する。 児童会活動 ・ 異年齢集団による自発的・自治的な活動を通して、互いに思いやり協力し合う態度を養う。 クラブ活動 ・ 共通の興味や関心を追求する活動を通して、自他のよさを認め、高まろうとする態度を養う。 学校行事 ・ ボランティア活動や自然体験・社会体験などを充実する中で協力してともに生きる態度を育てる。	学年の重点目標 <table><thead><tr><th>重点目標</th><th>☆ 生命を尊重し、生命あるものを大切にする児童</th><th>◇ だれに対しても思いやりの心を持ち、親切にする児童</th><th>□ 決まりを守って行動し、みんなのために進んで実践する児童</th></tr></thead><tbody><tr><td>低学年</td><td>☆ 生きることを喜び、生命を大切にする心を持つ。 3－(1)</td><td>◇ 身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする。 2－(2)</td><td>□ みんなが使うものを大切にし、約束やきまりを守る。 4－(1)</td></tr><tr><td>中学年</td><td>☆ 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。 3－(1)</td><td>◇ 相手のことを思いやり、親切にする。 2－(2)</td><td>□ 約束やきまりを守り、みんなのために進んでよいことをしようとする。 4－(1)</td></tr><tr><td>高学年</td><td>☆ 生命がかげがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。 4－(1)</td><td>◇ だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。 2－(2)</td><td>□ 約束やきまりを守り、自他の権利を大切にし、進んで義務を果たす。 4－(1)</td></tr></tbody></table>	重点目標	☆ 生命を尊重し、生命あるものを大切にする児童	◇ だれに対しても思いやりの心を持ち、親切にする児童	□ 決まりを守って行動し、みんなのために進んで実践する児童	低学年	☆ 生きることを喜び、生命を大切にする心を持つ。 3－(1)	◇ 身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする。 2－(2)	□ みんなが使うものを大切にし、約束やきまりを守る。 4－(1)	中学年	☆ 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。 3－(1)	◇ 相手のことを思いやり、親切にする。 2－(2)	□ 約束やきまりを守り、みんなのために進んでよいことをしようとする。 4－(1)	高学年	☆ 生命がかげがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。 4－(1)	◇ だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。 2－(2)	□ 約束やきまりを守り、自他の権利を大切にし、進んで義務を果たす。 4－(1)	現代社会からの要請 <table><thead><tr><th></th><th>各教科</th></tr></thead><tbody><tr><td>国語</td><td>・ 豊かな言語感覚を養い、確かな読みとへのびのびと表現する態度を養う。</td></tr><tr><td>社会</td><td>・ 社会生活への理解を深め、みんなのために尽くそうとする態度を育てる。</td></tr><tr><td>算数</td><td>・ 数理的な処理のよさを知り進んで生活に生かそうとする態度を養う。</td></tr><tr><td>理科</td><td>・ 自然に親しみ、自然や動植物を大切にする心を育てる。</td></tr><tr><td>生活</td><td>・ 具体的な体験を通して、自立の基礎を養う。</td></tr><tr><td>音楽</td><td>・ 音楽を愛好する心情と感性を育て、豊かな情操を養う。</td></tr><tr><td>図工</td><td>・ 造形的な創作活動の基礎的能力を養い、豊かな心を培う。</td></tr><tr><td>家庭</td><td>・ 家庭生活について理解を深め、家庭の一員としての自覚を深める。</td></tr><tr><td>体育</td><td>・ 健康増進と体力の向上を図り、粘り強く取り組む態度を養う。</td></tr></tbody></table>		各教科	国語	・ 豊かな言語感覚を養い、確かな読みとへのびのびと表現する態度を養う。	社会	・ 社会生活への理解を深め、みんなのために尽くそうとする態度を育てる。	算数	・ 数理的な処理のよさを知り進んで生活に生かそうとする態度を養う。	理科	・ 自然に親しみ、自然や動植物を大切にする心を育てる。	生活	・ 具体的な体験を通して、自立の基礎を養う。	音楽	・ 音楽を愛好する心情と感性を育て、豊かな情操を養う。	図工	・ 造形的な創作活動の基礎的能力を養い、豊かな心を培う。	家庭	・ 家庭生活について理解を深め、家庭の一員としての自覚を深める。	体育	・ 健康増進と体力の向上を図り、粘り強く取り組む態度を養う。
重点目標	☆ 生命を尊重し、生命あるものを大切にする児童	◇ だれに対しても思いやりの心を持ち、親切にする児童	□ 決まりを守って行動し、みんなのために進んで実践する児童																																			
低学年	☆ 生きることを喜び、生命を大切にする心を持つ。 3－(1)	◇ 身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする。 2－(2)	□ みんなが使うものを大切にし、約束やきまりを守る。 4－(1)																																			
中学年	☆ 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。 3－(1)	◇ 相手のことを思いやり、親切にする。 2－(2)	□ 約束やきまりを守り、みんなのために進んでよいことをしようとする。 4－(1)																																			
高学年	☆ 生命がかげがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。 4－(1)	◇ だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。 2－(2)	□ 約束やきまりを守り、自他の権利を大切にし、進んで義務を果たす。 4－(1)																																			
	各教科																																					
国語	・ 豊かな言語感覚を養い、確かな読みとへのびのびと表現する態度を養う。																																					
社会	・ 社会生活への理解を深め、みんなのために尽くそうとする態度を育てる。																																					
算数	・ 数理的な処理のよさを知り進んで生活に生かそうとする態度を養う。																																					
理科	・ 自然に親しみ、自然や動植物を大切にする心を育てる。																																					
生活	・ 具体的な体験を通して、自立の基礎を養う。																																					
音楽	・ 音楽を愛好する心情と感性を育て、豊かな情操を養う。																																					
図工	・ 造形的な創作活動の基礎的能力を養い、豊かな心を培う。																																					
家庭	・ 家庭生活について理解を深め、家庭の一員としての自覚を深める。																																					
体育	・ 健康増進と体力の向上を図り、粘り強く取り組む態度を養う。																																					
総合的な学習の時間 ・ 子どもの興味・関心を大切にしなが、身近な環境と関わる体験的・問題解決的な学習や集団での活動を通して、よりよく問題を解決していく能力を培うとともに、自己の生き方を考え、生涯にわたり学び続ける能力や態度の基礎を養う。	各学級の指導計画 道徳の時間 道徳教育の目標を達成するために、各教科及び特別活動、総合的な学習の時間における道徳教育との関連を図りながら、これを補充・進化・統合し、児童の道徳的心情を豊かにし、道徳的判断力を高め、道徳の実践意欲と態度の向上を図るとともに、道徳実践力の育成を図る。 「心のノート」の活用を年間指導計画に位置づけ、活用を図る。																																					
○ 学校と家庭が共通理解のもとに積極的に連携し、豊かな体験を通して児童の内面に根ざした道徳性の育成に努める。 ・ 道徳の時間 ————— 授業公開、学年通信、学校通信、指導内容のお知らせ、事前調査、アンケート、家庭からの通信など ・ PTA協力事業 ————— 学年、地区、厚生、教養、総務の各委員会事業、その他の協力団体など ・ 育成会活動 ————— 剣道、ソフトボール、バレーボール、スキーの各スポーツ少年団活動 ・ その他 ————— 家庭教育学級、地域人材交流																																						

第3学年 道徳年間指導計画					
指導の方針	1. 本校の道徳教育の重点目標である「生命を尊重し、生命あるものを大切にしている児童」「誰に対しても思いやりの心を持ち、親切にする児童」「きまりを守って行動し、みんなのために進んで実践する児童」に重点をおいて指導する。 2. 道徳の時間はもちろん諸教育活動との関連を図り、児童の感性や感動する心を育てたり、自主性・協力を養えるようにする。				
指導の重点	1. 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接するとともに、生きる喜び、生命を大切にしている心を持つ。(☆) 2. 身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする。(◇) 3. みんなが使うものを大切にし、約束や決まりを守る。(□)				
月	主 題 名	指 導 内 容	出典・資料名	時間	主な関連活動
4	・気持ちよく生活するために ・正しいことを勇気をもって ・みんなのために自分ができること	1-(1)自立、思慮、節制 1-(3)正義、勇気 4-(2)勤労	標準「いい気持ちで生活しよう」 標準「どうしよう」 標準「どの仕事もたいせつなんだ」	3	
5	☆つながっている大切ないのち ・人に対する尊敬、感謝の気持ち ・自分のことをふりかえって	<u>3-(1)生命尊重</u> 2-(4)尊敬・感謝 1-(5)個性の伸長	標準「いのちのまつり」 標準「おばあちゃんはおいしゃさん」 標準「すきなこと きらいなこと いろいろなことおしゃべりしあおう」	3	児童会「春祭り」
6	・友だちと助け合う ・ぼくらの学校 ☆生き物を大切に ・母と子の きずな	2-(3)信頼・友情 4-(4)愛校心 3-(2)自然愛護と動植物愛護 4-(3)家族愛	標準「いじめ」なんてしたくない 標準「学校のためにできること」 標準「三日めにつかまえた虫一ファール」 標準「お母さんお手紙書きますよ」	4	
7	・素敵なわたし ・めあてをたてて ・人に聞く前にやれることがある	1-(4)明朗・誠実、反省 1-(2)勤勉努力 1-(1)自立、思慮・節制	標準「自分のすきなところを見つけよう」 標準「ゆめにむかってー北島康介選手」 標準「人に聞く前に」	3	「夏休み」
8				0	行事「校内水泳大会」
9	・日本のよさを知ろう □きまりを守って ☆生命の尊さ	4-(5)愛国心と国際理解 4-(1)規則の尊重・公德心 <u>3-(1)生命尊厳</u>	標準「祝日って何？」 標準「やくそく」 標準「生きているしるし」	3	総合「特老慰問」
10	◇目の不自由な人への思いやり ・美しいもの気高いもの ・だれとでも友だちで ・自分のよさを見つけよう	<u>2-(2)思いやり</u> 3-(3)感動と畏敬 2-(3)信頼・友情 1-(5)個性の伸長	標準「進んで手助けしよう」 標準「空」 標準「だれとあそぼうかな」 標準「わたしの名まえ」	4	行事「秋まつり」 行事「学習発表会」
11	・過ちを改める ・自分でやる大切さ	1-(4)明朗・誠実、反省 1-(1)自立、思慮・節制	標準「森のしきしゃ」 標準「ぼくは決心した！」	2	
12	・友だちとの間の礼儀 ☆せいっぱい生きる ・自分の町って	2-(1)礼儀 <u>3-(1)生命尊重</u> 4-(5)郷土愛	標準「いやなかんじ!!」 標準「電池がきれるまで」 標準「けんたがわすれていたもの」	3	「冬休み」
1	・友だちとの違いを認めて助け合う ・粘り強くやり遂げる ・日本と外国をくらべて ◇小さな親切	2-(3)信頼・友情 1-(2)勤勉努力 4-(6)愛国心と国際理解 <u>2-(2)思いやり</u>	標準「そうそう、そこが同じ！ そうそう、そこがちがう！」 標準「まかぬ種ははえぬ」 標準「日本の学校 世界の学校」 標準「小さくつした」	4	
2	・自分でできる地球にやさしいこと ☆母うさぎの子育て ・相手のことを考えた礼儀	1-(4)明朗・誠実、反省 3-(2)自然愛と動植物愛護 2-(1)礼儀	標準「地球にやさしくくらそう」 標準「自分の毛ですづくり」 標準「電話の向こうはどんな顔」	3	
3	・協力し合って仲間づくり □規則を守って ・人の死	4-(4)愛校心 <u>4-(1)規則の尊重・公德心</u> 3-(3)感動と畏敬	標準「同じ歌をハミングしているのはだれ？」 標準「『右、左、右』守ります」 標準「ごしゅうしょうさま」	3	「春休み」
計 35 時間					

【会津・南会津地区】喜多方市立第二中学校



推進校紹介⑥

1 学校概要

学 校 名	喜多方市立第二中学校
所 在 地	喜多方市常盤台 2 5
校 長 名	一ノ瀬直市
学級及び生徒数	12学級 310名
学校の教育目標	○心豊かな生徒 ○たくましい生徒 ○創造性に富む生徒
道徳教育にかかる 取り組みの概要	どの学級担任でも、同じように指導ができる道徳の授業 スタイルの確立と小グループや役割演技による話し合い 活動を取り入れ、言語活動を充実させる。

2 研究テーマ

- 研究主題
「心をたがやし、心に力をあたえる道徳教育はどうあればよいか」
- 副主題
「発問構成と効果的な展開のあり方」

3 テーマ設定の理由

- 子どもを取り巻く環境が大きく変化しているため、無気力や不安、規範意識の希薄化など、子どもたちの心の問題は少なくない。これらの子どもたちの心をたがやし、心に力（エネルギー）を注ぎ込むのが道徳教育の役割である。自分の心を開き、考えを述べ、話し合うことや自分を見つめ直すことなどをとおし、道徳的価値の大切さに気づかせたい。そして、その価値を知識として、簡単に与えるのではなく、生徒が「額に汗して考える」ことにより、生徒自らが、気づき、「わかった」と実感できるようになれば、道徳的心情も高まっていくと思われる。そのためにも、発問の吟味や展開のあり方を研究していくことが必要である。

4 研究計画

月	研 究 内 容	月	研 究 内 容
4	実態調査	10	検証授業、事後研究会
5	資料の選択、授業の構想	11	検証授業
6	授業の構想、指導案の作成	12	研究のまとめと考察
7	検証授業（学校訪問）、事後研究会	1	研究のまとめと考察
8	指導案の作成	2	本年度研究の反省
9	教材研究、検証授業	3	次年度の構想

5 児童・生徒の実態及び地域の課題

- 学校が喜多方市の中心部に位置し、商店や飲食店が数多くあり、住宅も密集している地域である。人なつこい生徒が多いが、自分中心的な考え方や行動が目立つ。マナーやあたたかい心を伝えたい。
- 学区には3つの小学校がある。小学校毎の規模が違う面があり、入学後初めて出会う友達が多いが、男女問わずぐ打ち解け合い、互いを信頼し協力しながら仲良く生活している。
- あいさつや言葉遣いについては、中学生らしく好感がもてる生徒が多い。
- 学級の活動や生徒会活動において、責任をもって行う姿は見られるものの、自主的な活動とは言い切れない面もある。また、奉仕活動に興味をもつ生徒は多いものの、自ら積極的に活動している生徒は少ない。
- 苦しいことや困難なことがあると、そこから、逃げ出してしまう生徒も少なくない。

6 道徳教育における校長の指導の方針 (資料1)

～学校運営ビジョンより～

「明るくそして心豊かに学校生活を送らせます。」

- さわやかなあいさつの響く学校にします。
 - ・ 校外ともに自らあいさつをする生徒を育成します。
- 他を思いやる心の育成を図り、いじめのない学校にします。
 - ・ 互いに認めあえる人間関係作りをめざします。
 - ・ 特別活動の内容を充実させ、成就感・連帯感を高めます。
 - ・ ルールを守る意志の強い心を育てます。

7 平成25年度 道徳教育の全体計画の特徴 (資料2)

- 道徳的実践力の育成及び道徳的価値の主体的自覚を重視する。
- ボランティア活動等の体験活動との関連を図る。
- 人間としての生き方について深く考えさせ、内面からの道徳性の育成に努める。
- 学校行事と題材配当の関連を図り、実践力の育成に努める。

8 平成25年度 道徳の時間の年間指導計画の特徴 (資料3)

- 生徒の実態に合わせた資料を配当し、また、学校行事等との関連も考慮して、計画した。
- 3年間を通して、系統性を持たせ発展的に指導ができるように主題の配列を考慮した。

9 平成25年度 学級における指導の計画の特徴 (資料4)

- 話し合い活動を多く取り入れ、互いの意見を尊重し合い、多様な価値観があることに気づかせるとともに、その中から高い価値を追求できるような、授業の展開に心がける。
- 生徒の興味・関心を高めるとともに、道徳的価値観についての自覚を深めさせる手がかりとなる資料を選択する。
- 各教科、特別活動、総合的な学習の時間などとの関連を図り、総合単元的な学習計画を立て、指導の充実に努める。

10 道徳教育推進教師等における実践レポート (資料5)

11 道徳の時間にかかる資料 (資料6)

12 平成26年度 道徳教育の全体計画の特徴 (資料7)

1 3 平成26年度 道徳の時間の年間指導計画の特徴 (資料8)

1 4 成果と課題

【成 果】

- わかりやすい授業とするために、資料内容を絵や短い言葉で説明したことで、どの生徒も話の内容を素早く理解し、次の話合いの段階に進むことができた。
- 研究授業を進めていく中で、授業では話合い活動がより深まるように、生徒の実態を踏まえて資料分析を徹底して行い教師の発問を考えたため、生徒も深く考えることができた。
- 生徒が自分の考えを他者の意見と比べたり、考えを深めたりするために、自分の考えの度合いを矢印で示したり、役割演技やグループでの話合い活動などを取り入れたりしたことで、一人一人意見をもち自分の考えを述べ合い、考えを深めることができた。
- 生徒の考えを引き出したり深めたりするには、教師が生徒の意見をつないでいく、広げていくことが大切で、授業でそのことを意識して行ったことで、深まりのある授業となった。
- ゲストティーチャーによる授業や講話を取り入れたことで、生徒は興味をもって聞き入り、印象に残る授業となった。
- 授業を公開することにより、道徳の授業に対する職員の意識改革ができ、地区内の教員に対しても道徳教育の重要性を広くアピールすることができた。

【課 題】

- 道徳の授業の中で、コの字型、役割演技やグループでの話合いは、生徒の表現活動を高め、考えさせる授業展開なので、多くのクラスで取り入れていきたい。
- 道徳の授業は、表現活動や生徒の人間関係を高めるのに有効で、他教科の授業にも結びついていくので、今後も学校として積極的に取り組んでいくべきである。
- 道徳教育を推進するためにも、家庭や地域との連携を密接に行っていくべきである。

標目育教

平成25年度学校経営・運営ビジョン

平成25年度基本方針

- 教育活動の精選と重点化を進め、学力の向上と生徒指導の充実を図る。
- 学校評価を継続し、生徒・保護者・地域からの声を生かした学校運営をする。

教科書

生徒・教師・保護者が一体となって一層の改善に取り組む学校

豐田汽車

学力向上

「全国標準の学力を身につけさせ、将来の生き方について考えさせていきます」

- (1) 分かる。できている授業を実践します
・基礎・基本事項の習得を徹底させます
・明確な「めあて」の提示と「まとめ」の時間の確保を実践します
- (2) 学習意欲を高める環境作りに努めます
・生徒発表の場の設定・作品掲示の工夫に努めます
・月の読書を通して「落ち着いて学習する」生徒を育成します
・月1回メデイアセラピーを設け、家庭でも学習、読書に取り組む生徒を育成します
- (3) 基本的な心得7ヶ条」を徹底していきます
・「授業の心得7ヶ条」を徹底していきます
・家庭学習を習慣化させ、内容が充実するように課題提示の工夫をします
- (4) 学力向上の見える化
・学習力向上の見える化
・進路・職業についての講話や職場体験学習を実施します
・進学・就職に必要となる情報提供

本校の到達目標

- ◎ NRTの偏差値「50」以上をめざす
◎ 学校評価での以下の項目の数値達成をめざす
- ① 85%以上の生徒が「授業が分かりやすい」と答える
② 60%以上の生徒の「家庭学習時間」が以下の時間以上である
1年：1時間 2年：1.5時間 3年：2時間
③ 85%以上の生徒が「将来の生き方や進路について考えている」と答える

生徒指導の充実

「明るくそして心豊かに、学校生活を送らせませす」

- 1) さやわかなあいさつの響く学校にします
- 2) 校内外ともに自らあいさつをする生徒を育成します
他を思いやる心の育成を図り、いじめのない学校にします
互いに認めあえる人間関係作りをめざす
特別活動の内容を充実させ、成就感・連帯感を高めます
- 3) ルールを守る意志の強い心を育てます
体力増進に心がけ、心身ともに健康な生徒を育てます
部活動と学習を両立させ心身の成長が同える生徒を育成します
自ら健康な生活習慣を身につける支援を実施します
清掃の時間やボランティア活動を通して校舎内外の整理整頓・美化に努めます
- 4) 一人ひとりを大切にすることの対処に努めます
個々を受け入れる教育相談を充実させます

本校の到達目標

- 生徒会自らの「自立的で明るい学校生活を送ろう」を提議し、実際に学校評価での以下の項目の数値達成をめざす
- ① 93%以上の生徒が「学校が楽しい」と答える
- ② 70%以上の保護者が「本校の生徒は自分から進んであいさつしている」と答える
- ③ 85%以上の生徒が「学習と部活動の両立ができています」と答える
- ④ 83%以上の生徒が「先生方は自分をよく見てくれる」と答える

開かれた学校の推進

「地域に根ざした学校づくりを推進します」

- (1) 「学校の今」をタイムリーにお知らせします
。学便りと各種学校便りを定期的に発行します
- (2) 学校ＨＰを積極的に更新します
。学校評価を実施し、生徒、保護者、地域の声を生かします
- (3) 協働の場を設定します
。学校評価を実施し、その結果を生徒、保護者、学校評議員に公表しより良い学校をめざします
- 。保護者との連携を重視します
。学区内の３小学校と生徒指導面、学習面での連携を築きます

目標の到達の本校

- ◎ 年間計画に位置づけ、計画的に実施する
◎ 学校評価での以下の項目の数値達成をめざす
- ① 95%以上の保護者が「学校は積極的に開かれた学校づくりを行っている」と答える
② 80%以上の保護者が「学校と保護者の連携がとれている」と答える

喜多方市教育委員会学校教育の基本方針

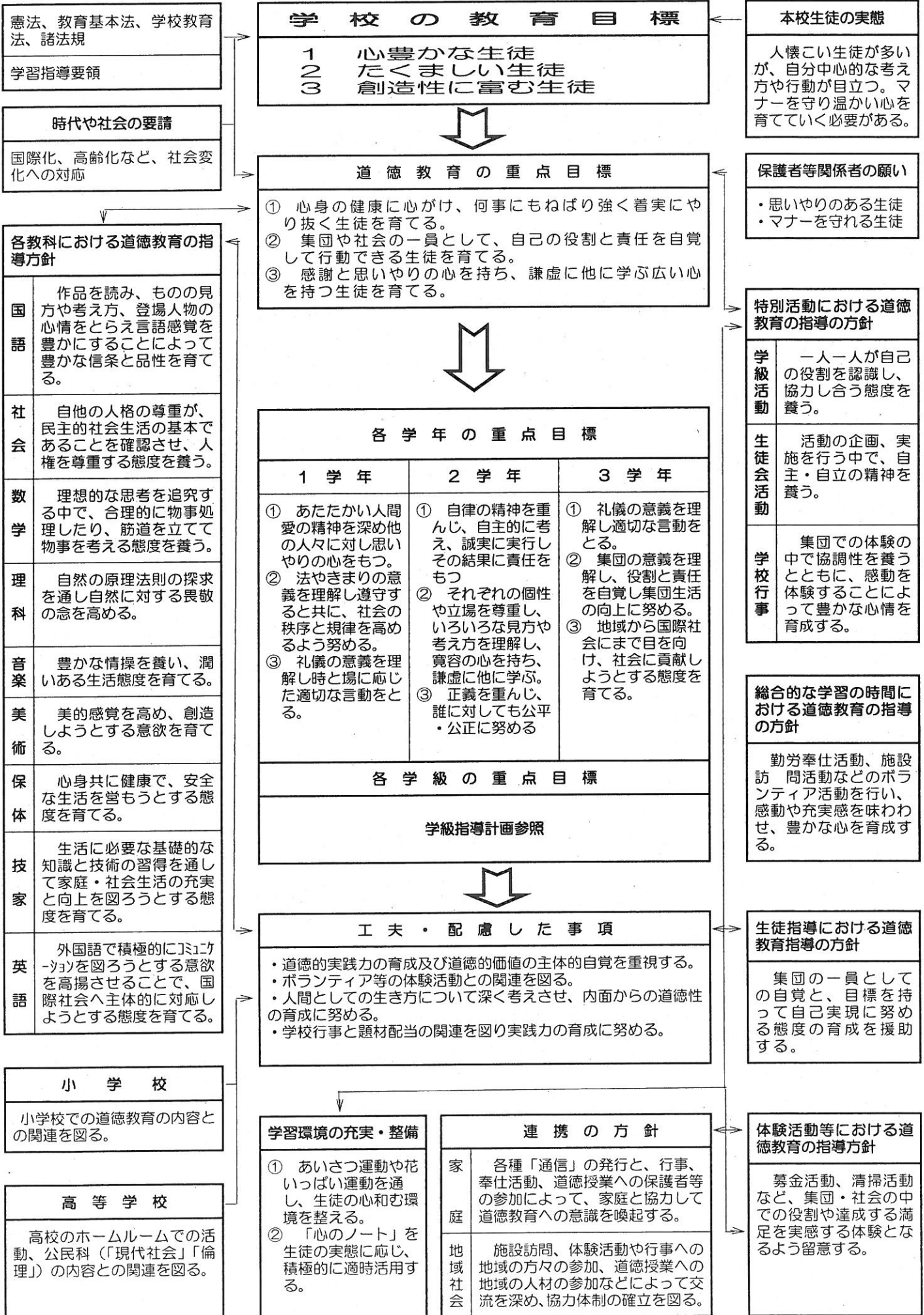
活用する力・解決する力を持った子どもの育成
学習や生活など様々な場面での課題に対して、身に
付け付けた知識や技能、経験などを活用し、自ら考え、判
断し、最後まであきらめずに解決していく力をもった
心身ともにたくましく、子どもを育てる。

自分・学校・喜多方に誇りをもてる教育

- I 確かな学力をつける
- II 豊かな心・きらめく個性を育む
- III 健康でたくましい体をつくる
- IV 学びを支える環境をつくる

平成25年度 道徳教育 全体計画

(資料2)



平成25年度 道徳 年間指導計画

計画作成上特に工夫、配慮した事項			○ 生徒の実態に合わせた資料を配当し、また、学校行事との関連にも考慮し、計画を作成した。 ○ 3年間を通して、系統性を持たせ、発展的に指導できるように主題の配列を考慮した。			
1 学 年			2 学 年		3 学 年	
月	番号	【主題名】 資料名	番号	【主題名】 資料名	番号	【主題名】 資料名
4	1	【感謝の気持ち】 キタジマくんからのメッセージ	1	【身近な国際理解】 私にできること	1	【生きる力】 あなたはすごい力で生まれてきた
	2	【かけがえのない自然】 ハチドリのひとしずく	2	【着実にやり抜く意志】 ハチドリのひとしずく	2	【集団と役割】 ハチドリのひとしずく
	3	【責任の自覚】 増えた塩ます	3	【友に学ぶ】 クマのぬいぐるみと私	3	【規則の意義】 二通の手紙
5	4	【生命の尊さ】 花に寄せて	4	【礼儀の大切さ】 あいさつ	4	【希望に向かって】 高く遠い夢
	5	【男女の理解と協力】 班のできごと	5	【望ましい生活習慣】 ばなしの女王	5	【郷土への思い】 島うたの心を伝えたい
	6	【広い心で】 自分らしさー松井秀喜	6	【思いやる心】 心に寄りそう	6	【仕事に生きる】 たんぽぽ作業所
6	7	【正義を貫く】 いじめっ子の気持ち	7	【母校の誇り】 四十七年に感謝をこめて	7	【感謝を伝える】 手紙
	8	【人のやさしさ】 心をつなぐバス	8	【人間の尊厳】 奇跡の一週間	8	【真の国際貢献】 世界の地雷とたたかう町工場のオジン
	9	【世界の人のために】 命を助けたい	9	【郷土を愛する心】 祭りの夜	9	【自己を見つめる】 ほくにもこんな「よいところ」がある
	10	【奉仕の精神】 楽寿号に乗って	10	【人と人との交わり】 遠足で学んだこと	10	【限りある命を】 湖の伝説
7	11	【節度ある生活】 山に来る資格がない	11	【きまりを守る】 許さない心	11	【生活のリズム】 早朝ドリブル
	12	【やり抜く心】 九番バッター	12	【自分を探そう】 私は十四歳	12	【日本人の心】 花火と灯ろう流し
9	13	【心と形】 朝市の「おはようございます」	13	【愛と感謝】 愛	13	【心の平和を求めて】 命見つめて
	14	【みんなのために】 合唱コンクール	14	【温かい家庭】 ごめんね、おばあちゃん	14	【畏敬の念】 森からの伝言
	15	【友情の尊さ】 ちいちゃんをつめ	15	【人間みなきょうだい】 わが愛はヒマラヤのふもとへ	15	【差別・偏見のない社会】 伝えたいことがある
	16	【集団の中での協力】 全校一をめざして	16	【差別・偏見の克服】 仲よく暮らそう	16	【心の触れ合い】 言葉惜しみ
10	17	【よりよい社会をめざして】 本が泣いています	17	【感謝をあらわす】 バスに乗って	17	【母校を愛する】 V6をめざして
	18	【明るい家庭】 母はおいしい	18	【ともに支え合う】 震災の中で	18	【友情に支えられて】 塙生の宿
	19	【誠実な生き方】 デンさん	19	【身近な日本の文化】 Dream Autumn Dreams(Momiji)	19	【家族の願い】 父からの手紙
	20	【心がけたいこと】 忘れ物	20	【反省と向上】 十一月	20	【責任ある行動】 廃品回収で学んだこと
11	21	【真の思いやりとは】 思いやりの日々	21	【新しい生命】 妹に	21	【人間の弱さ醜さの克服】 足袋の季節
	22	【正義を求めて】 正義ってなに？	22	【集団生活の向上】 みんなでとんだ！	22	【思いやりの心】 流れ星
	23	【権利と義務】 選手に選ばれて	23	【自然と人間】 冬の使者「マガン」	23	【コミュニケーションの原点】 心にしみこむ「言葉」の力ー池上彰
	24	【命を見つめ命を支える】 決断！ 骨髄バンク移植第一号	24	【理想の実現】 左手でつかんだ音楽	24	【生きがい求めて】 雪ん子のうた
12	25	【ふるさとに生きる】 ほくのふるさと	25	【誠意ある行為】 金語楼さんのこと	25	【生き抜く力】 くちびるに歌を持って
	26	【働く喜び】 「看護する」仕事	26	【相手の立場で】 なみだ	26	【男女の人格の尊重】 戦いのあとで
1	27	【生きがいのある人生】 ジュリーマンの夢	27	【健全な異性観】 「たまたま女に生まれただけ」	27	【差別を許さない心】 卒業文集最後の二行
	28	【国際社会への貢献】 日本から来たおばさん	28	【人間の気高さ】 良心とのたたかい	28	【個性や立場の尊重】 しあわせ
	29	【自主と責任】 父のひとこと	29	【公害に抗して】 渡良瀬川の鉱毒	29	【人間への慈しみ】 あふれる愛
2	30	【広い心】 二度と通らない旅人	30	【人々のために】 われ、ここに生きる	30	【奉仕の心】 加山さんの願い
	31	【反省と努力】 木箱の中のえんぴつたち	31	【よりよい社会の実現】 住みよい社会に	31	【自分の生き方】 「道程」との出会い
	32	【伝統や文化の継承】 古都の雅、菓子の心	32	【自律と責任】 一人しかいない自分	32	【人類への愛】 もっと生きたい
	33	【集団生活の向上】 席がえ	33	【かけがえのない命】 書かれなかった遺書	33	【公德のモラル】 缶コーヒー
3	34	【生きることの大切さ】 見沼に降る星	34	【国境を超えた愛】 六千人の命のビザ	34	【命をいとおしむ】 たとえばくに明日はなくとも
	35	【自然のすばらしさ】 火の島	35	【自然への畏敬】 夜は人間以外のものの時間	35	【自然を守る】 よみがえれ、日本海！

平成 25 年度 道徳教育の学級における指導計画

(資料4)

第1学年2組 (男子14名+女子11名=計25名 担任：兼松博子)

道徳教育全体計画

第1学年の重点目標

- ・礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。
- ・あたたかい人間愛の精神を深め他の人々に思いやりの心をもつ。
- ・法や決まりの意義を理解し遵守するとともに、社会の秩序と規律を高めるよう努める。

学級経営の重点

- ・QUTテストの結果を踏まえ、個人個人にやるべき事に取り組む習慣を育成する。また、集団生活のルールに従って活動する習慣を身につけさせる。
- ・支援が必要な生徒に配慮しながら、学級経営をしていく。

道徳の時間の指導方針

- (1) 道徳教育は、本校道徳教育全体を通じて行うものとし、全学年を通じ、また、あらゆる機会をとらえ「豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚」を深めていく。
- (2) 道徳教育は、道徳の時間の指導を中核として、道徳の内面的自覚(内面に根ざした道徳性)を高めていく。
- (3) 道徳の時間の指導を効果的にするため、指導計画、研究方法(個に応じた指導の工夫・教材開発)資料などの研究を行い、授業の充実をめぐる。
- (4) 学級における指導計画を充実し、生徒の実態をふまえた道徳教育の実践に努める。
- (5) 各教科および特別活動・総合的な学習の時間などにおける道徳教育の教科に努める。
- (6) 全教師が共通の視点に立って、道徳実践の指導にあたる。
- (7) 全教師が共通理解をもち、学級・学校の道徳的環境の醸成に努める。
- (8) 地域社会、家庭との協力によって、指導に一貫性が保たれるように、相互連携に努める。
- (9) 道徳教育の評価については、各領域ごとの評価をもとに総合的に判断する。また、それらをもとに、指導の改善に努める。

道徳の時間における指導の工夫

- 話し合い活動を多く取り入れ、互いの意見を尊重し合い、多様な価値観があることに気づかせると共に、その中からより高い価値を追求できるような、授業の展開に心がける。
- 生徒の興味・関心を高めると共に、道徳的価値観についての自覚を深めさせる手がかりとなる資料の選択、開発に努める。
- 各教科、特別活動、総合的な学習の時間などとの関連を図り、総合単元的な学習計画を立て指導の充実をめぐる。

年間指導計画

豊かな体験との関連

- 校内球技大会、文化祭、花いっぱい運動などの行事を通して体験したことや感じたことを道徳の時間の指導と意図的に関連づけ、「体験の場→補充・深化・統合→実践(場)の評価の場」という流れを確立する。
- 班活動の活性化を図り、学級の時間(短学活、学級活動等)を利用して、自己の属する集団のあり方と自分の関わり方を考えさせる機会を設け集団生活の向上に努めさせる。

日常の学校生活での体験の場

- | | |
|--------|---|
| 朝の活動 | ○登校(さわやかなあいさつで一日をむかえる。)
○朝活動(朝の読書、短学活を通じ、健康観察を行うと共に見通しをもち、落ち着いた一日を送ろうとする態度を養う。) |
| 休憩 | ○授業の準備と教室移動(時間を守る。)
○友達との交流(昼休みは、友達との交流を深める。) |
| 給食 | ○給食(弁当)(衛生管理と健康管理に努める態度を養う。) |
| 放課後の活動 | ○清掃活動(協力し合い、進んで環境美化に努めようとする態度を養う。)
○帰りの短学活(一日の生活を振り返り、反省する気持ちと向上心育てる。次の日の連絡を聞き、見通しをもって計画的な生活を送ろうとする態度を養う。)
○係、委員会活動(集団生活を向上させようとする心育てる) |

家庭・地域社会との連携

- 保護者や家庭・地域の事を教師が理解するとともに、家庭が学校の教育目標を認識し、生徒のための共通理解を図る。
- 家庭環境調査や家庭訪問等から家庭状況や雰囲気的な面まで、きめ細かくその様子を把握する。(家庭背景の理解)
- 育成会、公民館等の社会教育機関との協力・連携を密にする。(関係諸機関との連携)
- PTA活動、懇談会、学年通信、授業参観、学校行事、学校公開等を通して学校で行なっている道徳教育の趣旨の理解を図る。(保護者、地域への広報)
- 関係小学校・高等学校との連携を密にし生徒理解を図る。(生徒理解と長期的評価)

生徒の道徳性の実態

- 学校が喜多方市の中心部に位置し、商店や飲食店が数多くあり、住宅も密集している地域である。人懐こい生徒が多いが、自分中心の考え方や行動が目立つ。マナーやあたたかい心を伝えたい。
- 学区には3つの小学校がある。小学校毎の規模が違っており、入学後初めて出会う友達が多いが、男女問わず打ち解け合い、互いを信頼し協力しながら仲良く生活している。
- あいさつや言葉遣いについては、中学生らしく好感もてる生徒が多い。
- 学級の活動や生徒会活動において、責任をもって行う姿は見られるものの、自主的な活動とは言い切れない面もある。また、奉仕活動に興味をもつ生徒は多いものの、自ら積極的に活動している生徒は少ない。
- 苦しいことや困難なことがあると、そこから、逃げ出してしまう生徒も少なくない。

各教科指導の重点

- 各教科の目標、内容や教材との関わり、学習活動や学習態度への配慮、教師の姿勢による感化など、道徳の時間との関連や各教科との連携を深め、道徳教育を効果的、総合的に進める。
- | | |
|------|---|
| 国語 | ・作品を読み、ものの見方や考え、登場人物の心情をとらえ、言語感覚を豊かにすることによって豊かな情操と感性を育てる。 |
| 社会 | ・自他の人格の尊重が、民主的な社会生活の基本であることを認識させ、人権を尊重する態度を養う。
・国際社会に目を向ける態度を養う。 |
| 数学 | ・理想的な思考を追究する中で、合理的に物事処理したり、筋道を立てて物事を考える態度を養う。
・的確な判断力を育てる。 |
| 理科 | ・自然の原理、法則の探求を通して、自然に対する畏敬の念を高める。
・地球上の全てのものの生命を尊ぶ態度を養う。 |
| 音楽 | ・豊かな情操を養い、潤いある生活態度を育てる。 |
| 美術 | ・美的感覚を高め、創造しようとする意欲を育てる。 |
| 保健体育 | ・心身共に健康で、安全な生活を営もうとする態度を育てる。 |
| 技術 | ・生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して家庭生活や社会生活の充実と向上を図ろうとする態度を育てる。 |
| 英語 | ・外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めることで、国際社会へ主体的に対応しようとする態度を育てる。 |

他領域の指導の重点

- | | |
|----|---|
| 環境 | ・自然や郷土を愛する心を育てると共に、積極的にそれを守ろうとする実践力を養う。 |
| 国際 | ・自国の文化や伝統を愛する心を育てると共に、諸外国にも目を向け、広い視野から物事を判断する態度を養う。 |
| 情報 | ・必要な情報を選択できる能力を養うと共に、自ら進んで課題解決のできる能力を養う。
・情報教育担当教師との連携し、情報モラルに関する指導の徹底を図る。 |

教育環境の整備計画

- 「心のノート」や学級日誌を活用し、生徒と教師の人間関係の築きの場と機会を積極的に設ける。
- 学級の掲示板を整え、係や委員会の活動状況を互いに紹介したり、互いの成長の跡を確認できるような工夫を行う。
- 短学活において、1日をふり返ると共に互いのよい行いや行動を称え合う機会と場を設ける。

「総合的な学習の時間」指導の重点

- 学習旅行・職場訪問・上級学校訪問・クロスカリキュラムの横断的な学習活動を通して活用力を育てると共に、自己の生き方を追求する態度を育てる。

特別活動指導の重点

- 望ましい集団活動を通して、個性の伸長を図り、自主的・実践的な態度を育てるとともに、自己を生かす能力を養う。

- | | |
|-------|---|
| 学級活動 | ・社会連帯感の育成、集団の一員としての自覚
・協力し生活の向上を目指す実践的態度、日常の基本的生活習慣
・責任、協力、尊重、保健などの意識→実践力 |
| 生徒会活動 | ・当たり前の事を当たり前にできるようにする
・爽やかなあいさつの響く学校にする
・いじめ、破壊などのない「安心・安全」な学校にする |
| 学校行事 | ・豊かな道徳的体験の場と機会
・個のあり方、協力の仕方、規則の尊重、社会連帯感意識の尊重
・職場体験活動との連携 |

- | | |
|-----|---|
| 部活動 | ・異年齢集団が共通の興味・関心を自主的・自発的に追究することにより、社会性を養い、個性の伸長を図る。
・共通の目標をもつ集団の中で、自己能力と個性を知り、自己を高めようとする意欲を持ち、根気強く取り組もうとする態度を育てる。 |
|-----|---|

生徒指導の運営方針

- 喜多方市人作りの指針を具体的に理解させ、集団生活の規律と向上を図る。
- 各係、委員会の計画、立案された内容を明確に実現する。
- 全教師が共通理解の中で生徒指導ができるよう、各学年や組織の連携を重視し、実践する。

学校目標

- 1 心豊かな生徒
(思いやり・共生)
- 2 たくましい生徒
(耐性・健康)
- 3 創造性に富む生徒
(発展・表現)

基本的な生活習慣に関する指導計画

- 「あたりまえのことをあたりまえにする」
- あいさつをする
 - 時間を守る
 - 身支度を整える
 - 清掃に真剣に取り組む

学級目標

- 助け合って勉強できるクラス
- あいさつをしっかりとるクラス
- 文武両道

他学級・学年との連携

- 校内の各行事や生徒会活動等を通して他の学級・学年との連携を深める。
- 学年通信などを活用し、情報交換を密にする。

学年：	1学期：
学年：	2学期：
学年：	学年：

研究のまとめ

◇ 授業研究と考察

<検証授業Ⅰー①>

- ・ 授業実施学年 第1学年
 - ・ 主題名 「家族の愛情をみつめる」
 - ・ 内容項目 4ー(6) 家族愛
 - ・ 資料名 「母の涙」
 - ・ 授業者 兼松 博子
- 指導案：(別紙資料 道徳)

1 研究主題・副主題との関わり

生徒が資料内容をよく理解し、自分の考えを持ち、互いの考えを伝え合えるよう、次の手立てを考えた。

- (1) 主人公の状況がよく分かるように、ペットボトルや爪楊枝を使って具体的に示す。また、資料を読む前に絵やカードを使って大まかな内容をつかませる。
- (2) 生徒自身が自分の考えをもてるように、話合いの時には資料をしまわせる。
- (3) 展開部で、自分の考えを持ち互いの考えを伝え合えるよう、役割演技とグループでの話合い活動を取り入れる。

2 事後研究会から

【成果や感想】

- (1) ペットボトルや爪楊枝など具体的なものの準備や、資料を読む前の絵やカードは、登場人物の状況や自分との違いがわかりやすく、生徒の資料への関心も高まった。
- (2) 役割演技を行うことで、生徒の考えが自然に発せられていた。一人ではなく、あと一人ぐらい聞いてみてもよかったのではと感じた。
- (3) 資料やワークシートをしっかりと準備されていて、生徒は資料の内容をよく理解して考えることができていた。しっかりと自分の振り返りができた生徒もいた。

【課題】

- (1) 資料の主人公が特殊な例だったので、自分と重ね合わせるのができにくい生徒もいたのではないかな。
- (2) 主題名を最初に黒板に提示するのは、どうだろうか。それによって、価値に合わせた生徒の意見が出てしまうのではないかな。小学校では出さない。
その価値の言葉の本当の意味は知らないで、そのことについて学ぶということではいいのかもしれない。

【ご指導】

会津教育事務所指導主事 渡部 朋史先生

- ・ 指導の方向性は大丈夫。
- ・ 道徳では中心発問が大事で、価値がマイナスからプラスになるところにある。
- ・ 質問の仕方も、「～どんな気持ち?」「～どんなことを考えていたの?」といった言い方に

するとよい。

- ・ 話し合いでは、じっくり話し合う時は2人、多様な価値を引き出したい時は5、6人、全体での話し合いでは、もっと横へのつながりがあるとよい。

「A君は、こう言っていたけれど、どう思う？」など。

- ・ 道徳の時間は、道徳の時間以外の道徳教育の「補充、深化、統合」であり、〇〇行事の前にやるのではなく、〇〇の行事や活動の後に道徳の時間で考える。また、全体計画の中にそれぞれの価値項目が、各教科や特別活動の中のどんな内容と関連しているかがわかるものがあるとよい。（せめて、学年での重点価値項目についてだけでもあるとよい）

最近はこの内容が重視されている。これがあると、指導案の生徒観に表せる。

- 最後の生徒の振り返りの発表を聞くと、今日の授業の目標が十分に達成できたことが分かる。主人公のその後の様子ともうまくつながり、感動的な終末だった。
- 授業の流れ、発問等ねらいにせまったものとなっており、使用分析や生徒の実態把握をしっかり行ったことがよくわかった。
- 道徳的価値を深めるために、話し合い活動が充実するよう、方法、形態などをさらに工夫してほしい。

喜多方市教育委員会指導主事 鈴木 茂雄先生

- 導入・展開・終末にかけ、豊富な資料と生徒の活動、話し合いなど主体的な学習が展開されていた。
- 教師の発問も精選され、テーマにせまるものだった。
- この字型の学習形態は話し合う活動には効果的である。しかし、グループで話し合う際には不規則な配置になるので今後、工夫が必要かと思われる。
- ワークシートにまとめながら、道徳的な価値観に触れていくための時間を確保していきたい。そのためには前半の部分をいかに効率よく進めていくか、工夫していきたい。
- 教師との役割演技は、一人一人の生徒の内面を振り返るのに大変効果的である。物事には両面の価値観があることに十分気づくことができたと思われる。

3 事後アンケートの結果

(4・・・大変よくできた 1・・・できなかった)

① 人の意見をよく聞きましたか。	平均 3. 4
② 登場人物（母、美由紀）の立場に立って深く考えましたか。	平均 3. 1
③ あなたは話し合い活動の中で発言ができましたか。	平均 2. 9
④ 友達の意見を聞いて、自分の考えを深めましたか。	平均 3. 3
⑤ 自分の生き方について振り返ることができましたか。	平均 3. 3
今日の授業の感想	・改めて家族のことを振り返ると、自分は今までわがままだと思いました。 ・しっかりしたいです。 ・みんなのいろいろな考えや意見が聞けて、よかったと思う。

4 考察（今後の授業に向けて）

- ・ 役割演技をする時の、教師の質問。生徒の本音が引き出せるように、生徒のさまざまな言葉を予想し、それを切り返せる言葉を十分に考えておく。
- ・ 全体での話し合いの時、横へのつながりをもう少し意識し、意見をつなげ、深めたい。
- ・ 自分の意見を持てず、グループの中で発言できなかった生徒も何人かいるので、自分の考えをもつことを、さまざまな場面で取り入れていきたい。
- ・ 全体計画の見直し。他教科との関わりを指導案の中に入れられるようにしていきたい。

<検証授業Ⅰー②>

- ・ 授業実施学年 第1学年
 - ・ 主題名 「誠実な心」
 - ・ 内容項目 1ー（3）誠実な心
 - ・ 資料名 「タッチアウト」
 - ・ 授業者 兼松 博子
- 指導案：（別紙資料 道徳 ）

1 研究主題・副主題との関わり

生徒が資料内容をよく理解し、自分の考えを持ち、互いの考えを伝え合えるよう、次の手立てを考えた。

- （1）主人公の状況がよく分かるように、野球の写真を使って示す。また、資料を読む前に絵やカードを使って大まかな内容をつかませる。
- （2）生徒自身が自分の考えをもてるように、話し合いの時には資料をしまわせる。また、前半部で自分の考えを、矢印を使って目に見える形にする。
- （3）展開部で、自分の考えを持ち互いの考えを伝え合えるよう、役割演技とグループでの話し合い活動を取り入れる。今回の役割演技では、生徒二人に出てもらい、相反する気持ちを出させるため、教師は生徒の考えを引き出すコーディネイトの立場をとる。班での意見交換がきちんと行われるように、自分の考えを書く時間や発表の順番の指示するなど、確実にできるようにする。

2 事後研究会から

【成果や感想、質疑など】

- コの字型で意見が出しやすい雰囲気になっていた。
- 役割演技では生徒がしっかり自分の考えを主張し、盛り上がっていてよかった。
- 生徒の意見を吸い上げ、教師がうまく束ねていた。
- 資料をしまったことで、生徒は自分でよく考えていた。
- ゲスト・ティーチャーの話が効果的でよかった。
- 意見発表後の拍手がよかった。
- 三段階の発問構成も、生徒の考えを深めるものになっていた。
- 質問を入れていないワークシートもよかった。
- △ 振り返りでは、今までの自分自身について十分に振り返らせたい。
- △ なぜ、一貫して僕の気持ちでずっと通さなかったのか。
- △ 中心発問は「なぜ、悩んでいるのか」ではなく「僕に、手紙を書いてみよう」の方がよかったのではないか。

【ご指導】

福島県教育長義務教育課指導主事 大内 克之 先生

- コの字型は、他者理解するうえでもよい形だ。友の顔を見て話し合える。
- 導入がすっきりしてよかった。導入で価値か資料の方向づけができるとうい。
- 発問は資料分析がしっかりしているためよかった。
- 役割演技でみんな笑顔になっていた。演技後、本音をつぶやいていた生徒もいた。
- 子どもの心が揺さぶられた授業だった。

<これからの道徳について>

- ① 子どもと共に考え、教師も一緒に悩む授業。(今日の授業で言えば、教師の心の声)
- ② 本時の価値、ねらいをとらえる。
- ③ 授業の展開は多様に。
 - ・資料が2時間扱いでも良い。
 - ・ゲストティーチャーは最後とは限らない。いろんな場面で出しても良い。など。
- ④ 振り返りは資料から完全にはなれなくてもいいだろう。多様な展開があってもよい。

3 事後アンケートの結果

(4・・・大変よくできた 1・・・できなかった)

↑ 前回よりアップ

① 人の意見をよく聞きましたか。	平均 3. 7 ↑
② 登場人物の立場に立って深く考えましたか。	平均 3. 2 ↑
③ あなたは話し合い活動の中で発言ができましたか。	平均 2. 9
④ 友達の意見を聞いて、自分の考えを深めましたか。	平均 3. 3
⑤ 自分の生き方について振り返ることができましたか。	平均 3. 4 ↑
今日の授業の感想	・しっかり発言ができたから良かったです。 ・自分の考えを発言できたからよかった。 ・「正直とか誠実」は、時には自分を傷つけるんだと思いました。

4 考察(前回の授業後、改善したことなど)

- 役割演技では、生徒の本音を引き出せるように、相反する意見をもつ生徒を代表として出し、お互いの考えを投げかけることで、前回より多くの言葉で自分の意見を主張していた。
- 全体での話し合いの時、横へのつながりをもう少し意識し、意見をつなげ深めたかったので、個人の意見を出させたらそれを全体に投げかけることで、補足の意見などを引き出すことができた。
- 自分の意見を持てなかった生徒がいたので、自分の考えを矢印で示す活動を取り入れたことで、全員がどちらかの立場に立って、考えることができた。また、3つ目の発問内容は少し難しかったが、それでも、なんとか自分の考えをもとうとしていた。
- 全体計画を見直し、この授業での他教科との関わりを指導案の中に入れて、指導案を作成した。
 - ・ アンケート結果を見ると、③④の内容の数字的な変化は見られなかったが、前回より資料が難しくなった上での授業だったので、人の心の深い部分を考える授業にはなっていたと思う。生徒

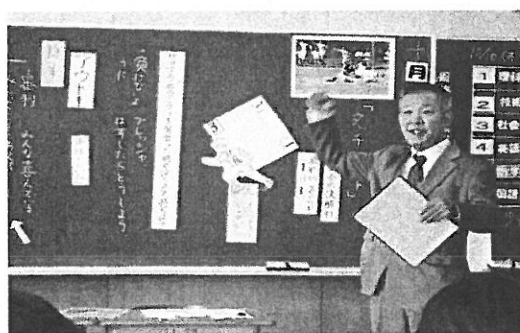
の発言内容の向上やゲストティーチャーの興味深い話により、聞く態度の向上が数字となって表れた。



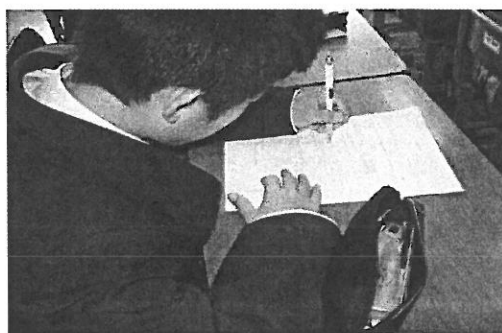
コの字型



二人の生徒との役割演技



ゲストティーチャーの話



書く活動

道徳アンケート

今の自分の様子についてチェック（あてはまるものに○）してみよう。

成績には関係ないので、正直に書くこと。

年 組 番 名前 []

(4・よくできている 1・・・できていない)

			アンケート項目	自己評価
自分自身のこと	1－(1)	基本的な生活習慣	時間・身だしなみ・整理整頓など、きちんとしていますか。	4・3・2・1
	1－(2)	希望・勇気・強い意志	目標をもって、それをやりぬこうと努力していますか。	4・3・2・1
	1－(3)	自主自立	自主的（自分で）に考えて誠実に実行し、その結果に責任をもつことができるか。	4・3・2・1
	1－(4)	真理愛	真実を追い求め、理想の実現を目指そうとしているか。	4・3・2・1
	1－(5)	個性伸長	自己を見つめ、自分自身を伸ばして充実した生き方を目指そうとしていますか。	4・3・2・1
他の人のこと	2－(1)	礼儀	礼儀の意義を理解し、時と場に合った適切な言動をとろうと努めていますか。	4・3・2・1
	2－(2)	感謝と思いやり	他の人に対して、感謝と思いやりの気持ちをもって生活していますか。	4・3・2・1
	2－(3)	信頼友情	友情の尊さが分かり、友達同士互いに励まし合い、高め合うよう努力していますか。	4・3・2・1
	2－(4)	男女の敬愛	異性について正しい理解を深め、相手の人格を尊重しようとしていますか。	4・3・2・1
	2－(5)	謙虚	それぞれの立場を理解し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して謙虚に他に学ぼうとしていますか。	4・3・2・1
	2－(6)	感謝	多くの人との関わりの中で生きていることを知り、感謝の気持ちをもって、人と接していますか。	4・3・2・1
自然崇高	3－(1)	自然愛・畏敬の念	自然を愛し、美しいものに感動する心を持ち、人間の力を越えたものに心動かされることがありますか。	4・3・2・1
	3－(2)	生命尊重	命の大切さがわかり、かけがえのない生命を大切に思う気持ちで生活していますか。	4・3・2・1
	3－(3)	人間の強さ気高さ	ずるい気持ちなどなく、誇り（プライド）をもって、よりよい人生を送ろうと努力していますか。	4・3・2・1
集団や社会との関わり	4－(1)	役割と責任の自覚	集団の中で、役割と責任を自覚しながら、集団生活を向上させようと努力して生活していますか。	4・3・2・1
	4－(2)	決まり、権利義務	きまりの意味を理解し、自他の権利を理解して生活しようと努力していますか。	4・3・2・1
	4－(3)	公德心	公共のマナーを理解し、自他の権利を理解して生活しようと努力していますか。	4・3・2・1
	4－(4)	公正公平	誰に対しても平等に接し、公平にしようと努力していますか。	4・3・2・1
	4－(5)	勤労・奉仕	働くことの尊さを理解し、働くことにボランティア精神で取り組んでいますか。	4・3・2・1
	4－(6)	家族愛	家族の一員として自覚を持ち、充実した生活を築こうとしていますか。	4・3・2・1
	4－(7)	愛校心	学校や学級の一員としての自覚を持ち、協力してよりよい校風を築いていこうと努力していますか。	4・3・2・1
	4－(8)	郷土愛	福島（地域）に愛着を感じ、福島（地域）の発展を願う気持ちで生活していますか。	4・3・2・1
	4－(9)	愛国心	自分は日本人であり、日本が大好きであるというような気持ちで生活していますか。	4・3・2・1
	4－(10)	人類愛	世界の中の日本人としての自覚を持ち、国際的視野に立って世界平和と人類の幸福を願う気持ちがありますか。	4・3・2・1

第1学年2組 道徳学習指導案

日 時 平成25年10月9日(水) 2校時
場 所 1年2組教室 指導者: 兼松 博子

- 1 主題名 『誠実な心』 中心価値: [誠実な心 1-(3)]
関連価値: [弱さの克服 3-(3) 正義4-(3)]
- 2 資料名 『タッチアウト』 [出典: 中学生の道徳2 「自分を考える」あかつき]

3 主題の構想

(1) 価値観

人間は決して完全なものではなく弱さも持っている。そのため時として様々な誘惑に負け、易きに流れてしまう経験は誰もがもっていることである。そんな時には悩み、苦しみ、自己嫌悪に陥ってしまうこともあるだろう。しかしそれは、良心があるからである。人には正直さ、誠実さがある。だから、たとえ間違った行動はとっていなくても、だれにも気づかれなくても、自分の心にごまかしたところがあれば、それを責める良心との間で悩み続けるのだ。そういった良心の大切さに気づき、自分や社会に対して誠実に生きようとする心情を育てていきたい。

(2) 生徒観

表面的には明るく元気で、人なつこい生徒が多く中学校生活を楽しんでいる。一方で教科や先生によって態度を変えたり、「先生は見えていないだろうから」という意識で行動したりするなど、安易な気持ちに流されている生徒も少なくない。考えが幼く、その時の感情が言動に出てしまうため、生徒同士の小さなトラブルや落ち着きのない生活、学習態度にもなっている。

5月に行ったQUTテスト(学級集団テスト)を見ても、学級の1/4の生徒が学級に不満感があり、学級生活や活動に建設的に取り組む意欲が低下している。その原因として、学習内容が理解できず集中して課題に取り組めないこと、周囲から非難の声があるため自分が周りから認められないと感じている生徒が複数いることが挙げられる。また、5月に行った道徳アンケートでも、中心価値の1-(3)が2, 5(4段階評価)と全項目の中で最も低い数字となっていて、これから大人になっていく上で大切な「誠実な気持ち」が十分に育っていない。

(3) 資料観

本資料は、自分が落球していたにも関わらず優勝し、東北大会の切符を手に入れた主人公が、良心の呵責に心を痛め続ける姿を通してねらいに迫るものである。本来ならばサヨナラ負けになる試合が延長戦へと持ち込まれ、優勝してしまう。誰にも打ち明けられずどうすることもできない自分と、そのことを責め続ける自分。主人公の心の内の葛藤に一人の人間が併せもつ心の弱さと誠実さがよく表れている。誠実がゆえに悩み苦しむ主人公に共感しながら、自らの生き方を見つめることができる資料である。

(4) 指導観

安易な気持ちに流されている生徒達に、誰が見ていようといまいと、誠実に生きることの大切さに気づかせたい。また、他人の失敗や弱さを非難するのではなく、そのような弱さは誰にでもあることも理解させたい。

話し合いにおいては、どの生徒も状況が理解できるように、資料を読ませる前に絵などを使ってイメージをつかませる。展開部分では役割演技を通して、生徒の考えとは異なる意見をぶつけ、本音が引き出せるようにする。また、グループでの意見交換の場面を作り、一人一人が発問に対し自分の考えを持ち、深めていけるように働きかける。話し合い後半では主人公のとった行動の善し悪しではなく、ずっと悩んでいることに焦点をあて、主人公の誠実さに気づかせたい。終末では、ゲストティーチャーの話を聞くことで、価値が継続するように印象づけたい。

4 発問構成と効果的な展開における手立て

発問構成

展開前段では中心発問以外に主な発問を二つにする。一つ目は主人公に対し共感的なもの。二つ目は葛藤した気持ち(価値)が出せるもの。中心発問である三つ目はその価値に迫るものとし、主人公の気持ちを考えさせる。

展開後段は資料から離れ、今までの自分の考え方や生活を振り返らせる発問を準備する。

効果的な展開

- 資料に縛られず自分の考えが持てるよう、話し合いの方向性をつかんだら資料をしまわせる。(手立て1)
- 二つ目の発問で葛藤した気持ちが本音で出せるように、代表生徒による役割演技(生徒は主人公、教師は心の声を演じる)を行う。(手立て2)
- 三つ目の発問ではグループでの話し合いを行い、全員が意見を述べられるようにする。(手立て3)
- 振り返りの時間は書く活動を取り入れ、今までの自分はどうかであったか、これからどのように生きていきたいかを考えさせる。(手立て4)

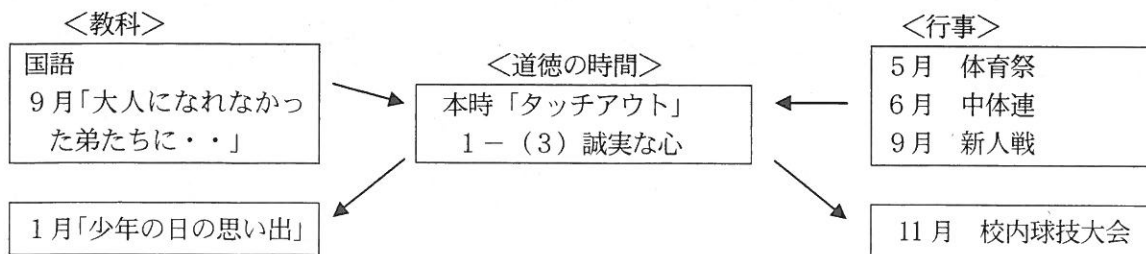
5 本時のねらい

人間の心には弱さ醜さ、誠実さが同居することに気づき、誠実さを励まし、自分に恥じない生き方をしようとする心情を育てる。

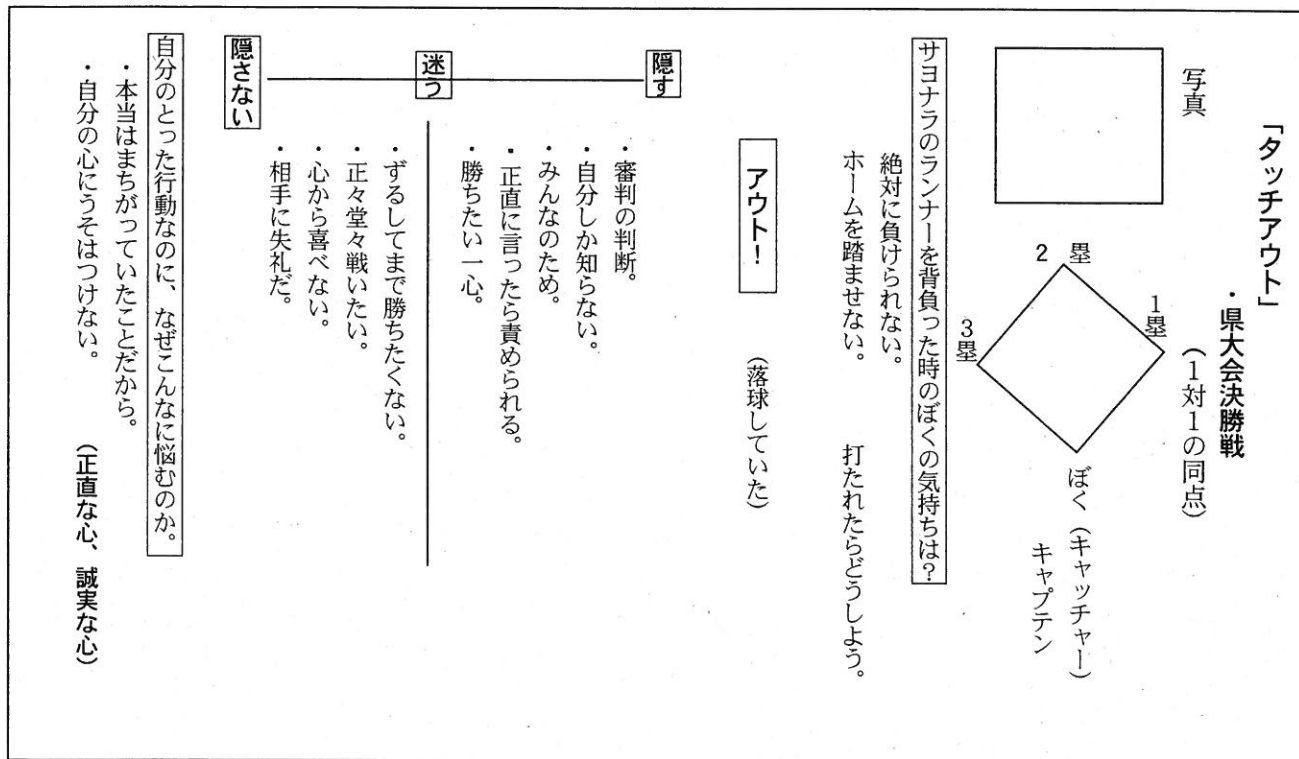
6 学習過程

段階	学習活動・学習内容 ○基本発問 ◎中心発問	時間 形態	○ 留意点 手立て ◇ 評価
導入	1 問題の意識化・価値の方向づけ ・新人戦の時の様子を思い出す。	3 コの 字型 一斉	○新人戦の時の様子を思い出させる。特に勝敗を分けたきわどいプレー（聖光学院高校）を例に取り、各競技にきわどいプレーがあることを思い出させ、資料への関心を持たせる。
展開	2 価値の追求・把握 (1) 登場人物、話のスタートの条件・状況を把握する。	4 一斉	○絵とカードを使い、資料の内容を捉えやすくする。
	(2) 資料の範読をする。	7 一斉	○生徒の反応を確かめながら臨場感のある範読となるようにする。また、主人公（僕）の気持ちになって範読を聞かせる。
	(3) 心に残った場面を挙げ、話し合いの方向性をつかむ。	4 一斉	○文章の展開を簡単に確認したあとに、心に残った場面や考えてみたい所を挙げさせ、課題意識をもたせる。 ○話し合いの方向性をつかんだら資料をしまわせる (手立て1)
	(4) 資料をもとに話し合う。		
開	○最終回、サヨナラのランナーを背負った時の「ぼく」は、どんな気持ちで守っているのだろう。	4 一斉	○不安はあるものの、勝ちたい一心で守っている主人公の強い気持ちを押さえる。
	○アウトの判定の直後、落球していたら、あなたならどうしますか。 ・まずはプリントに自分の考えの度合いを矢印で記入する。 ・なぜそう思うか、理由を考えワークシートに記入する。 ・代表生徒の役割演技により主人公の気持ちを考える。	10 個人 一斉	○（隠す・迷う・隠さない）のどれにあてはまるか挙手をさせ、クラス全体の大まかな価値の度合いを把握する。 ○審判がアウトと判定していること、勝ちたい一心から思わずボールを拾ってしまったという人間のとっさの行動ではあったが、本当にそれでいいのかと悩む主人公の心の内を、自分自身に置き換え考えさせることで、深く考えさせたい。 役割演技（3回）を通して生徒の心を揺さぶる。 生徒・・・主人公の立場（隠す・迷う・隠さない） 教師・・・心の声 (手立て2)
	◎自分のとった行動なのに、なぜ「ぼく」はこんなに悩むのだろう。	7 個人 班 一斉	○まずは個人で書かせた後、班で意見を述べ合わせる。その後、全体に紹介する。 (手立て3) ○仕方のなかった行動だったのに、試合後もずっと心を痛めているのは、ごまかしたくない、本当は間違っていたという主人公の正直さ、誠実さ、良心があったことを引き出したい。誠実という言葉が出なくても「うそをつきたくない」などの言葉でもよい。（ワークシート・発表）
	3 価値の内面的自覚 ・これまでの自分（ごまかしたり、正直に言えなかったりしたことなど）を振り返る。 また、今ならどう思うか、これからの自分の生き方についても記入する。	8 個人	○書く活動を取り入れることで、自己の生き方をじっくり見つめさせ、道徳的实践へ向けての道徳的意欲を高めさせたい。 (手立て4) ◇誰にでも弱さやずるさがあるが、それを誠実に受けとめてきたか、自分自身を振り返ることができたか。 (ワークシート・発表)
終末	4 価値の深化・継続化 ・ゲストティーチャーの話を聞く。	3 一斉	○ゲストティーチャーを招き、「誠実な心」についての話を聞き、道徳的实践への意欲を図る。

7 他の教育活動との関連

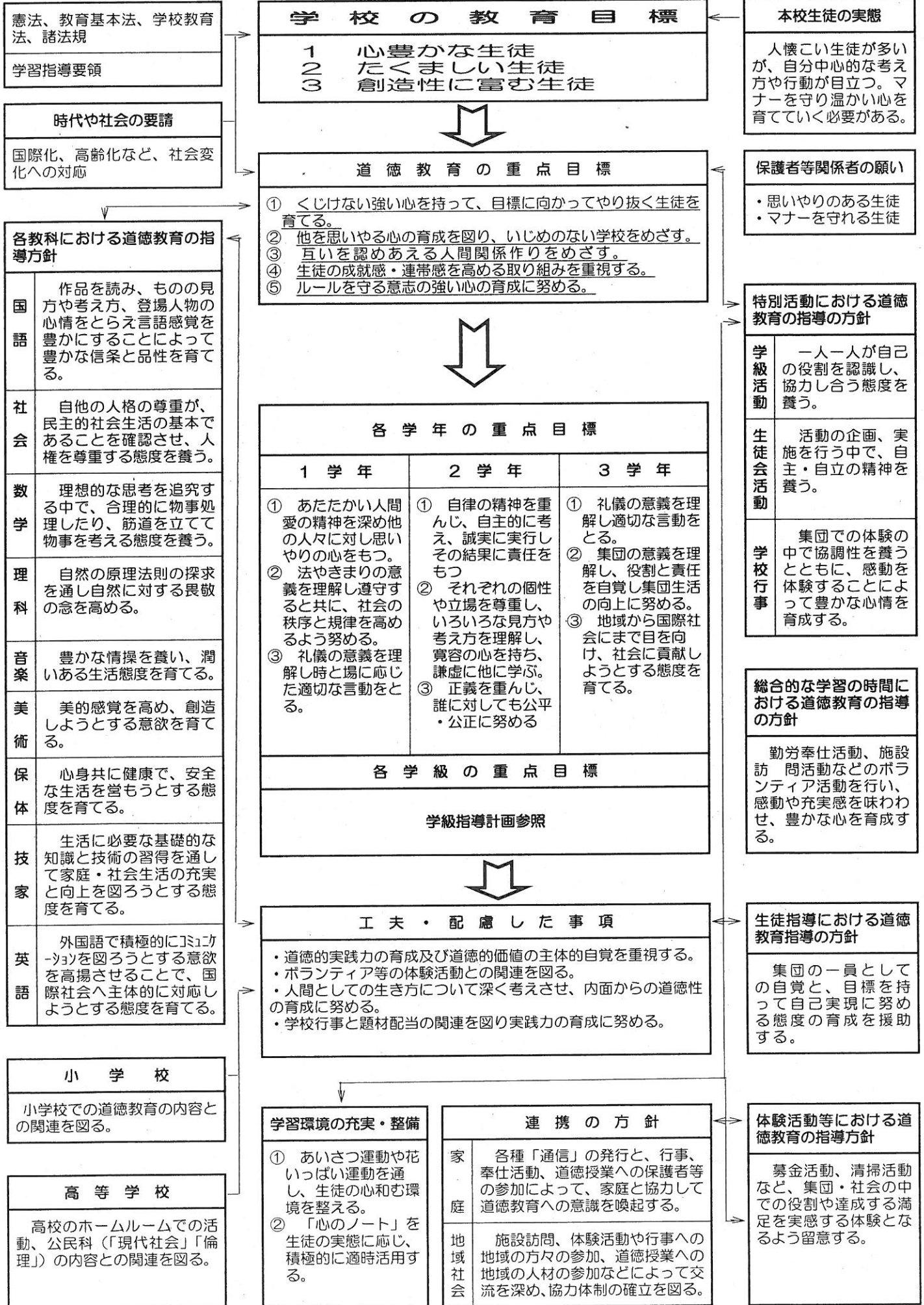


8 板書計画



平成26年度 道徳教育 全体計画

(資料7)



平成26年度 道徳 年間指導計画

計画作成上特に工夫、配慮した事項		○ 生徒の実態に合わせた資料を配当し、また、学校行事との関連にも考慮し、計画を作成した。 ○ 3年間を通して、系統性を持たせ、発展的に指導できるように主題の配列を考慮した。 ○ 道徳の授業に話あい活動を取り入れ、生徒の内面を引き出し、生徒同士の人間関係の醸成を図る。		
		1 学 年	2 学 年	3 学 年
月	番号	【主題名】 資料名	番号	【主題名】 資料名
4	1	【感謝の気持ち】 キタジマくんからのメッセージ	1	【身近な国際理解】 私にできること
	2	【かけがえのない自然】 ハチドリの一ひとすく	2	【着実にやり抜く意志】 ハチドリの一ひとすく
	3	【責任の自覚】 増えた塩ます	3	【友に学ぶ】 クマのぬいぐるみと私
5	4	【生命の尊さ】 花に寄せて	4	【礼儀の大切さ】 あいさつ
	5	【男女の理解と協力】 班のできごと	5	【望ましい生活習慣】 ばなしの女王
	6	【広い心で】 自分らしさー松井秀喜	6	【思いやる心】 心に寄りそう
6	7	【正義を貫く】 いじめっ子の気持ち	7	【母校の誇り】 四十七年に感謝をこめて
	8	【人のやさしさ】 心をつなぐパス	8	【人間の尊厳】 奇跡の一週間
	9	【世界の人人のために】 命を助けたい	9	【郷土を愛する心】 祭りの夜
	10	【奉仕の精神】 楽寿号に乗って	10	【人と人との交わり】 遠足で学んだこと
7	11	【節度ある生活】 山に来る資格がない	11	【きまりを守る】 許さない心
	12	【やり抜く心】 九番バッター	12	【自分を探そう】 私は十四歳
9	13	【心と形】 朝市の「おはようございます」	13	【愛と感謝】 愛
	14	【みんなのために】 合唱コンクール	14	【温かい家庭】 ごめんね、おばあちゃん
	15	【友情の尊さ】 ちいちゃんのつめ	15	【人間みなきょうだい】 わが愛はヒマラヤのふもとへ
	16	【集団の中での協力】 全校一をめざして	16	【差別・偏見の克服】 仲よく暮らそう
#	17	【よりよい社会をめざして】 本が泣いています	17	【感謝をあらわす】 バスに乗って
	18	【明るい家庭】 母はおいしい	18	【ともに支え合う】 震災の中で
	19	【誠実な生き方】 デンさん	19	【身近な日本の文化】 Dream Autumn Dreams(Momiji)
	20	【心がけたいこと】 忘れ物	20	【反省と向上】 十一月
#	21	【真の思いやりとは】 思いやりの日々	21	【新しい生命】 妹に
	22	【正義を求めて】 正義ってなに？	22	【集団生活の向上】 みんなでとんだ！
	23	【権利と義務】 選手に選ばれて	23	【自然と人間】 冬の使者「マガン」
	24	【命を見つめ命を支える】 決断！ 骨髄バンク移植第一号	24	【理想の実現】 左手でつかんだ音楽
#	25	【ふるさとに生きる】 ほくのふるさと	25	【誠意ある行為】 金語楼さんのこと
	26	【働く喜び】 「看護する」仕事	26	【相手の立場で】 なみだ
1	27	【生きがいのある人生】 シュリーマンの夢	27	【健全な異性観】 「たまたま女に生まれただけ」
	28	【国際社会への貢献】 日本から来たおばさん	28	【人間の気高さ】 良心とたたかい
	29	【自主と責任】 父のひとこと	29	【公害に抗して】 渡良瀬川の鉱毒
2	30	【広い心】 二度と通らない旅人	30	【人々のために】 われ、ここに生きる
	31	【反省と努力】 木箱の中のえんぴつたち	31	【よりよい社会の実現】 住みよい社会に
	32	【伝統や文化の継承】 古都の雅、菓子心	32	【自律と責任】 一人しかいない自分
	33	【集団生活の向上】 席がえ	33	【かけがえのない命】 書かれなかった遺書
3	34	【生きることの大切さ】 見沼に降る星	34	【国境を超えた愛】 六千人の命のピザ
	35	【自然のすばらしさ】 火の島	35	【自然への畏敬】 夜は人間以外のものの時間
				【生きる力】 あなたはすごい力で生まれてきた
				【集団と役割】 ハチドリの一ひとすく
				【規則の意義】 二通の手紙
				【希望に向かって】 高く遠い夢
				【郷土への思い】 島うたの心を伝えたい
				【仕事に生きる】 たんぼぼ作業所
				【感謝を伝える】 手紙
				【真の国際貢献】 世界の地雷とたたかう町工場のおジン
				【自己を見つめる】 ほくにもこんな「よいところ」がある
				【限りある命を】 湖の伝説
				【生活のリズム】 早朝ドリブル
				【日本人の心】 花火と灯ろう流し
				【心の平和を求めて】 命見つめて
				【畏敬の念】 森からの伝言
				【差別・偏見のない社会】 伝えたいことがある
				【心の触れ合い】 言葉惜しみ
				【母校を愛する】 V6をめざして
				【友情に支えられて】 通生の宿
				【家族の願い】 父からの手紙
				【責任ある行動】 廃品回収で学んだこと
				【人間の弱さ醜さの克服】 足袋の季節
				【思いやりの心】 流れ星
				【コミュニケーションの原点】 心にしみこむ「言葉」のカー池上彰
				【生きがいを求めて】 雪ん子のうた
				【生き抜く力】 くちびるに歌を持って
				【男女の人格の尊重】 戦いのあとで
				【差別を許さない心】 卒業文集最後の二行
				【個性や立場の尊重】 しあわせ
				【人間への慈しみ】 あふれる愛
				【奉仕の心】 加山さんの願い
				【自分の生き方】 「道程」との出会い
				【人類への愛】 もっと生きたい
				【公德のモラル】 缶コーヒー
				【命をいとおしむ】 たとえほくに明日はなくなとも
				【自然を守る】 よみがえれ、日本海！

【相双地区】新地町立駒ヶ嶺小学校



推進校紹介⑦

1 学校概要

学 校 名	新地町町立駒ヶ嶺小学校
所 在 地	福島県相馬郡新地町駒ヶ嶺字新町前52
校長名	鈴木孝彦
学校の教育目標	やさしく かしく たくましく
学級及び児童生徒数	普通学級6 (156名)
道徳教育にかかる 取組みの概要	自分の考えを持つ子ども、自分の考えを表現できる子ども、自分の考えを深めたり広めたりできる子どもを目指す。豊かなかかわり合いを大切にしながら、子どもが自分の考えをもち表現できる道徳の時間の指導を工夫していく。

2 研究テーマ

道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考え方を深める指導の充実
～豊かにかかわり合い、考えを深める道徳の時間の充実～

3 テーマ設定の理由

(1) 今日の課題から

現在の科学技術の進歩と発展は豊かな社会を形成してきた反面、情報化、国際化、少子高齢化など社会の多方面において急激な変化をもたらしている。しかも、その変化は加速度的に進んでいるばかりか、価値の多様化も進み、社会をより複雑なものにしている。

このような社会状況の中で、子どもの自制心や規範意識の希薄化、自己中心的な行動、生活習慣の確立の不十分さ、自分に自信がもてない等の子どもたちの心と体に関わる課題は少なくない。それ故子どもたちには、他者、社会、自然、環境等との豊かなかかわりを通して生きているという実感を味わったり、考えを深めたりしていくことで健全な心と体を育てていくことが必要であると考えます。

そこで、学校の集団生活の場としての機能を生かし、豊かなかかわりの中で、よりよい生き方を追究する道徳教育の充実を図る必要がある。また、東日本大震災や原子力災害で子どもたちが受けたストレスは大きく、この震災を風化させてはいけない反面、そのことで今後、心的外傷後ストレス障害等を発症することもありうるという懸念のもと、心のケアやサポートの面での道徳教育にも力を入れ、子どもたちが夢と希望をもって力強く生きようとする意欲を育てることが大切である。

(2) 本校の教育目標から

本校では「やさしく（思いやりのある子ども）」「かしく（よく考える子ども）」「たくましく（たくましい子ども）」を教育目標とし、「相手の立場や気持ちを考え、協力し合って行動する子ども」「よく聞き、よく考え、進んで課題を解決する子ども」「めあてに向かって、最後までやり抜く子ども」をめざしている。特に今年度は「めあてに向かって本気でやろう」を重点目標に掲げて、全教育活動を通じて実践していくことにした。子ども同士、教師、家庭、地域と豊かにかかわる中で、自分を見つめ、道徳的価値を自覚して自己の生き方について考え、よりよく生きることを求める子どもたちに成長してほしいと考える。これらの目標を実現するために、道徳の時間を要とした学校生活全体を通じて行う道徳教育の充実を図っていききたい。

そして、後述する「5 児童生徒の実態及び地域の課題」から主題を設定した。

(3) めざす子どもの姿

- 自分の考えを持つ子ども
- 自分の考えを表現できる子ども
- 自分の考えを深めたり広めたりできる子ども

(4) 研究仮説

豊かなかかわり合いを大切にしながら、子どもが自分の考えをもち、表現できる道徳の時間の指導を工夫していけば、めざす子どもの姿に近付き、主題にせまることができるであろう。

(5) 研究仮説のとらえ方

- 「豊かなかかわり合い」とは

子どもにとっての他者、社会、自然、環境とは、子どもが日々の生活の中でかわる「教師」「友だち」「学校で働く人」「保護者」「地域の人」などの子どもの身の回りの人や、「学校」「家庭」などの児童を取り巻く社会、そし

て「五感から得る様々な情報」等を含めた具体的な体験活動ととらえる。これらのかかわりは愛情や思いやり、協力や感謝、安心感や所属感、文化やきまり等児童の道徳性を育む上で、重要な役割を担っている。そこでの具体的な体験を道徳の時間に関連付けて指導することにより、子どもの道徳的価値を自覚させたり深めさせたりすることができ、道徳的実践力の育成につながるものと考ええる。

そのために道徳の時間では、自分の見方・考え方・感じ方を、他者の見方・考え方・感じ方と比較する中で、価値を自覚し今後の自分の生き方について考えさせていく。

○「自分の考えをもつ」「表現する」とは

「自分の考えをもつ」とは、これまでの体験等をもとに自分なりの考えをもつことである。これは、自分の価値の内在化への起点となる。

「表現する」とは、書いたり話したりする活動を通して、それまで曖昧だった考えを整理したり、今までの体験や自分自身のことを改めて見直したりすることである。これは、自分の考えに確信をもつきっかけになったり、自分の考えの矛盾に気づくヒントになったりし、自分の考えを客観的に見つめ直すことが可能となる。

○「深める」「広める」とは

他者の考えと比較するなどの表現活動を通して、新しい価値や見方・考え方に気付いたり、曖昧なことが明確になったりすることととらえる。

○「道徳の時間の指導の工夫」とは

以下の①～⑧の手立てを指導計画に位置付けて指導を工夫していくことで、めざす子どもの姿を具現していくことができるようにする。

- | | | |
|-----------|------------|--------------------|
| ① 資料提示の工夫 | ④ 書く活動の工夫 | ⑦ 説話の工夫 |
| ② 発問の工夫 | ⑤ 表現活動の工夫 | ⑧ ICT 器機の機能を生かした工夫 |
| ③ 話し合いの工夫 | ⑥ 板書を生かす工夫 | |

これらの手立てを行うには、すべて言語を介して行う。そこで、道徳の時間における言語の役割を次のようにとらえ、道徳的価値を自覚させたり深めさせたりしていく。

(資料1)

4 研究計画

第1年次(平成25年度)道徳的価値に気付くための指導の工夫

- ・ 研究推進計画の策定、指導案形式の検討・確立(5月下旬)
- ・ 児童、保護者、地域の実態調査(5月下旬、12月上旬)
- ・ 道徳年間指導計画の見直し(8月下旬)
- ・ 授業研究会の推進(6月中旬、7月中旬、9月上旬、9月下旬)
- ・ 道徳地区別推進協議会(11月7日)
- ・ 家庭、地域社会との連携(道徳通信発行:随時、授業公開:学校公開日)
- ・ 研究のまとめ(成果と課題の検討)(1月下旬)

5 児童生徒の実態及び地域の課題

本校の子どもたちは、明るく素直で伸び伸びと生活している。学習課題には前向きに取り組む子どもが多い。しかし、その一方で、進んで行動に移すことができず、自分本位の行動をとりがちな子どももいる。また、きまりを守ろうとする意識が全体的にやや低いといった課題もある。そして、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを受け止め、さらに自分の考えを深めるというコミュニケーション能力も十分とは言えない。

これらのことから、集団生活の場という学校の機能を生かして、道徳の時間の充実を図り、道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考えを深める指導の充実を図りたい。

6 道徳教育における校長の指導の方針

(資料2)

(1) 全教育活動を通じて豊かな心をはぐくむ道徳教育の充実に努める。

- ① 道徳教育推進教師を中心に、教育活動全体を通じて行う道徳教育を一層明確にするための全体計画・指導計画を整備する。
- ② 道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考えを深める指導の工夫と充実に努める。
- ③ 発達段階を踏まえ、児童の実態に即した重点的指導に努める。
- ④ 地域・家庭との連携を深めた道徳教育推進に努める。

7 平成25年度 道徳教育の全体計画の特徴

(資料3)

指導の時期、主題名、ねらい、資料を一覧にしたもので、必要に応じて修正し次年度に生かしていく。

8 平成25年度 道徳の時間の年間指導計画の特徴

(資料4)

道徳の指導計画(1年～6年)

全学年では1-(1) 節度ある生活態度

2-(1) 礼儀

3-(1) 生命の尊重

中学年では4-(1) 公德心, 規則の尊重

高学年では4-(6) 愛校心

を指導の重点とした。

9 平成25年度 学級における道徳の時間の指導計画の特徴

(資料5)

単学級により、8と同じ。

10 道徳教育推進教師等における実践レポート

本校は、平成25年度から3年間相馬地方小学校教育研究会の研究校となり、道徳教育の研究を進めている。今年度は、研究の1年次目ということで福島県の道徳研究主題を受けて地区の研究主題を設定し、現職教育と連携を図りながら研究にあたってきた。

(1) 道徳教育指導計画の作成に関することについて

本校の研究主題「道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考えを深める指導の充実 ～豊かにかかわり合い、考えを深める道徳の時間の充実～」を柱に、道徳教育全体計画を作成し、それをもとにして各学年の年間指導計画、そして、1時間毎の道徳の時間の指導計画とワークシートを学年毎の冊子として整え、授業に活用して成果や改善点を記録するようにしてきた。

平成26年度は、今年度の反省や全教育課程との関連、本校における道徳の重点指導内容などについて検討し、全体計画の作成を行った。特に、次の事項について全校で統一した。

① 本校の重点指導内容を、「節度ある生活態度」「思いやり・親切」「生命の尊重」とし、年間複数回実施する。

② 全教育活動との関連を図るため、実施時期を明確にする。

また、各学年の年間指導計画については、道徳の時間と教科、特別活動、行事、体験活動等との関連や実施時期が明確に把握できるよう形式を修正した。平成26年度も実践を積み重ねながら、随時見直し、修正をしていきたい。

(2) 道徳の時間の充実に関することについて

現職教育と連携して研究を行ってきた。そこで、道徳の授業をより充実させるため、現職教育調査資料部が中心となって児童の実態把握をしてきた。日々の観察や授業でのワークシート等の累積、道徳についてのアンケート等を実施して、全体の傾向や一人一人の道徳性やその変容の把握に努めてきた。また、全学年授業研究を行い、事前研・事後研で話し合ったり、指導を受けたりして、道徳の時間の授業力向上についても研究を進めてきた。

(3) 授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること

6月の授業公開では、2つの学年で道徳の授業を公開した。またその際、保護者に授業の感想を書いてもらい学年だよりで紹介した。11月のふくしま教育週間でも各学年、道徳の授業の公開を行った。

また、道徳便りや学年便りを発行し道徳教育への取組についてお知らせをし、啓発を図ってきた。今年度は、定期的に発行ができなかったのが、次年度は改善していきたい。家庭や地域に働きかけて、道徳の時間にゲストティーチャーとして参加していただくなどの実践も進めていきたい。

(4) 道徳教育における評価について

道徳の時間における評価については、児童の発言や表情・話し合いの内容・ワークシートや作文などを通して一人一人の見取りをしてきた。また、小規模校の特性を生かして職員間での情報交換を密に行うことで授業だけではなく、全ての教育活動を通しての見取りも行っている。

また、児童一人一人に道徳ファイルを持たせ、記録を残して評価につなげていけるようにした。ファイルには、自分でタイトルをつけさせて愛着がもてるようにした。道徳の時間のワークシートや教科・行事等で道徳教育に関わる資料などを、ファイルにとじて保管させる。記録を累積していくことで、一人一人の実態や道徳性の変容を把握し、評価の手がかりにしたいと考えている。ファイルは学年持ち上がりにして、道徳の時間の成長の記録を綴ったポートフォリオ的な役割を持ったファイルにさせていきたい。

11 道徳の時間にかかる資料

(資料6)

12 平成26年度 道徳教育全体計画の特徴

(資料7)

道徳の指導計画（1年～6年）

全学年では1－（1）節度ある生活態度

2－（2）思いやり、親切

3－（1）生命の尊重

を指導の重点とする。

14 成果と課題

(1) 「豊かなかわり合い」について

成果

児童にとって身近な存在のゲストティーチャーを起用したり、生活科の授業や行事体験も含めた日常生活との関連を図ったりしたことで、価値の自覚につなげることができた。具体的な体験をもとに想起することは、これまでの自己を振り返ったり、今後の自分の生き方について考えたりすることにつながった。道徳の授業の中では、コの字型やUの字型の形態で話し合ったことで、互いの表情を見ながら安心感を持って話し合うことができた。

課題

どの学年もアンケートの結果や日頃の観察内容を考慮し、工夫して取り組んだ。しかし、道徳的価値をより高いものにしていくには、意図的・計画的な指導や環境作りが必要である。様々な価値との関連性を意識しながら、調和のとれた形で児童の内面に道徳性が育成されるよう、学校・地域全体と児童とのつながりを踏まえて指導していかなければならない。そして、ただ体験させるのではなく、児童の五感を揺さぶるような体験活動を工夫していきたい。

(2) 「自分の考えをもつ」「表現する」について

成果

発問の工夫やワークシートの活用により、どの学年の児童にも自分の考えを持たせることができた。意欲的にワークシートへ記入したり、自分の考えを発表したりした。発言が苦手な児童も、吹き出しなど学年に応じたワークシートを使用したことで、記入は容易にできた。発表できなくても、友だちの発表を聞いたり、動作化している様子を集中して見たりすることもこれにつながることもと言えよう。資料内容や価値によっては、ワークシートへの記入の時間をたっぷり取ることで、じっくりとその価値へ向き合う時間を取った。

課題

ワークシートを使用することで、書く活動を通して自分と対話し、今後の生き方を見つめさせるきっかけになっていた。しかし、自分の考えをどのように表現したらよいかわからない児童もいる。「よい手本」としてではなく、「こんな書き方もある」という例を、教師が途中で示してあげる場合があってもよいと考える。

(3) 「深める」「広める」について

成果

自分の考えを理由も一緒に考えさせ、発表させたことで、様々な考えを知るようになった。ゲストティーチャーや教師の説話も集中して聞き、価値について深く考えることができた。授業の始まりと終わりでは、どの学年も何人かの考え方に変化が見られた。また、よくよく考えた結果結論が出せないというケースもあった。これらは、自己の見方・考え方・感じ方に深まりや広がりがあったからと言えるだろう。

課題

教師の反応に児童は敏感である。教師のしゃべりすぎは児童の思考の妨げになり、意見に飛びつくような表情は思考を誘導することとなりかねない。穏やかな表情でうなずき、発言を繰り返さず、児童の内面の表出を待ち、受け止める態度に徹したい。教師の態度が道徳の授業を充実させるための大切な鍵の一つとなる。また、活発な話し合いができて、まだ児童相互で価値を高め合う充実した話し合い活動までには至っていない。前の発言を受けた一節を一つ加えて発言させるだけでも、互いの言葉に集中しやすくなる。普段から、高め合う話し合いについて意識して取り組んでいく必要がある。ワークシートは、自己の価値観の変容を残す形のものに工夫していきたい。

(4) 「道徳の時間の指導の工夫」について

成果

資料を電子黒板で提示したり、自作資料を紙芝居形式で視聴させたあと黒板にそのまま掲示したり、資料提示を工夫した。その結果、児童は興味をもって資料に集中し、価値について理解することができた。教師やゲストティーチャーによる説話は、価値を深め、より印象を残した。板書については、児童から出た考えを類型化するとともに、何について考えたか一目見てわかりやすく、価値の深まりにつながる言葉でしめくくるとも良いのではないかとわかった。

課題

教師の価値のとらえが重要であり、どのような指導法が効果的か考えていく必要がある。発問は、価値の自覚を深める問いに直結する。価値理解・自己理解・他者理解等、どの視点に迫る発問かを明確にして発問の構成や精選を図りたい。ゲストティーチャーに話をしていただく場合、ねらい・内容・時間、場合によっては児童の反応によってどう対応するかまで事前に打ち合わせをしておく必要がある。道徳の時間の指導は、道徳教育の要である。学校の教育活動全体を通じて行ったことの中で、児童の心に響いた出来事や絵、手紙なども道徳ファイルに綴り、活用を図りたい。

道徳の時間における言語の役割（道徳の授業のイメージ）

（資料1）

（考えをもつ）

- 発問の意図や資料等の内容を理解する。
- アンケート等の補助資料から内容を把握し、自分の考えを言葉にする。
- 資料を読み取り、道徳的価値にそって課題をとらえる。
- 自分の経験を振り返って価値や課題について自分の考えを言葉にする。

（表現する）

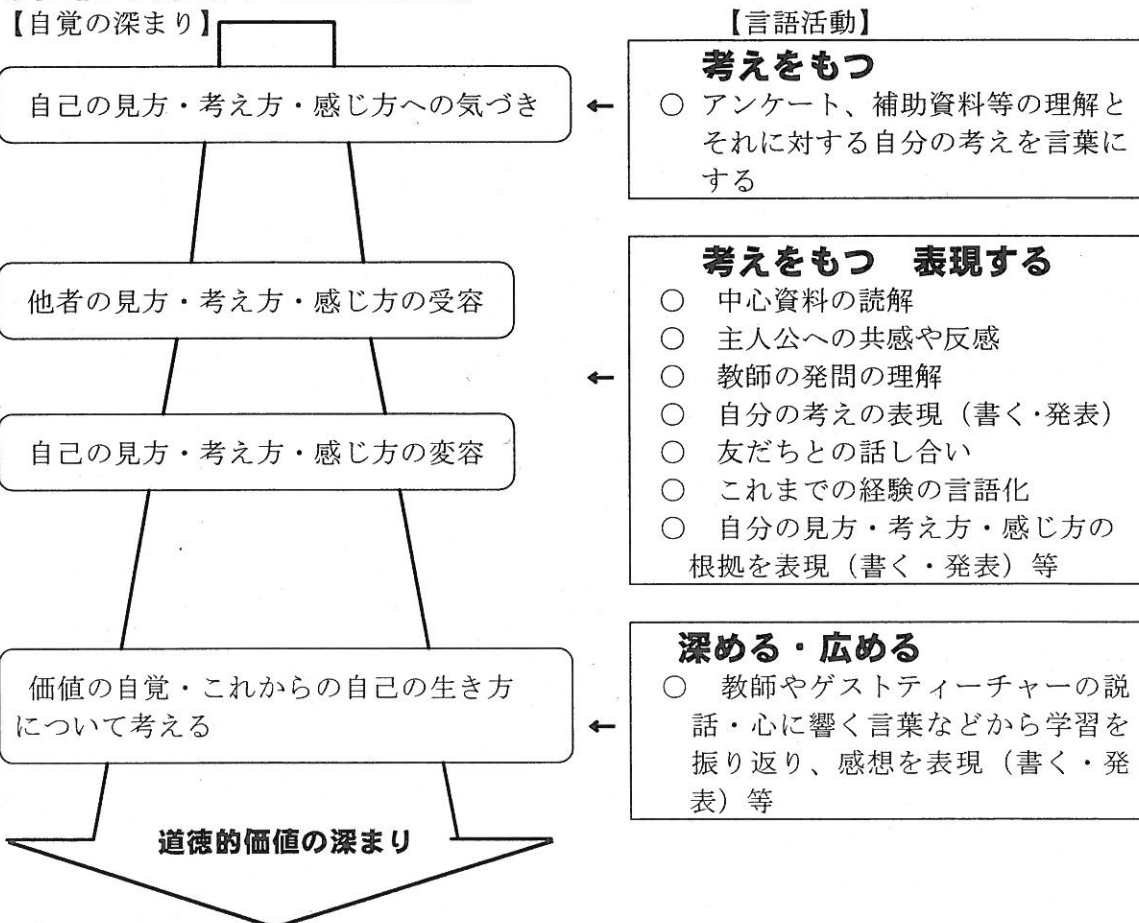
- 自分の考えを友だちに伝える。（活動形態）
- グループで意見を出し合う。
- 自分の考えやグループでまとめた考えをもとに学級全体で話し合う。
- 役割演技を行い話し合う。

- 課題について話し合う。（活動内容）
- 資料等から導き出された自分の考えや気持ちを表現する。
- 資料の中の人物への共感・反感・感動等を表現する。

（深める・広める）

- 他者の多様な考えを参考にして、自分の考えや気持ちを表現する。
- 道徳的価値について自分の考えや気持ちを言葉で表現する。
- 説話や資料の内容を受け止め、自分の考えや気持ちを言葉で表現する。
- 学習を振り返り、自分の考えや気持ちを言葉でまとめる。

道徳的価値の深まりと言語活動



◇ 平成25年度 学校経営の方針 ◇

我々教職員は、震災後の苦しみや課題を乗り越えてふくしまで学び、ふくしまで育つ児童一人一人に、ふくしまの未来を担おうとする思いと自己の夢実現への意欲を高めてやることが最大の使命であると考えます。そのために、全教職員が学校目標の実現を目指す学校経営に積極的に参画し、全ての教育活動に人間尊重の精神を行き渡らせ、知・徳・体の調和がとれた学びを展開しながら、一人一人の児童に「生きる力」をはぐくむ教育を推進する。

1 児童の安全確保と健康教育の推進

(1) 児童の生命尊重を最優先し、危機管理意識を高め、防災教育の充実や放射線教育の実践、登下校の交通安全や学校事故防止に努める。

- ① 防災教育計画の見直しと実践に結びつく計画の共有化
- ② 学年に応じた放射線教育の実践
- ③ 通学路点検と安全指導の充実

(2) よりよい生活習慣や食習慣の確立と体力の向上を図る支援に努める。

- ① 実態調査を踏まえ、家庭と連携を図った指導の充実

2 学校力の強化

(1) 家庭と連携した学びの習慣づくりや言語活動の充実及びICT活用を図る授業実践をととして、学ぶ意欲や自ら考え表現する力など確かな学力の定着に努める。

- ① 単元を通じた指導の工夫(達成目標、書く活動と学び合いの工夫)
- ② 授業と関連を図る家庭学習の工夫、チャレンジ週間の活用
- ③ 定着シートや基礎テストの活用

(2) 全教育活動をととして、豊かな心をはぐくむ道徳教育の充実に努める。

- ① 道徳教育推進教師を中心に、教育活動全体を通じて行う道徳教育を一層明確にするための全体計画・指導計画を整備する。
- ② 道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考えを深める指導の工夫と充実に努める。
- ③ 発達段階を踏まえ、児童の実態に即した重点的指導に努める。
- ④ 地域・家庭との連携を深めた道徳教育推進に努める。

(3) 全ての教育活動において児童をよく理解し、教師と児童の信頼関係の確立に努め、児童がともにささえ・助け合い、高めあう学級・学校づくりを推進する。

- ① 生徒指導の機能を生かした指導の充実、SC・心のサポーター、SSW、支援員等との連携(いじめ問題等への適切な対応)
- ② 特別活動の指導充実、活動の工夫

(4) 花と緑に親しむ伝統を尊重し豊かな体験活動に取り組むとともに、読書活動を充実させ、児童の豊かな感性や自然を愛する心・感動する心を養う。

- ① 緑化・栽培活動、緑の少年団活動の推進
- ② 読書指導の充実と学校図書館の活用

(5) 教職員の協業意識を高め、一人一人がよさと持ち味を発揮しながら「やさしく かしく たくましく」生きる児童の育成に努める。

- ① 学校運営ビジョンの共有化と協力的実践
- ② チームワークを高めた校務運営の推進

3 教師力の充実

(1) 児童の可能性を信じ、学習指導要領の趣旨や内容をとらえた「わかる・できる・楽しい」授業への改善を図る学習指導の在り方について追究し合い、授業力を磨き合う校内研修の充実に努める。

- ① 現職教育の充実(道徳の授業充実)
- ② 学力向上情報交換会の定期開催

(2) 教職員としての使命と責任を自覚し、一人一人が自己目標の実現をめざす中でそれぞれの力量を高めるとともに、職務遂行に全力で取り組み、児童・保護者・地域から信頼される教職員集団をめざす。

- ① 目標管理制度の目標意識

(3) 児童の学舎で働く職責の重さを深く自覚し、信用失墜行為及び不祥事の絶無に努める。

- ① 教職員一人一人の自己意識を高め合う服務倫理委員会
- ② 相互に不祥事絶無を確かめ合う職場の和

4 開かれた学校づくりの推進

(1) 学校からの積極的な情報発信に努め、家庭・地域との連携・協力を図りながら「地域に根ざした学校づくり」を一層推進する。

- ① 定期的・継続的な通信・たよりの発行
- ② 緊急時におけるメール配信で適切な情報発信

(2) 教職員相互に情報や課題を共有化して学校運営の見直しを図るとともに、家庭・地域の意見や願い、評価を踏まえながら、適切な学校改善に努める。

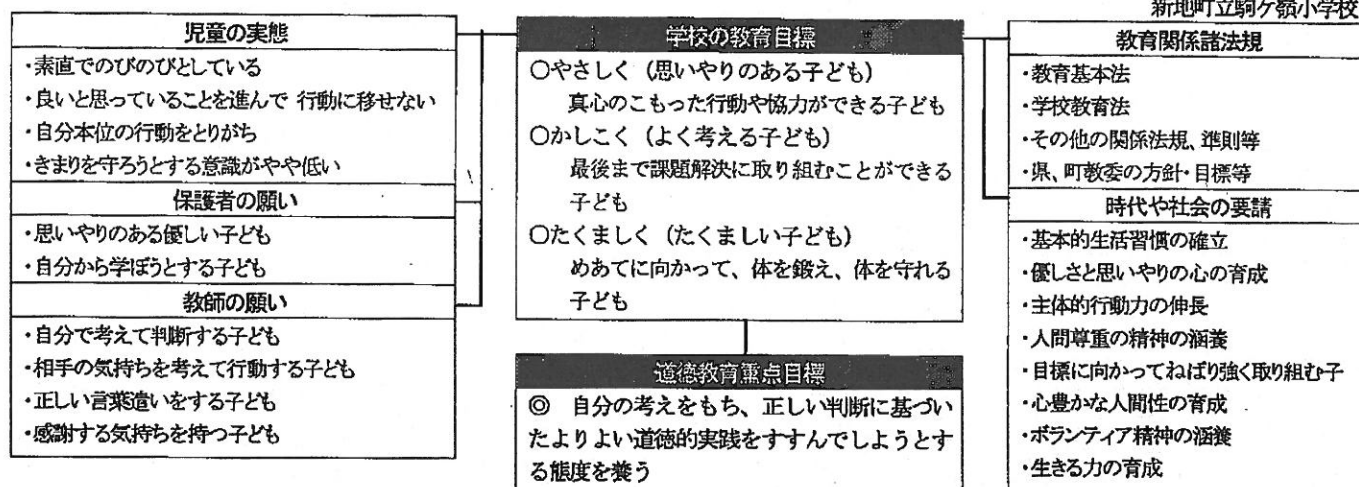
- ① 学校評価の実施と結果の公表
- ② 学校運営に地域や保護者の声を反映

(3) 環境教育の充実やICT活用を図った授業の充実など特色ある教育活動を積極的に推進し、家庭・地域からの理解と協力を得る。

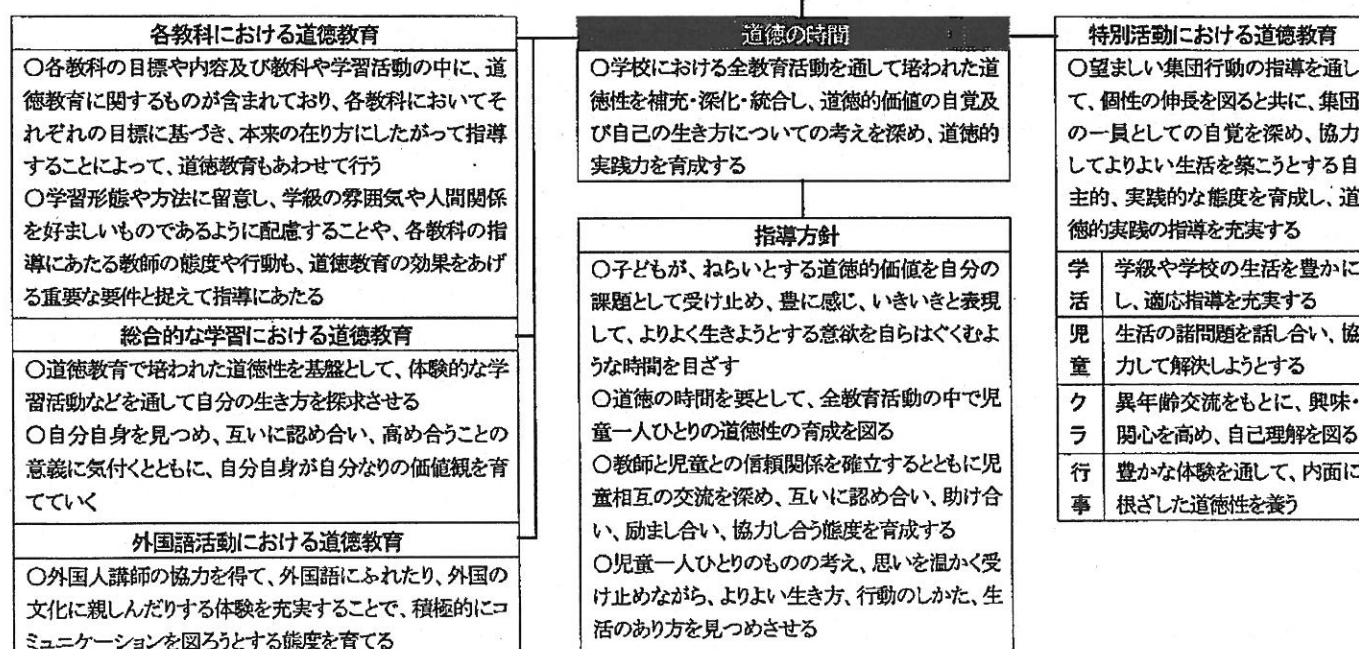
- ① 地域との連携・協力を一層強化した環境教育・エネルギー教育の推進
- ③ 児童の学び合いや思考・表現の場を充実させるICT活用の工夫と支援員との連携

道徳教育全体計画

新地町立駒ヶ嶺小学校



各学年の重点目標		関連価値項目	
1年	よいことを知り、進んで実践しようとする態度を養う	1-(1)節度ある生活態度	
2年	よいことが分かり、進んで実践しようとする態度を養う	2-(1)礼儀	4-(1)公德心、規則の尊重
3年	自分の考えをもち、進んで実践しようとする態度を養う	2-(4)尊敬・感謝	
4年	自分の考えをもって判断し、進んで実践しようとする態度を養う	3-(1)生命の尊重	4-(6)愛校心
5年	自分の考えをもつとともに、友達のことを聞きながら生活をよりよくしようとする実践的態度を養う		
6年	自分の考えと友達のことを認め合いながら生活をよりよくしようとする実践的態度を養う		



創意を生かした教育活動	学校保健教育	学校給食指導	学校安全指導	学校図書館教育	学校環境教育
・郷土の文化に親しませ、環境緑化活動に取り組ませることにより、郷土を愛する心情を培い、情操豊かな実践力のある子どもを育成する	・自分の体のことをよく知り、進んで健康増進に努める子どもを育成する ・望ましい学校環境を作り、より健康で快適な学校生活ができるようにする	・食事を通して心の触れ合いの場を作り、好ましい人間関係を育成する ・食事の準備、あとかたづけを通して、協力、責任、きまりを守ることなど、共同生活における共同協調の精神を養う	・児童一人ひとりが生命を大切にすると共に、相手の生命を大切にし、学校生活ではもちろん、校外生活においても安全を常に意識し、行動実践できる態度を育てる	・学校の図書館利用に必要な知識・技能・態度を育成することにより、望ましい学習態度と読書習慣を育成する	・緑地活動を通じて、児童に勤労の楽しさを体験させ、動植物をいたわり育てるやさしい心情を育てる

学校環境整備・充実

学年・学級経営

生徒指導

家庭・地域社会との連携

保育所・他小中学校との共同推進・連携

道徳の指導計画

第1学年

主題名・資料名一覧表

計画 作成 上特 に工 夫、 配慮 した 事項	◎ よいことを知り、進んで実践しようとする態度を養う。 ・ 指導の重点との関連から、下記の内容項目に時数を多く配当した。 1－(1)節度ある生活態度 2－(1)礼儀 3－(1)生命の尊重 ・ ボランティア活動や自然体験活動などの体験が生かせるよう配当した。 ・ 主題配列については、教科・特活・総合的な学習の時間・その他の活動との関連を考慮した。 ・ 2－(1)、(2)において、SSWと関連させた指導を進める。						
月	主題名	時数	内容項目	資料名	出典	心のノートとの関連	備考
4	◎みんなと なかよく	2	4－(4)	がっこう だいすき	学図	P84～P87	
	◎きもちのよいあいさつ		2－(1)	あいさつ	学図	P36～P37	
5	◎ものを たいせつに	3	1－(1)	ノートの ひこうき	学図	P14～P15	
	◎気持ちよく使うために		4－(1)	うさぎの えんそく	東書		
	◎きちんと つづけよう		1－(1)	むしばのこどものたんじょうび	学図		
6	◎お世話になっている人	3	2－(4)	がっこうたんけん	東書		
	◎しぜんと なかよく		3－(2)	ちいさいちいさいをつないで	学図	P61～P63	
	◎みんなみんな生きているよ		3－(1)	いのちが いっぱい	学図	P56～P57	
7	◎ともだち ほしいな	3	2－(2)	ともだちづくりの“まほう”	学図	P40～P41	
	◎がんばる心		1－(2)	うかんだ うかんだ	東書		
	◎あいてのこともかんがえよう		2－(3)	ますだくんの1ねんせい日記	学図	P44～P45	
8	◎こころを こめて	1	2－(1)	おおきなこえでいえるといいな	学図	P36～P37	
9	◎みんなのためにはたらく	4	4－(2)	ぼく こくばんだよ	学図		
	◎大切に使う		1－(1)	かぼちゃの つる	学図		
	◎ともだちだから		2－(3)	ともだちをたすけたゾウたち	学図	P46～P47	
	◎たいせつな いのち		3－(1)	おかあさんの なみだ	学図	P57	
10	◎ゆうきを だして	3	1－(3)	ガラスの バンビ	学図	P22～P23	
	◎まちの じまん		4－(5)	チュールリップと わだいこ	学図		
	◎すなおな こころ		1－(4)	きんいろの クレヨン	学図	P26～P29	
11	◎くじけずにがんばろう	4	1－(2)	カバえんちょう	学図	P18～P19	
	◎きれいだね		3－(3)	おおきな ゆうひ	学図	P44～P47	
	◎きまりの大切さ		4－(2)	よりみち	東書		
	◎みんな ともだち		3－(2)	がんばれ！くるまのうさぎ	学図	P61	
12	◎やさしい こころ	2	2－(2)	はしのうえのおおかみ	学図	P40～P41	
	◎正直で素直な心		1－(4)	あのね	東書		
1	◎かぞくの ために	3	4－(3)	まんまる おにぎり	学図	P80～P81	
	◎げんきって すばらしい		3－(1)	げんきで よかった	学図	P58～P59	
	◎たいせつなおとうと		4－(3)	ぼくの おとうと	学図	P80～P82	
2	◎すがすがしい こころ	4	3－(3)	14ひきのおつきみ	学図		
	◎しょうじきな こころ		1－(4)	ひつじかいの こども	学図	P26～P27	
	◎ありがとう		2－(4)	だいすき アンパンマン	学図	P48～P49	
	◎よい こと すすんで		1－(3)	すっきり はればれ	学図	P24～P25	
3	◎礼儀の心	2	2－(1)	こころをこめて	東書		
	◎たのしい がっこう		4－(3)	もうすぐ 2ねんせい	学図		
計		34					

※学校図書・学図 東書・東京書籍

主題名		ありがとう		指導時期	2月
資料名		13 だいすき アンパンマン		副読本	44～47ページ
内容項目		2－（４）尊敬・感謝	主な関連活動	学校探検	
ねらい		日ごろお世話になっている人に感謝しようとする心情を育てる。			
主題設定の理由		人は、社会という集合体の中で生きている。決して一人では生きていけない。つまり、さまざまな場面で支え合って生きている。この支え合いを円滑にしているのが、相手を敬い感謝する気持ちなのである。人権尊重という点からも、尊敬・感謝の心をはぐくむことの大切さに気づかせたい。			
指導過程例	導入	1 アンパンマンの顔を提示する。 ○この顔を見て下さい。だれだか知っていますか。			
	展開	2 「だいすきアンパンマン」を読んで話し合う。 ○アンパンマンは、どんな気持ちでパトロールに出かけましたか。 ○三人の子どもたちがアンパンマンに助けられたときの気持ちを考えましょう。先生がアンパンマンをやります。皆さんは、ストーンマン、ペンギン坊やちびマリンの中から一人を選んで答えてください。 ◎ジャムおじさんが言った「みんなのアンパンマンを思う気持ち」とは、どんな気持ちなのでしょう。 3 助けてもらっている人を思い出し、話し合い、お礼の手紙をかく。 ○みなさんは、どんな人にどんなことで助けてられていますか。ありがとうの手紙を書きましょう。			
	終末	4 校長先生からのメッセージビデオを視聴する。			
<授業改善のために> ○生活科「学校探検」との関連を図る。					
<備考>					

授業テーマ	主人公の気付きについて話し合うことを通して、家族の無償の愛に気付き、家族の幸せを考えて進んで役に立とうとする心情を育てることができる授業
-------	--

1 主題名 家族の幸せを求めて 4-(5) 家族愛

2 資料名 おばあちゃんの心 (出典：文溪堂)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

生まれたときから一緒にいる家族は、空気のような存在である。かけがえのないものであることを理解していても、敬愛したり、進んで家族の役に立とうとしたりする心情までには至っていないと思われる。児童の心の安定や安心感を支える土台は家族にある。しかし、この段階の児童は、家族よりも友だちとのかかわりを大切にしてしまう傾向が見られる。また、家族からの愛情を当たり前のこととして過ごしている児童も見られる。そこで、改めて家族とのかかわりや存在を見直すことで家族の無償の愛に気付かせるとともに、家族一人一人を敬愛し、家族の幸せのために役に立とうとする心情を育てることが大切と考える。

(2) 児童の実態

本学級児童の家庭は、3世代家族や別居していても近くに祖父母がいる家庭が多い。割合としては少ないが、父子家庭や母子家庭、単身赴任で父親が不在の家庭もある。家族の形態はそれぞれに違っても、児童はかわいがられることに慣れ、家族の愛情を何の疑問も持たずに当然のことと捉えている。また、中には成長過程とはいえ反抗期を迎え、家族への批判や自己中心的な言動を家族に投げかけている児童もいる。多くの児童は、家族のありがたさや家族を手伝う大切さについて、頭では理解しており、実際、役割分担もされ、手伝っている。しかし、家族の一員として家族のために何ができるかを考えて行動するまでには至っていない。

(3) 資料について

幼い頃の「私」は、祖母に対して「なんでそんなに働くんだかなあ。」といつも疑問に思っていた。しかし、年頃になった「私」は、あら汁の出来事をきっかけにその疑問が解けていく。祖母が、一生懸命に働くのは、祖母が家族の役に立ちたいという、家族に対する深い愛情があったからであることに気づくのである。そうしたことは、祖母の姿を見つめる主人公の気持ちに共感させることを通して児童にも理解できることと考える。家族の愛を深めさせるのに適した資料である。

(4) 指導にあたって

「考えをもつ」段階では、日常生活を振り返り、現時点での家族に対する思いを確認することで主題に対する方向付けを図る。「表現する」の段階では、キーワードとなる言葉を手がかりに「私」や祖母の気持ちを捉えさせる。「見つめる」段階では、「私」が父に叱られたことや祖母のさびしげな横顔をきっかけに「私」の自己中心的な言動に気付かせ、祖母の家族に対する愛情や、今後の家族に対する「私」の思いについて探らせながら話し合いをしていく。

「深める・広げる」段階では、今になって理解できる家族の無償の愛について教師が説話をし、家族のために自分にできることをしていきたいという思いをもたせたい。

4 本時のねらい

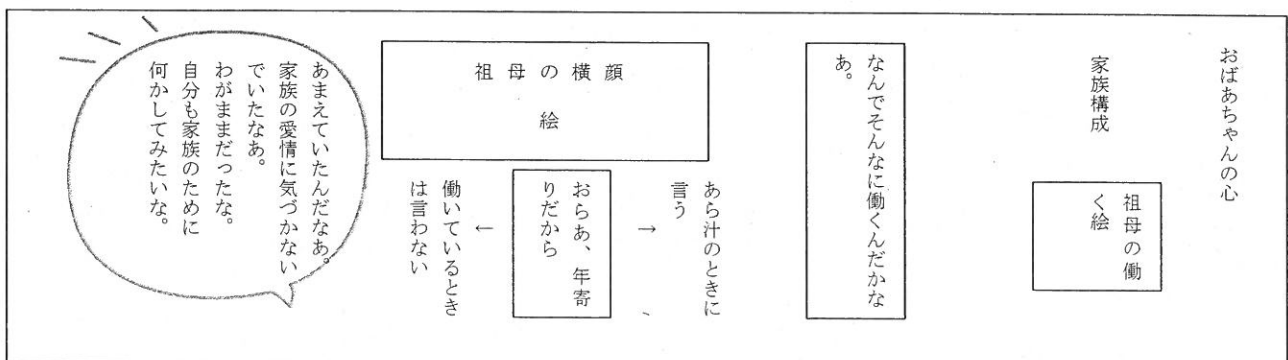
家族の無償の愛に気づき、家族の幸せを考えて進んで役に立とうとする心情を育てる。

5 テーマに迫るための手立て

(1) 一人一人の考えを明確にするために、ワークシートを利用する。

(2) 考えを深めるために、話し合いの形態を工夫していく。

6 板書計画



7 指導過程

段階	学 習 活 動 ・ 内 容	時間	○ 教師の支援 ◎ テーマに迫るための手立て 評 価
考えをもつ	1 日常生活を振り返り、現時点での家族に対する思いを確認する。 ・ 家族に対していやだと思ったこと ・ 家族がいて良かったと思ったこと	5	○ 3～4名に発表させ、主題に対する方向付けを図る。
表現する・見つける	2 資料「おばあちゃんの心」を読んで話し合う。 (1) 祖母は、これまでどんな仕事をしてきたのか発表する。 ・ 幼い頃の「私」の疑問 ・ 「年寄りだから」の言葉について (2) あら汁をあげ返したときの「私」について考える。 ・ 父に叱られたこと ・ 祖母のさびしげな表情から (3) しるわんの中に祖母の姿が見えてきたとき、「私」はどんなことに気づいたのかを探る。 ・ 祖母が働いていたのは、家族のためだったんだ。 ・ 祖母は自分のことを思ってあら汁を分けてくれたんだ。 ・ 自分も祖母や家族のことを考えるべきだった。 3 家族に対する自分自身について振り返る。 (1) 家族に対し、今思えば「ありがとう」と思えることについて発表する。	30	○ 祖母との出来事がどうして思い出されるのか考えながら読ませる。 ○ 祖母が働くことになった状況や家族構成を押さえ、祖母がこれまでどのように働いてきたのか捉えさせる。 ○ 「なんでそんなに働くんだかなあ。」を、提示し、そのときの「私」の疑問を意識させる。 ○ どんなときに出た言葉か、また、この言葉が出ないのはいつだったか対比して考えさせることで、祖母の家族への思いを感じ取ることができるようにする。 ◎ あら汁をあげ返したことは食べ物を粗末にただけでなく、自己中心的な言動であることを「私」と祖母それぞれの立場で考えさせたり、問い返したりするなどの補助発問で、気づかせる。 ◎ ワークシートに書かせることで自分の考えを明確にさせる。その後、隣席の友達と考えの交流をして共通点や違いなどに気づかせるとともに、家族の無償の愛に気づくことができるようにする。 祖母がしてきたことは、家族への無償の愛だったことに気付いている。 (表情・ワークシート・発言)
深める・広げる	4 家族について教師の説話を聞く。	5	○ 今になって理解する家族の愛情についての話を聞くことで、心情の高まりの余韻を残したい。

道徳アンケート

名 前

- 1 あなたは、おじいさんやおばあさんといっしょに住んでいますか。当てはまる方を○で囲んでください。

いっしょに住んでいる → おじいさん おばあさん
いっしょには住んでいない → 近くにいる はなれている
(新地町以外)

- 2 家族が自分のためにしてくれたことで良かったなあと思ったこと(うれしかったこと)は、どんなことですか。また、それはどうしてですか。

理由：

- 3 家族が自分のためにしてくれたことだけど、いやだなあと思ったことはありませんか。また、それはどうしていやだと思ったのですか。

理由：

- 4 親や祖父母がしてくれることで、「どうしてこんなことまでしてくれるのかな。」と、考えた経験があったら教えてください。

- 5 家族がしてくれたことで、ありがとうと思ったことは、どんなことですか。

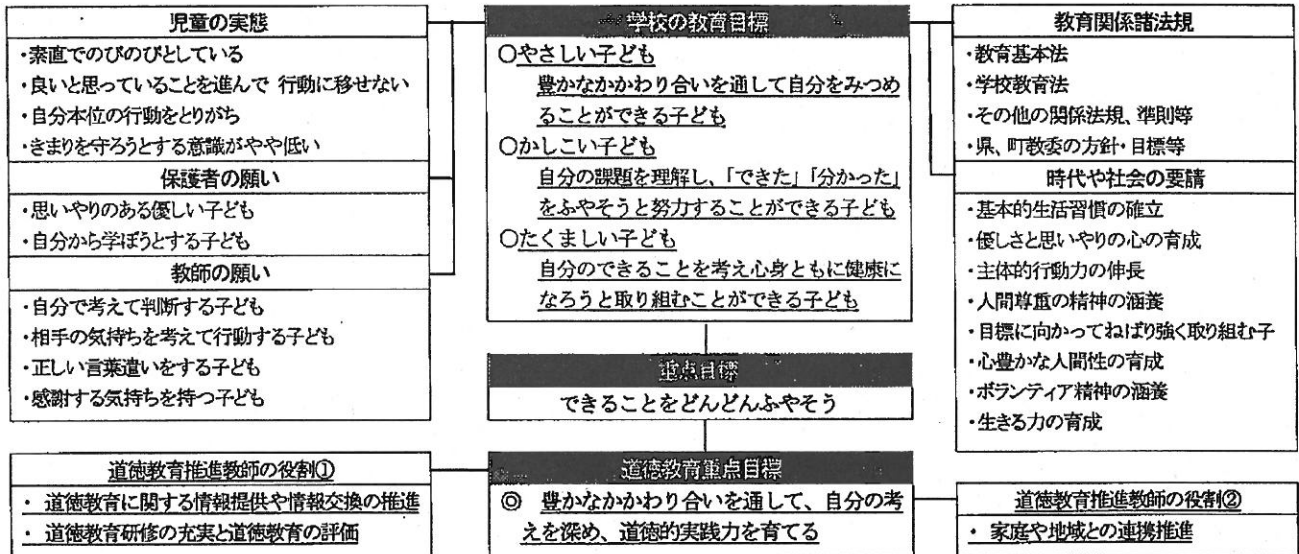
おばあちゃんの心

名 前

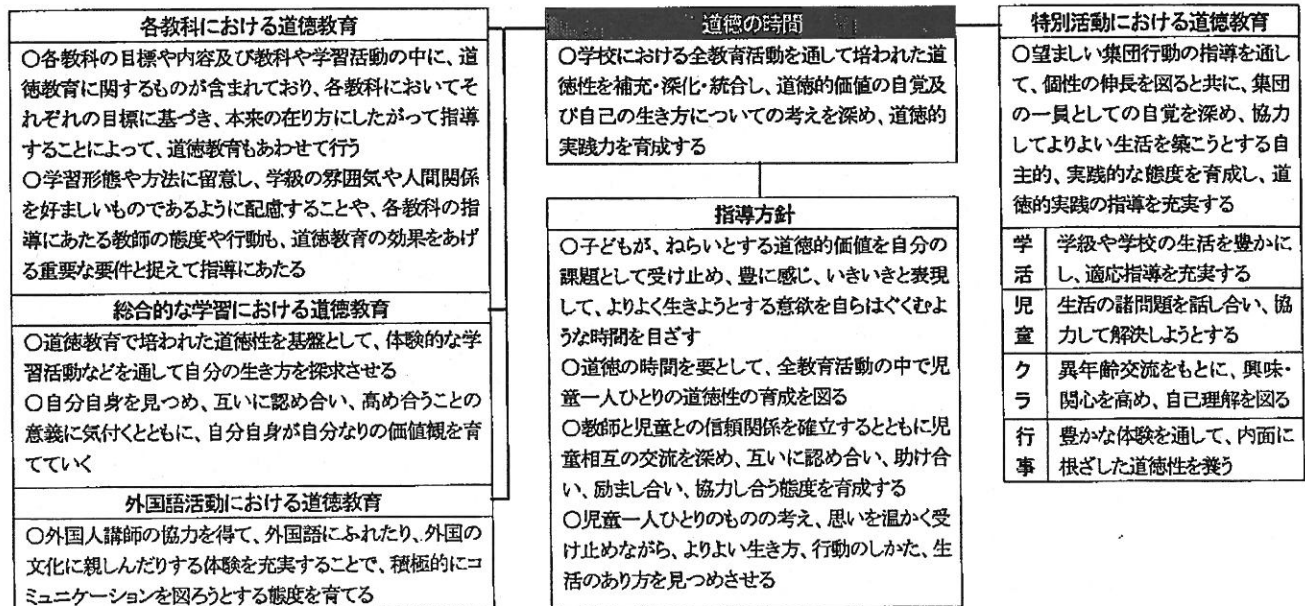
- ◇ 「私」は、おばあちゃんのどんな心に気づいたのでしょうか。

道徳教育全体計画

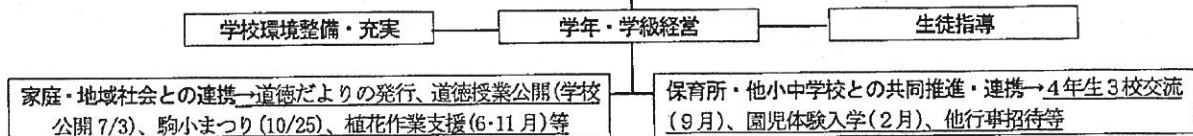
(資料7)



各学年の重点指導内容			
	1-(1)節度ある生活態度	2-(2)思いやり・親切	3-(1)生命の尊重
1・2年	健康や安全に気をつけ、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする	幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする	生きることを喜び、生命を大切にすることを学ぶ
3・4年	自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度ある生活をする	相手のことを思いやり、進んで親切にする	生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする
5・6年	生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける	だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする	生命がかげがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する



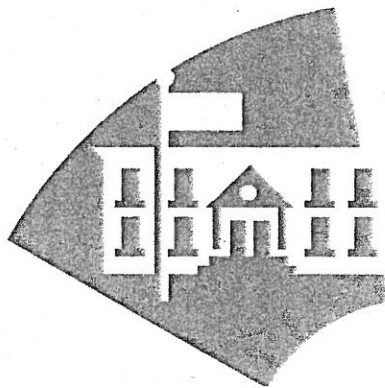
創意を生かした教育活動	学校保健教育	学校給食指導	学校安全指導	学校図書館教育	学校環境教育
・郷土の文化に親しませ、環境緑化活動に取り組ませることにより、郷土を愛する心情を培い、情操豊かな実践力のある子どもを育成する	・自分の体のことをよく知り、進んで健康増進に努める子どもを育成する ・望ましい学校環境を作り、より健康で快適な学校生活ができるようにする	・食事を通して心の触れ合いの場を作り、好ましい人間関係を育成する ・食事の準備、あとかたづけを通して、協力、責任、きまりを守ることなど、共同生活における共同協力の精神を養う	・児童一人ひとりが生命を大切にすると共に、相手の生命を大切に、学校生活ではもちろん、校外生活においても安全を常に意識し、行動実践できる態度を育てる	・学校の図書館利用に必要な知識・技能・態度を育成することにより、望ましい学習態度と読書習慣を育成する	・緑地活動を通じて、児童に勤労の楽しさを体験させ、動植物をいたわり育てるやさしい心情を育てる



学 期	月	回	道徳の時間の年間計画			他の教科・外国語活動・諸活動との関連			
			(主題名)・資料名 内容項目	ねらい	出典・心のノート 関連ページ	教科、総合的な学習 外国語活動と関連の 内容項目	特別活動と関連の内容 項目	生徒指導と関連の内容 項目	学校行事、連携
一 学 期	4	1	(みんなとなかよく) がっこうだいすき 4- (4) 愛校心	学校での1日の生活や、 1年間の活動の様子を 知ることを通して、毎 日を楽しく過ごそうと する気持ちを育てる。	学校図書 心のノート P 84～87	国語「はきはきあいさつ」 (礼儀) 生活「どきどきわきわく 1ねんせい」(愛校心) (信頼・友情) 生活「がっ こうだいすき」(信頼・友 情) (愛校心) (自然愛・動植物愛護) 音楽「うたでなかよし になろう」(信頼・友情)	児童会「登校班会議」 (郷土愛) (規則の尊重) 行事「交通教室」 (生命の尊重) (規則 の尊重) 学活「1ねんせいになって」 (信頼友情) 児童会「1年生む迎える会」 (信頼友情)	めあてをもち、新しい 学年のスタートを切る。 (勤勉努力)	入学式、始業式 身体測定 交通教室 学校公開① 家庭訪問 遠足 各種検診 避難訓練
		2	(きもちのよいあいさつ) あいさつ 2- (1) 礼儀	あいさつの気持ちよさに 気づかせ、明るく人 に接しようとする態度 を養う。	学校図書 心のノート P 36～37				
		3	(ものをたいせつに) ノートのひこうき 1- (1) 節度ある生活態度	物を大切に、むだに しないで、上手に使い ようとする態度を養う。	学校図書 心のノート P 14～15	国語「みんなにつたえ よう」(信頼友情) (思いやり・親切)	学活「みんなともだち」 (信頼友情) 学活「そうじのしかた」 (勤労) (公德心・規 則の尊重)	身の回りを整頓し、落 ち着いた生活をする。 (節度ある生活態度)	心電図検査 美化活動
	5	4	(気持ちよく使うために) うさぎのえんそく 4- (1) 公德心・規則の尊重	みんなで使う物を大切 にし、人に迷惑をかけ ないようにしようとし る態度を養う。	東書	生活「がっこうだいすき」 (信頼・友情) (愛校心) (自然愛・動植物愛護) (生命の尊重)	行事「運動会」 (勤勉努力・不撓不屈 ・希望) (信頼友情)		運動会
		5	(きちんとつづけよう) むしばのこどものたん じょうび 1- (1) 節度ある生活態度	健康や安全に気をつけ、 規則正しい生活をしよ うとする態度を育てる。	学校図書 心のノート P 14～15		行事「美化活動」 (勤労奉仕) (公德心)		
		6	(お世話になっている人) がっこうたんけん 2- (4) 感謝	日ごろお世話になっ ている人々に感謝する心 情を育てる。	東書 心のノート p 48～51	国語「どうやってみをまも るのか」 (自然愛・動植物愛護) (生命の尊重)	学活「ことばづかいと あいさつ」 (節度ある生活態度)	自分の健康に気を配り、 病気を予防する。 (生命尊重) (節度ある生活態度)	プールびらき
	6	7	(植物を育てる) ぼくのあさがお 3- (2) 自然愛・動植物愛護	自然に親しみ、動物や 植物をやさしい心で世 話しようとする心情を 育てる。	東書 心のノート p 60	生活「なつだいっしょに あそぼうよ」 (信頼・友情) (郷土 愛) (自然愛・動植物 愛護) (生命の尊重)	学活「雨の日のあそび」 (公德心・規則の尊重)		
		8	(みんなみんな生きて いるよ) いのちがいっぱい 3- (1) 生命尊重	自分の命は、かけがえ のないものであり、多く の人に支えられているこ とを知り、大切にしよう とする心情を育てる。	学校図書 心のノート P 56～57				
		9	(ともだちほしいな) ともだちづくりのまほう 2- (2) 思いやり・親切	身近な人たちに温かい 心で接し、親切にしよう とする心情を育てる。	学校図書 心のノート p 40～p 41	生活「なつだいっしょに あそぼうよ」 (信頼・友情) (郷土 愛) (自然愛・動植物 愛護) (生命の尊重) 国語「おおきななぐ」 (信頼友情) (勤勉努力) 国語「あるけあるけ/ 木」 (敬けん) (自然愛・ 動植物愛護) 算数「なんじなんじはん」 (節度ある生活態度)	学活「放射線について」 (生命の尊重) 児童会「七夕集会」 (敬けん) (信頼友情) 児童会「登校班会議」 (郷土愛) (規則の尊重)	1学期のまとめをしつ かりする。 (勤勉努力) (勤労・奉仕)	学校公開②(全校 道徳授業公開)
	7	10	(がんばる心) うかんだうかんだ 1- (2) 勤勉努力	自分の目標に向かって、 一生懸命努力しようとし る意欲を育てる。	東書 心のノート p 18～p 19				
		11	(あいてのこともかん がえよう) ますだくんの1ねんせい 日記 2- (3) 信頼友情	相手のことを考えて、 友だちと仲良く助け合 っていこうとする態度 を育てる。	学校図書 心のノート p 44～p 45				登校班会議 終業式 夏休み
		12	(こころをこめて) おおきなこえでいえる といいな 2- (1) 礼儀	相手に通じるようなあ いさつをしようとする 気持ちを育てる。	学校図書 心のノート P 36～37	国語「はなしたいいな ききたいな」 (信頼友情)	行事「除草作業」 (勤労・社会への奉仕)	めあてをもち生き生き と生活する。 (勤勉努力)	始業式 除草作業
二 学 期	9	13	(みんなのためにはた らく) ぼくくくばんだよ 4- (2) 勤労・奉仕	みんなのために、自分 のできる仕事は積極的 に行おうとする態度を 養う。	学校図書	生活「いきものとなか よし」 (自然愛・動植物愛護) (生命の尊重)	学活「かかりのしごと をきめよう」 (勤労・社会への奉仕) 行事「水泳大会」 (勤勉努力・不とう不 屈・希望)	正しい言葉遣いを身に つけ、友だちとなかよ くする。 (節度ある生活態度) (思いやり・親切) (信頼友情)	水泳大会 交通教室
		14	(ゆうきをだして) ガラスのパンピ 1- (3) 勇気	よいこと悪いことを判 断し、よいと思うこと を勇気をもって行おう とする態度を育てる。	学校図書 心のノート p 22～p 23	国語「サラダでげんき」 (家族愛) (生命の尊重)	学活「交通安全」 (生命の尊重) (規則 の尊重)	けじめのある生活をし よう (節度ある生活態度)	
		15	(友達を思う心) 二わのことり 2- (3) 信頼友情	友達と仲良く助け合っ ていこうとする心情を 育てる。	東書 心のノート P 46～47		行事「交通教室」 (生命の尊重) (規則 の尊重)		
		16	(すなおなこころ) きんいろのクレヨン 1- (4) 正直誠実・明朗	うそをついたりごまか しをしたりしないで、 素直な態度で明るくの びのびと生活していこ うとする心情を育てる。	学校図書 心のノート p 26～29		学活「としよしのつ かいかな」 (公德心・規則の尊重)		
	10	17	(わがままなおこない) かぼちゃのつる 1- (1) 節度ある生活態度	周りの人のことを考え、 わがままをしないで生 活しようとする態度を 養う。	東書		学活「目のけんこう」 (節度ある生活態度) (生命の尊重)		

学 期	月	回	道徳の時間の年間計画			他の教科・外国語活動・諸活動との関連			
			(主題名)・資料名 内容項目	ねらい	出典・心のノート 関連ページ	教科、総合的な学習 外国語活動と関連の 内容項目	特別活動と関連の内容 項目	生徒指導と関連の内容 項目	学校行事、連携 項目
二 学 期	10	18	(たいせつないのち) おかあさんのなみだ 3ー(1) 生命尊重	危険なことから身を守り、健康で安全な生活をしようとする心情を育てる。	学校図書 心のノート P57	国語「わたしのはっけん」 (自然愛・動植物愛護)	学活「駒小まつりをしよう」(愛校心) 行事「駒小まつり」 (愛校心) (信頼友情) (個性の伸長)	正しい言葉遣いを身に付け、友だちとなかよくする。 (節度ある生活態度) (思いやり・親切) (信頼友情)	小教研2次研 駒小まつり 地域清掃活動
		19	(やさしいこころ) はしのうえのおおかみ 2ー(2) 思いやり・親切	身近な人たちに温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる。	東書 心のノート p40～p43	生活「たのしいっぱいあきいっぱい」 (自然愛・動植物愛護)			
	11	20	(くじけずにがんばろう) カバえんちょう 1ー(2) 勤労・努力	どんな仕事もくじけずにやり通した主人公の生き方から、自分の仕事を一生懸命にやり遂げようとする心情を育てる。	学校図書 心のノート p18～19	国語「すきなもののクイズをしよう」 (信頼友情) 体育「走跳のうんどうあそび」(勤労努力・不とう不屈)	行事「校内マラソン大会」(勤労努力・不とう不屈・希望)	読書に親しむとともに、落ち着いて学習に取り組む。 (勤労努力・不とう不屈・希望) (節度ある生活態度)	ふくしま教育週間 校内マラソン大会
		21	(きれいだね) 大きな夕日 3ー(3) 敬けん	美しいものに感動し、清々しい心をもとうとする心情を育てる。	学校図書 心のノート P44～47	生活「あきのおもちやだいしゅうごう」 (自然愛・動植物愛護) (信頼友情)	学活「防災教育」 (生命の尊重) 行事「防災教室」「避難訓練」 (生命の尊重)		防災教室 避難訓練 体力テスト
		22	(きまりのたいせつさ) よりみち 4ー(1) 規則の尊重	学校や家庭でのきまりや規則の大切さを知り、きまりや規則を守ろうとする心情を育てる。	東書	図工「プレゼントをどうぞ」(感謝) 音楽「ようすをおもいうかべよう」(敬けん)			
		23	(みんなともだち) がんばれ!くるまいすのうさぎぶよんた 3ー(2) 自然愛・動植物愛護	優しい心で、動植物をいたわり、世話をしようとする態度を育てる。	学校図書 心のノート P61	国語「きいてつたえよう」(信頼友情)		友だちと学校を大切に する。 (信頼・友情) (生命の尊重) (愛校心)	歯科検診
		24	(まちのじまん) チューリップとわだいこ 4ー(5) 郷土愛	自分の住んでいる町に伝わる文化や生活に親しみ、愛着をもとうとする心情を育てる。	学校図書	生活「みんないっしょに」 (節度節制)(家族愛)(勤労)(感謝)	児童会「登校班会議」 (郷土愛)(規則の尊重) 行事「美化活動」 (勤労奉仕) (公德心)		登校班会議 美化活動 終業式 冬休み
		25	(正直で素直な心) あのね 1ー(4) 正直誠実・明朗	ほんとうのことを大切にし、素直な明るい心でのびのびと生活しようとする態度を養う。	東書	国語「おとうとねずみチロ」 (家族愛)(感謝)			
	1	26	(かぞくのために) まんまるおにぎり 4ー(3) 家族愛	家族のために、自分でできることは進んで行おうとする態度を育てる。	学校図書 心のノート p80～p83	生活「みんないっしょに」 (節度節制)(家族愛)(勤労)(感謝) 生活「ふゆをたのしもう」 (自然愛・動植物愛護)	学活「かかりのしごと」 (勤労・社会への奉仕)	めあてを持って、落ち着いた生活をする。 (節度ある生活態度) (公德心・規則の尊重)	始業式 高齢者との交流 (むかしあそび)
		27	(げんきってすばらしい) げんきでよかった 3ー(1) 生命尊重	生きていることや元気で過ごせることのすばらしさを実感し、生命を大切にしていこうとする心情を育てる。	学校図書 心のノート p58～p59	算数「なんじなんぶん」 (節度ある生活態度)			
		28	(たいせつなおとうと) ばくのおとうと 4ー(3) 家庭愛	家族に対する自分の行動を見つめ直し、親愛の情をより深めようとする態度を育てる。	学校図書 心のノート p80～p82	国語「じゃんけんやさんをひらこう」 (信頼友情) 生活「むかしのあそび」 (尊敬・感謝)			
三 学 期	2	29	(すがすがしいこころ) 14ひきのおつきみ 3ー(3) 敬けん	自然の恵みに感謝し、清らかなものに感動する心情を育てる。	学校図書	国語「歯がぬけたらどうするのう」 (生命の尊重)(家族愛) 生活「ふゆをたのしもう」 (自然愛・動植物愛護)	児童会「豆まき集会」 (信頼友情) (真理・創意工夫・進取)	健康に気を配り、寒さに負けない体づくりをする。 (節度ある生活態度) (生命の尊重) (勤労努力・不とう不屈)	学力テスト
		30	(しょうじきなこころ) ひつじかいのこども 1ー(4) 誠実・明朗	うそをついたりごまかしたりせず、正直に生活しようとする心情を育てる。	学校図書 心のノート P26～27	生活「もうすぐ2年生」 新1ねんせいをむかえよう (思いやり・親切) (勤労努力)	学活「からだをよごすたばこのけむり」 (生命の尊重)		なわとび大会
		31	(ありがたう) だいすきアンパンマン 2ー(4) 尊敬・感謝	日頃お世話になっている人に感謝しようとする心情を育てる。	学校図書 心のノート p48～p49	国語「たのしかったね1年生」 (家族愛・愛校心・尊敬・感謝)	学活「かぜのよぼう」 (生命の尊重)		
	3	32	(よいことすんで) すっきりはればれ 1ー(3) 勇気	よいと思うことは、積極的に勇気を出して行おうとする態度を育てる。	学校図書 心のノート P24～25				
		33	(礼儀の心) こころをこめて 2ー(1) 礼儀	気持ちのよいあいさつや言葉づかい、動作の大切さを理解し、礼儀正しく相手に接しようとする態度を養う。	東書	生活「もうすぐ2年生」 (思いやり・親切) (勤労努力)	学活「おとこのこ・おんなのこ」 (信頼友情・男女の協力) 児童会「6年生を送る会」(感謝) 児童会「登校班会議」 (郷土愛)(規則の尊重) 行事「美化活動」 (公德心・規則の尊重) (感謝)	1年間のまとめをしっかり行う。 (尊敬感謝) (勤労努力・不とう不屈)	学校公開③ 6年生を送る会 登校班会議 修・卒業式練習 美化活動 修・卒業式
		34	(たのしいがっこう) もうすぐ2ねんせい 4ー(4) 愛校心	新1年生を迎える準備をして、学校を愛し、学校生活を楽しもうとする心情を育てる。	学校図書				

【いわき地区】 いわき市立小名浜第三小学校



推進校紹介⑧

1 学校概要

学 校 名	いわき市立小名浜第三小学校
所 在 地	いわき市小名浜住吉字浜宿 1
校 長 名	高木 清美
学校の教育目標	○よく考える子 ○思いやりのある子 ○心身共にたくましい子
学級及び児童生徒数	学級数 20, 児童数 511 人
学校の重点目標	◎よく聞き、進んで考える子の育成
道徳教育にかかる 取組みの概要	①道徳の時間の多様な学習指導の構想 ②道徳の時間の効果的な指導法の工夫 ③道徳の時間をより充実させるための基盤づくりの工夫や環境の整備 ④体験的な活動の充実や「協力・感謝・思いやり」を重視した縦割り活動の充実 ⑤地域・家庭と連携した道徳教育の推進

2 研究テーマ

あたたかな関わりを通して、自他を認め合い、豊かな成長が実感できる児童の育成

3 テーマ設定の理由

道徳教育は、よりよく生きる基盤となる道徳性を育成することがねらいである。大震災以降、心の教育とメンタルヘルスの重要性が叫ばれているが、子ども達が夢と希望を持って力強く生きようとする力を育てるためには、道徳教育の充実が不可欠である。学習指導要領の趣旨を踏まえ、研究を進めていくものとする。

(1) 今日の課題から

現代社会では、人間関係の希薄化、家庭教育力の低下、規範意識の低下が招く様々な問題が生じている。そのような社会で生きていく人間として、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを発達段階に応じて深め、内面的資質としての道徳的実践力を主体的に身につけていくことが重要である。

(2) 本校の教育目標から

○よく考える子ども : 話を自分から聞き、よく考える子の育成
○思いやりのある子ども : 進んであいさつができる子の育成
○心身共にたくましい子ども : 規則正しく健康に生活する子の育成
(重点目標) よく聞き、進んで考える子の育成
「おはよう なかよく はきはき まじめに」

本校の教育目標は、①よく考える子ども(知) ②思いやりのある子ども(徳) ③心身共にたくましい子ども(体) である。それらを受け重点目標として「よく聞き、進んで考える子の育成」としている。児童一人一人が、道徳学習の中で自分と異なる多様な価値観に気づき進んで自己の生き方を考えることは、児童の内面に根ざした道徳的心情を養い、本校教育目標の具現化につながるものとする。校是としている、「銑心…固くて光り輝くかねのような立派な心」を持つ児童の育成を目指したい。

(3) 地域や子どもの実態から

本校は、多様な地理的環境と豊富な歴史的環境が混在した住吉地区にある。昨年度の児童・保護者・評議員を対象にした学校アンケートでは、本校児童の実態として「心身共にたくましいとは言えない」という結果が明らかになった。素直で明るい反面、忍耐・努力からの逃避、自信喪失・自己否定的という面が強くある。心の受容が大きく、少々のことではめげない、また意欲的に人間関係を築くことができるよう自己肯定感を高める必要がある。人や物・自然との心あたかな関わりの中から、自己肯定感を高めよりよく生きようとする力を育てていきたい。さらに、大震災や原発事故で受けた子どもたちの心配や恐怖は計り知れない。また起こるのではないかという不安の中で、事実を風化させることなく中・長期的に児童の心の発達を地域と連携しながら支援することが求められる。

このような実態を踏まえ豊かな人間性を築くために本テーマを設定し、道徳の時間を要とした道徳教育を推進していくこととした。

4 研究計画（今年度計画）

月	主 な 内 容
4	○道徳教育についての話し合い
5	○研究計画の立案
6	○組織作り
9	○高学年ブロック授業研究会 ○低学年全体授業研究会（要請訪問）
10	○高学年全体授業研究会（要請訪問）
11	○低学年ブロック授業研究 ○中学年ブロック授業研究
1	○中学年全体授業研究（要請訪問） ○現職教育のまとめ
2・3	○現職教育のまとめ

5 児童生徒の実態及び地域の課題

3テーマ設定の理由（3）の中で述べたように、児童は素直で明るい反面、忍耐・努力からの逃避、自信喪失・自己否定的という面が強くある。地域の社会スポーツも盛んで、児童は放課後サッカーやミニバスケット、バレーボールといったスポ少に所属し精神面を鍛え、多少の困難にも負けない児童が少なからずいる。しかし学校アンケートのよると保護者からは、「挨拶がしっかりできない」「覇気がない」「継続する忍耐が足りない」といった意見が多くあり、自己肯定感が持てる「自己の確立」を望む声がある。また歴史あるここ住吉地区は、地域の行事が多くあり、地域も児童に対する期待感が高い。地域を守り、歴史と伝統を継承していく児童を育成する上で学校・地域が一体となった心の教育が重要である。

6 道徳教育における校長の指導の方針（資料1「学校経営ビジョン」）

お	はよう	（あいさつ）
な	かよく	（協力）
は	きはき	（話す）
ま	じめに	（働く）

本校では、「おなはま」を合い言葉に、目指す児童像から各学年の実態にあわせた学年目標を明確にしている。目標達成には、教職員一丸となった道徳教育の充実が求められる。

第1に道徳教育推進教師を中心とした指導体制の確立である。全教師が指導に望むことは勿論、職員の意見を十分反映させた計画のもと心に響く現職教育の推進が重要になってくる。共に考え、悩み、感動を共有し学び合うという姿勢を大切にしたい。

第2は道徳諸計画の実施と改善である。道徳教育が学校教育全体で行われるよう現職教育主任を中心に道徳主任・各教科主任等組織的に働きかけ、道徳教育に関わる指導の内容および時期を整理し立案させる必要がある。また、地域や家庭からのアンケートをもとに、学校の取り組みに理解と協力が得られるよう情報を発信していきたい。

第3は積極的な生徒指導の推進である。地域的に家庭的な問題を抱えている児童が少なくない。生徒指導主事を中心に職員間の情報交換を密にし、職員全員が児童の心に寄り添えてこそ道徳教育のねらいが達成されると考える。

以上を踏まえ、今年度の研究を推進していく。

7 平成25年度 道徳教育の全体計画の特徴（資料2）

本校では道徳教育の重点目標から、各ブロックの重点目標を掲げている。従って、道徳の授業の中では、年間を通して指導要領にある4つの視点を網羅することから、どの領域においても共通のねらいで指導にあたれるようになっている。さらに4領域から重点事項をきめ、発達段階に応じた道徳性が発揮できるよう意識した指導を行っている。

また、道徳の時間の指導方針としては、児童の実態を踏まえ目指す児童の姿を明確に表し、各教科等と関連を図りながらより効果的に指導できるよう工夫している。

8 平成25年度 道徳の時間の年間指導計画の特徴（資料3）

年間指導計画をもとに、各学年に「教科領域等と道徳との関連計画表」を作成している。そのため学年の重点目標に関連する価値を含む学習内容が、網掛けになっており一目で分かるようになっている。

今後は、文科省の「読み物資料集」、県教委発行の「ふくしま道徳教育資料集」、「心のノート」等の活用を含め、授業実践の中で特に効果的な資料等（資料名）を加えていき、授業に生かせる指導計画にしていく。

9 平成25年度 学級における指導の計画の特徴（資料4）

学校における道徳教育は、豊かな心をはぐくみ、人間としての生き方の自覚を促し、道徳性を育成することをねらいとする教育活動であり、道徳の時間を要として学校教育活動全体を通して行われなくてはならない。よって、児童の実態に応じた指導が展開されることが望ましいと考え、各学級に道徳教育との関連を明確にした指導計画を作成している。各教科や特活は勿論、生徒指導や基本的生活習慣、さらには豊かな体験活動との関連を重視し各種行事や地域・家庭との連携も配慮し、各月の内容を明確にした計画となっている。

10 道徳教育推進教師等における実践レポート

（1）道徳教育の全体計画の作成に関すること

児童の実態、教師・保護者の願いから、道徳教育の重点目標を設定した。また、調和のとれた人格形成のために、4つの視点を踏まえ、低・中・高学年での重点目標を設定。さらに児童の発達段階や特性を踏まえ、最重点目標を設定した。

（2）学級における道徳指導計画の改善に関すること（資料4）

体験活動、教育環境の整備、地域・家庭との連携を、時期が分かるようにして表記した。また、学期毎の反省欄を設け、学期毎に成果と課題を明らかにできるように配慮した。

（3）道徳の時間の充実と指導体制に関すること

道徳の時間をより充実するように、児童の実態を綿密に把握してきた。児童、保護者、学

校評議員による学校アンケート，さらにTK式道徳性検査を全児童で実施し，それらの結果を踏まえた個の把握に努めてきた。

また後述するよう授業研究会を7回実施し，そのうち3回は指導主事等からの指導を受け，よりよい授業ができるよう職員の指導力向上も図ってきた。

(4) 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること

授業で活用した教材・教具やワークシート類は，各学年の授業研究部員がファイリングし，今後の指導に生かせるよう管理してきた。

また，「心のノート」の効果的な活用が図れるよう，文科省HPから心のノートの活用例をダウンロードし，職員へ配布するなどその活用方法を周知した。折りに触れ児童の普段の生活の反省などを心のノートに記録させ，それを道徳授業の中で普段の生活の見直しや価値の意識付けに用いるなど，少しずつ活用が図られている。

さらに，ふくしま道徳教育資料集第Ⅰ集「生きぬく・いのち」を活用した授業も行ってきた。地域素材を生かした効果的な活用について，今後も検討していく。

(5) 道徳教育の情報提供や情報交換に関すること

県内外の各種研究会へ積極的に参加し，先進校の研究実践に触れるとともに，参加後は職員による伝達講習会を開き，全職員で共有できるようにしてきた。

また1月29日には，上越教育大学の早川裕隆先生をお招きし，道徳学習における講演会を開催した。

(6) 家庭や地域社会との連携に関すること

家庭へは，学校だよりや学年だより等で道徳学習の取り組みについて知らせてきた。その結果，道徳学習への保護者の意識も高まってきている。家族へアンケートや手紙などを依頼し，それを道徳の授業で効果的に活用するなど学校と家庭が一体となって指導している。

同じ小名浜地区にあるアクアマリンふくしまの職員をゲストティーチャーとしてお招きし，復興や命の大切さを題材にした取り組みも行ってきた。

(7) 道徳教育の研修の充実に関すること

現職教育では，道徳教育推進教師を中心とした推進委員会を軸に3つの部会が組織的に活動してきた。

- ① 授業研究部では，まず第一に研究テーマに沿った指導案の形式検討，資料の蓄積，授業研究会の運営等を行ってきた。また全員が参加できる研究協議の持ち方や全学級で使用する教具の検討なども行い改善してきた。

《付箋紙の利用》

研究授業の事後研究会では，活発な意見交換ができるよう付箋紙を利用した協議を行ってきた。付箋紙は授業参観時に記入（赤付箋紙…話したいこと，青付箋紙…参考にしたいこと）し，授業研究部で回収・印刷・配布を行っている。



【段階毎に貼り付けられた付箋紙】

- ② 調査・地域連携部では、児童の道徳学習に対する意識調査とTK式道徳性検査を検討・実施した。道徳性の調査は、自作アンケートという方法もあるが、科学的にできるだけ正確に調べたいということから、市販のTK式を使用した。同時に保護者へも自分の子どもにどのような価値が足りないか、身につけさせたいか、というアンケートも実施した。来年度も同じような調査をして、研究実践の成果を検証したい。

【意識調査の実施】

- ③ 体験活動・環境部では、まず、研究テーマにある「あたたかな関わり」という視点から、異学年が交流できるよう「たてわり活動（くすのき36）」を学校教育全体の中で計画してきた。本校では、清掃を限られた学年での縦割りで行っているが、それとは別に全校生514名を36班に編成し、どの班にも1～6年生が入るようにした。月1回のくすのきタイムには、遊びの機会を設け、その中で「感謝・協力・思いやり」の心を育てることを目指し自主的な活動を行ってきた。

《ホワイトボードの活用》

各グループの班長は、次の活動場所・内容・準備物等をホワイトボードに書き込み、各グループのメンバーに伝えている。活動場所が他のグループと重なった時には、くじ引きで活動するグループを調整する。



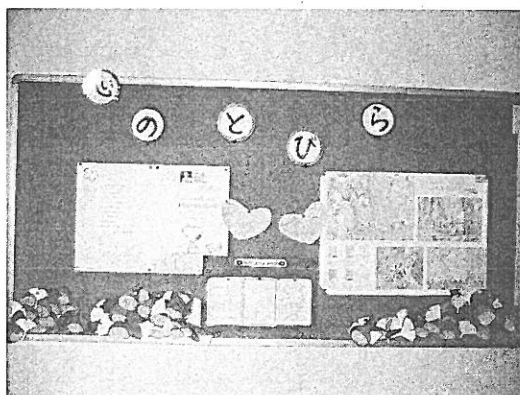
【ホワイトボードを見る児童】

《くすのき36 主な活動例》

分類	内容
遊び	・自分たちで考えた遊びを行う。 活動場所は校庭，体育館，教室，特別教室等。
運動	・体育部が主催する業間運動の中に，縦割り班での運動を取り入れる。
児童会	・卒業前の6年生へ，感謝の会「6年生ありがとう集会」を縦割り班ごとに行う。それぞれの班で計画する。

《道徳的環境づくり 心のとびら》

「心のとびら」と題した掲示版に、道徳的心情を高める絵や写真、作品、言葉などを掲示してきた。掲示者は月ごとに各学年の教師に割り振り、学年の創意工夫に任せている。



【掲示版 心のとびら】

(8) 道徳教育における評価に関すること

評価に関しては、道徳という特質上、ある長い時間での児童の変容を見取る場合と、短い時間（例えば1単位時間など）での児童の変容を見取る場合が考えられる。後者の場合では、指導前と後の変容が分かるようワークシートを工夫したり、事前に関係する児童の行動や考えの記録を授業に生かしたりするなどの実践をしてきた。今後も、効果的な方法を実践の中で模索していく。

1.1 道徳の時間にかかる資料（指導実践例 資料5）

今年度は1年次研究ということで、前半は道徳に関する理論研究、後半はその実践として授業研究会を7回行った。実施に関する内容は以下の通りである。その内、3回は要請訪問とし、教育事務所、市教委及び市道徳部理事等の先生方をお招きし、ご指導を頂いた。

実施月日	年組	形態	研究の視点
6月12日(木)	5-2	提案授業	※ふくしま道徳教育資料集第I集「生きぬく・いのち」の活用、外部講師の活用
9月13日(金)	5-3	ブロック	・家族とのかかわりを考えさせる活動 ・家族に対しての関心の有無に気づかせるビンゴ形式のワークシートの利用
9月27日(金) ※要請訪問	2-3	全体	・日常生活を写真で振り返り、礼儀に対する意識を高めさせる。 ・ワークシート、セリフの動作化の活用
10月18日(金) ※要請訪問	6-2	全体	・話し合いの仕方の工夫（立場によるグループ） ・保護者からの手紙の活用
11月 7日(木)	1-1	ブロック	・みんなで使う物を意識させる写真の活用 ・動作化や場面絵、ワークシートの活用
12月 6日(金)	4-1	ブロック	・資料提示の工夫 ・役割演技を取り入れた学習計画
1月31日(金) ※要請訪問	3-2	全体	・資料提示の工夫 ・道徳的实践力を高める役割演技

1.2 平成26年度 道徳教育の全体計画の特徴（資料6）

道徳ファイルの活用についての項目を追加した。道徳ファイルは、入学から卒業時までの道徳の時間におけるワークシートや資料などを累積し、適宜振り返ることで自分自身の成長に気づかせ、現職教育のテーマに近づけたい。

1.3 平成26年度 道徳の時間の年間指導計画の特徴（資料7）

本校では、年間指導計画として「教科領域等と道徳との関連計画」（別様）を用いている。各教科や行事等の知識や体験を生かし、要である道徳の時間に効果的な指導ができるよう関連を明らかにしている。また、道徳教育が、学校教育全体の中で指導できるよう計画的に進められるよう配慮した。

1.4 成果と課題（成果○ 課題●）

（1）魅力的で多様な授業の展開について

- 年間7回の授業研究会を通し、様々な実践について話し合い研究を深めることができた。主な実践としては、価値内容を方向付ける導入における写真や事前アンケートの利用や再現構成法を用いた資料提示の工夫、自己を見つめ価値の自覚を促すワークシートの活用、動作化や役割演技（ロールプレイング）による効果的な表現など、研究主題に迫るべく実践を積み重ねることができた。
- 全体授業の3回をすべて要請訪問とし、教育事務所及び市教委の先生方、さらには市小教研道德部の先生方から、授業に関わる指導について適切な助言を頂くと共に現在の道德教育の動向等のお話も頂戴し、実のある協議会を開くことができたことに、職員一同感謝を申し上げたい。

● 今年度の授業実践の中で、

①資料分析の仕方

主人公に起こる問題分析、価値葛藤場面分析を通し、主発問をどう展開するか。

②話し合い活動の充実

グループによる協議の仕方。動作化等を用いた話し合いの仕方。

③効果的なワークシートの活用法

評価につながる記述の仕方。変容の分かる記述の仕方等。

④動作化と役割演技の違いを意識した指導。

等が協議の中で課題となった。2年次の来年度は、これらのことを踏まえた授業の実践をさらに積み重ね、検証していきたい。

（2）あたたかなかわりをつくる体験活動の工夫について

- 「くすのき36」の活動については、今年度後半から開始したにもかかわらず、その活動を楽しみにしている児童が多く、テーマである「感謝・協力・思いやり」の心が活動の中に多く見られ、学校全体としてよりよい集団づくりへ変わっている様子が実感できた。学級、学年の枠を超えた活動の中には、低学年を思いやる中・高学年、高学年へ感謝する低・中学年の姿があり、今後も活動の場を増やしていきたい。



【「くすのき36」の様子】

- 本校では「あいさつ隊」児童が登校時に立ち、気持ちのよい一日がスタートできるよう全校児童へ「おはようございます」のあいさつを行っている。児童のみならず職員も進んであいさつするよう力を入れてきた。しかし、地域のアンケートからは、児童のあいさつについてはあまりよい評価を得られていない現状にある。今後は、更に道德授業との関連を図り、礼儀正しくあたたかな集団づくりができるよう取り組んでいきたい。
- 学校行事・児童会等との関連を図り、児童の体験が道德の時間に「補充・深化・統合」できるよう授業の実践を深めたい。

（3）家庭や地域社会との連携について

- 家庭への配慮が必要な児童も多くいる中、学校での取り組みを学年便り等で伝え、親からの手紙を利用した学習の実践を行ってきた。親からの手紙は、4の内容「家族愛」の価値を考えさせるのに有効であったが、その取扱によっては2の内容「感謝」へ価値内容が流れるので指導には注意が必要である。

- アクアマリンふくしまの職員を招いて、ふくしま道德教育資料集第Ⅰ集「生きぬく・いのち」を用いた授業を行った。本校と同じ地区にあるアクアマリンふくしまは、児童にとっては学校行事等で見学している身近な水族館であり、関心も高い。授業前日には綿密な打合せを行い、当日は授業のねらいに沿うような講話を頂くようお願いした。職員の方の話はとても説得力があり、児童の心に響くものであった。資料からは分からない部分も補うことができ、まさに「生きた素材」である。博物館や水族館の魅力は、本物を見ることができることであり、このような施設との連携を今後も続けていきたい。
- 本校研究の取り組みを積極的に開示し、更に家庭や地域との連携を高める必要がある。学校便りや学年便り等で、家庭へは道德学習に関する理解と協力の依頼を引き続き行うのは勿論、本校の取り組みをホームページなどで積極的に公開し、家庭のみならず地域人材の活用など連携を図った研究を進めていきたい。

平成25年度

学校経営ビジョン

いわき市立小名浜第三小学校

(実態)

校是 **鉄心** (固くて光り輝かねのような立派な心)
 くすのきより高く
 館山のように大きく
 玉川のように清く

児童 明るく活発 個人差が見られる
 保護者 協力的 会社員多く、核家族化進む
 地域 多様な地理的環境と豊富な歴史的環境

教育目標

よく考える子

話をよく聞き
 進んで考える子の育成

思いやりのある子

相手の気持ちを考えた
 言動ができる子の育成

心身共にたくましい子

規律正しく生活し
 進んで運動する子の育成

「おなはま」のスローガンをもとに よく聞き進んで考える子の育成を重点に

おはようのあいさつ
 なかよく協力
 はきはき話す
 まじめに働く

実践事項

○がんばれいわきっ子の1234の実践

- ・目を見て聞こう
- ・すらすら読もう
- ・書いて考えよう
- ・つなげて話そう

授業改善
 の合い言葉

※言語活動に通じる「聞く」「話す」「書く」「考える」能力の育成

○家庭学習の習慣化

- ・家庭学習の手引きの活用
- ・家庭学習振り返り月間の実施

○読書活動の推進

- ・図書館を利用した学習の推進
- ・読書タイムの効果的推進

[評価の指標]

- 次の児童の自己評価 0.5⁺ イントUP
- 「授業が分かりやすい」
- 「学習したことが身に付いている」
- 「話をよく聞き、考えるようにしている」
- 「図書館を学習のために利用している」
- 標準学力テストの偏差値0.5⁺ イントUP

○「思いやりの心」の育成

- ・道徳教育を中心とした計画的指導
- ・縦割り活動の積極的推進
- ・道徳の時間の指導法の工夫
- ・特別支援学級児童との交流推進

○集団の一員としてのスキルアップ

- ・あいさつの継続指導
- ・場に応じた言葉遣いの指導
- ・規範意識の醸成

○積極的な生徒指導の推進

- ・互いの良さを認め合える取り組み
- ・困りごと調査の実施活用

[評価の指標]

- 次の児童の自己評価 0.5⁺ イントUP
- 「思いやりをもち、助け合って行動している」
- 「進んであいさつしたり言葉遣いに気をつけている」
- 「学校は楽しい」
- 不登校・保健室登校新たな出現「0」
- いじめ件数「0」

○基本的な生活習慣の育成

- ・生活リズムの指導と振り返り調査の実施
- ・朝食の摂取の習慣化を指導
- ・TV、ゲーム等の接触時間の短縮化の指導

○主体的に運動させる工夫

- ・体育・健康カードの利用
- ・体育関連行事の効果的な運営
- ・年間計画に基づく業間運動の実施

○安全に行動できる能力等の育成

- ・危険予知、危険回避能力の伸長

[評価の指標]

- 次の児童の自己評価 0.5⁺ イントUP
- 「心も身体もじょうぶである」
- 「約束やきまりを守って生活している」
- 朝食摂取率 100%
- 保健室来室児童数 5%減
- 欠席児童数 5%減

学年目標

1年	相手の目を見て、話を聞こう。	大きな声であいさつしよう。	自分のことは自分でしよう。
2年	話をよく聞き、はっきり話そう。	相手を見てあいさつしよう。	がまん強くやりぬこう。
3年	話をよく聞き、進んで発表しよう。	場に応じたあいさつしよう。	何事も最後までやりぬこう。
4年	自分の考えをもち、進んで学習しよう。	場に応じた言葉づかいをしよう。	自分のめあてをもってやりぬこう。
5年	めあてをもって、自主的に学習しよう。	相手の気持ちを考えた言葉づかいをしよう。	目標に向かって取り組もう。
6年	計画を立てて積極的に学習しよう。	相手の気持ちを考えて行動しよう。	目標に向かい主体的に取り組もう。

平成25年度 道德教育の学校における全体計画

小名浜第三小学校



(3) 算式

-132-

3 平成25年度 学級における道徳教育指導計画

第3学年組 担任

めざす児童像 ・思いやりの気持ちをもち、温かい言葉をかけたり、行動したりできる児童 ・自分にできることを見つけ、協力し合い進んで働くことができる児童	児童の実態 ・明るく元気いっぱいな子が多いが、自分を表現することが苦手な子も数名いる。 ・自分の思いを通そうとする気持ちが強く、周囲の友達の気持ちに気付けない部分がある。 ・複雑な生育歴・家庭環境を持つ子や病弱な子が数名いる
道徳の時間における具体的指導方針 ・自分の特徴に気づき、よいところを伸ばそうという気持ちを育てる。 ・友達と互いに信頼し助け合う大切さに気付かせる。 ・昨日より今日、今日より明日とよりよく生きようとする気持ちを育てる。	生徒指導における道徳教育の視点 ・一人一人の生育歴や家庭環境・友達関係をよく理解する。 ・児童に寄り添い共感的に理解する。 ・集団の一員として自己存在感を持たせる。
各教科及び特別活動・総合における道徳教育 ・自分の考えを書いたり発表したりする力を育てる。 ・集団の一員として行事や集会活動などに進んで参加する心を養う。 ・いろいろな友達と互いに信頼し、助け合う経験を積ませる。	基本的生活習慣に関する指導計画 ・挨拶、返事、正しい言葉遣いができるようにする。 ・よく考えて行動し、節度のある生活を心がけさせる。 ・礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心を持って接することができるようにする。

	豊かな体験活動		教育環境の整備	地域・家庭との連携
	日常生活	特別活動・総合		
4	・気持ちのよい挨拶をする。 ・当番や係活動に楽しく取り組む。 ・1分間スピーチ	始業式 校外子ども会 1年生を迎える会	1学期のめあて 学級のめあて 係コーナー	授業参観 学年便り
5		遠足 玉川地区について知ろう	道徳コーナー	運動会 家庭訪問
6		運動会 避難訓練 絵手紙講座 栽培活動 チョウを育てよう		
7		食育講座 クリーン活動 授業参観		クリーン活動
7		七夕集会 校外子ども会 防犯教室 愛校清掃	七夕の願いごと掲示 机・ロッカーの整理	
反省				
8	・自分から進んで挨拶する。 ・みんなで遊ぶ ・協力し合って活動する。 ・ほめ言葉のシャワー	始業式 くすのき祭準備	夏休み作品展 2学期のめあて	
9		避難訓練 くすのき祭 校内絵を描く会 交通教室	絵を描く会作品展示	
10		鑑賞教室 学習発表会 クリーン活動 見学学習	図書コーナー	学習発表会
11		持久走記録会	持久走がんばりコーナー	学校へ行こう週間 個別懇談
12		校外子ども会 授業参観 愛校作業 終業式	机・ロッカーの整理	
反省				
1	・会釈など、場に応じた挨拶をする。 ・礼儀正しい行動をする。 ・進んで活動する。 ・ほめ言葉のシャワー	始業式 書き初め会 避難訓練	書き初め作品展示 3学期のめあて	
2		豆まき会 なわとび記録会 校外子ども会	心の中の鬼掲示	
3		授業参観 6年生を送る会 修了式	教室内の整理整頓	授業参観
反省				

第3学年2組 道徳指導案

資料5

平成26年1月31日(金) 5校時

場所：自教室 指導者：

研究主題

あたたかなかかわりを通して、自他を認め合い、
豊かな成長が実感できる児童の育成

1 主題名 みんな友だち【信頼・友情2-(3)】

資料名 卓球は四人まで(文部科学省 小学校道徳 読み物資料集)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

学習指導要領では低学年では、身近にいる友達と仲良く活動し、助け合うという、基本的な精神を育むことを大切にしている。中学年では、気の合う友達同士だけでなく、健康的な仲間集団を積極的に育成していくことが大切であり、友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことを中心として指導する必要があるとしている。人間関係が広がり、友だちとの関わりを重視するようになる中学年のこの時期は、仲のよい友だちだけでグループをつくって遊ぶことが多く見られることから、固定化しやすい仲間集団をより広い友だち関係へと向ける必要がある。

(2) 児童の実態について

学級編制替えをして10ヶ月が経った。身体面・学力面・家庭環境面で配慮すべき児童が多く、誰もが安心して楽しい学級生活が送れるよう願って実施してきた「ほめ言葉のシャワー」や「仲良しボックス」を通し、友達の欠点よりもよいところに目を向け、それを素直に表現できる児童も増えてきている。大きなトラブルやけんかもなく、一見すると仲良く生活しているように感じる。しかし一方で、仲良しの友達とそうでない友だちを区別する傾向も見え始めてきている。一緒に遊びたいと言ってきた友だちを簡単に断ったり、断られるのがいやだから仲間に入りたけれど言い出せないという姿も見受けられる。友だちは大切だと思っているが、自分の利害が関わってくると、自分本位の気持ちが前面に出てしまい、友だちの気持ちに配慮することをおろそかにしてしまうことがある。

(3) 資料について

本資料は、気の合う仲間同士で仲良しになる傾向がある中学年の児童が、クラスの仲間を傷つけてしまったことを反省し、新たな友だち関係を築こうとする内容である。遊びの人数は重要であり、遊びの条件や内容によっては、みんなで一緒に遊ぶということは難しい場合もあるという資料の場面設定は、児童にとってとても身近で、日常起こりうる出来事である。主人公の立場や状況を理解した上で、遊びを断られた友だちの気持ちにも素直に思いをはせることができ、よりよい友だち関係を築いていくために大切なことは何か考えられる資料である。

3 道徳の授業を充実させるための指導の工夫 (研究仮説とのかかわり)

・手立て① 魅力的で多様な授業の展開

資料の終末部分を提示しないことで、この後どうしたらよいか、自分とのかかわりで考えられるようにする。

・手だて② あたたかなかかわりをつくる体験活動の充実

どんな気持ちをどのような言葉で伝えるのか、役割演技を用いることで、お互いに交流しながら考えを深められるようにし、道徳的実践力の育成をめざす。

4 他の教科指導との関連

〈学校行事・特別活動等〉 ○学級の係を決めよう ○遠足 ○運動会	〈各教科〉 ○国語「しつもんしたり、かんそうを言ったりしよう」 ○理科「チョウを育てよう」
6月 主題名 協力の大切さ [信頼・友情2-(3)] 資料名 仕事チェンジ ねらい 係活動を通し、友だちのことを理解して尊重し合う心情を育てる。 主題名 資料名 係活動ダイヤモンド [信頼・友情2-(3)] ねらい 協力して物事を成し遂げるすばらしさに気づき、お互いを理解して尊重し合う心情を高める。	
○お楽しみ会の計画を立てよう ○お楽しみ会をしよう ○係を決めよう	○体育「ネット型ゲーム」
8月 主題名 ほんとうの友だち 資料名 泣いた赤おに [信頼・友情2-(3)] ねらい 友だちと互いに理解し合い、信頼し助け合う心情を育てる。	
○くすのき祭り ○気持のよい言葉づかい ○見学学習 ○係を決めよう ○学習発表会	○国語「話し合って決めよう」 ○体育「ベースボール型ゲーム」「ゴール型ゲーム」 ○理科「太陽とかげの動きを調べよう」「太陽の光を調べよう」「風やゴムで動かそう」 ○音楽「めざせ、楽器名人」 ○算数「長いものの長さの測り方」
1月 主題名 みんな友だち [信頼・友情2-(3)] 資料名 卓球は4人まで ねらい 誰とでも仲良くすることが楽しさにつながることに気づき、友だちを大切にしようとする心情を育てる。	
○スポーツ集会をしよう ○さよなら会の計画を立てよう ○さよなら会をしよう	○体育「ゴール型ゲーム」 ○音楽「みんなの音楽パーティー」

5 本時のねらい

誰とでも仲良くすることが楽しさにつながることに気づき、友だちを大切にしようとする心情を育てる。

6 指導過程

段階 時間	学習内容 ○発問 ○中心発問 ・予想される児童の反応	○指導上の留意点 ◆評価
気づく (3分)	1 友だちがいてよかったと思うのはどんな時か確認し合う。	○ 友だちがいて良かったと思うことを、心のノート(P44)を使って確認し、友情についての価値の方向付けを図る。
考える (27分)	2 資料「卓球は4人まで」を読んで話し合う。 ○ 仲のよい友だち3人を誘ったときのしゅんはどんな気持ちだったでしょうか。 ・今日は楽しいぞ。 ・早くやりたい。 ○ しゅんは、どうしてとおるの願いを断ったのでしょうか。 ・とおるは仲良しではない。 ・4人で都合がいいから1人増えるのは困るよ。 ・4人までなんだからしょうがない。 ○ しゅんが謝ったのにおるが帰ってしまったのはどんな気持ちからでしょう。 ・さっきは断ったくせに。 ・どうせぼくは仲良しじゃない。 ○ 予定通り4人で卓球ができたのに、あまり楽しくなかったのはなぜでしょう。 ・とおるを傷つけてしまったから。 ・仲間に入れてあげなかったから。 ・誰か一人でも悲しい思いをしている人がいると自分も楽しくなくなるんだ。 ○ このあと、4人はどうすればいいと思いますか。 ・あやまる。 ・心をこめて謝る。 ・断ってしまったわけをとおるにわかってもらえるようにていねいに言う。 ・5人で遊べるよう遊び方を工夫し、提案する。	○[手立て1]終末部分を削除した資料を、補足説明を加えながら教師が読み聞かせをする。(～P46まで) ○ 4人が仲良しであったこと、とおるは特別仲がよかったわけではないことをおさえ、5人の関係を明確にする。 ○ しゅんが断った理由を考えることを通して、今回の遊びの人数の都合や、誰にも気の合う者同士で仲良しになる傾向があることに気付かせる。 ○ 深く傷つき、謝ってもらったのに、すぐには素直になれないとおるの気持ちをおさえる。 ○ 表情を表した顔マークを用いることで、登場人物の心情をより理解しやすくする。 ○ 楽しくなかったわけを一人ひとりがしっかりと考えられるように、まずワークシートに記入させる。発表を通して、楽しくなるためには誰とでも仲よくすることが大切であることに気付かせる。 ◆ 友だちを思いやり、誰とでも仲良くなると互いに楽しくなることに気付いたか。(ワークシート・発表) ○[手立て2]卓球をした4人ととおるになり、役割演技をする。どんな気持ちをどのような言葉で伝えるのかを具体的に話すように促し、多様な感じ方や考え方に接することができるようにする。
深める (10分)	3 これまでの自分自身を振り返り、友だちと楽しく生活していくために大切なことを考える。 ・仲良しの友達だけでなく、誰とでも仲よくするようにする。 ・みんなで遊べるよう、遊び方を工夫する。 ・断るときには理由をていねいに言う。 ・友達の失敗を許せるような広い心を持つ。	○ 友だちとの関係がうまくいかなかった経験を振り返って、友だちと楽しく生活していくために大切なことを考えさせる。 ○ 自分の経験を振り返りやすくするために、事前に行った友達とうまくいかなかった出来事について一人一人が記入したワークシートを活用する。 ◆ 友だちを大切にしようという気持ちが高まったか。(ワークシート)
温める (5分)	4 教師の話を聞く。	○ 誰とでも仲良くすることが楽しさにつながることを伝える。



平成26年度 1年「教科領域等と道徳との関連計画表」

[illegible]

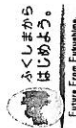
【資料】

- 「ふくしま道徳教育推進プラン」
- 道徳教育推進校の役割について
- 道徳教育実施状況調査結果



【県の課題】

○東日本大震災の被災経験から「家族」の在り方、「敬愛」の意義、深い「人間愛」を考えることができる道徳教育を推進し、児童生徒の心の発達に寄与する事業が求められている。
○道徳の時間を公開し、学校と家庭・地域が一体となって道徳教育を推進することは、児童生徒の道徳的実践力を養うばかりでなく、県民一丸となって取り組む育てる「生きる力」を身に付ける機会とする。



「深まる！敬愛」道徳教育推進計画

福島県道徳教育推進メンバーによる学校・地域支援事業。教職員を対象に道徳にまつわる授業エピソードと大震災を乗り越えた県民を対象としたモラルエッセイを募集したり、教材開発をしたりと、「敬愛」をテーマに、広く道徳教育を推進していきます。

道徳教育「ゲストティーチャー」派遣計画

- 「道徳の時間」にゲストティーチャーを派遣します！
- ケース1 外灘とともじ敬愛について考える授業
- ケース2 哲学者とともに「人間愛」について考える授業
- ケース3 被害者遺族等の講演講師とともに「家族」の在り方を考える授業
- 職員室「校内研修」にゲストティーチャーを派遣します！
- ケース1 道徳の時間の「多様な指導方法」についての研修
- ケース2 道徳の時間の「教材作成」に関する研修
- ケース3 「キャリア教育」と道徳教育に関する研修

学校

「ふくしま道徳教育読み物資料集」教材作成委員会

- 教材作成委員会（年4回）を開催
- 作成委員 大学教員③ 各教育事務所指導主事⑦ 小・中・高等学校⑩
- 小・中・高等学校の道徳教育に関する読み物資料及び教材を開発する。
- 「家族」「敬愛」「人間愛」を考える資料を作成する。
- エッセイコンテストの優秀作品を添付し、メッセージの活用推進を図る。

地域

今伝えたいメッセージ「モラル・エッセイ」コンテスト 子どもたちに残したいエピソード大募集！

県民参加型の道徳教育を推進するために、モラルやマナー、いのちや家族、人との絆など、心温まるちょっぴり話を大募集！コンテスト入賞作品は、県内の各学校で道徳の時間に紹介されます。

- 年1回 優秀作品は、「ふくしま道徳教育読み物資料集」に掲載予定。

生命の尊重

「いのち」について考える
(1年次)

誠意

「敬愛」について考える
(2年次)

郷土を愛する心

「絆」について考える
(3年次)

児童 生徒

福島県道徳教育地区別推進協議会

学習指導要領の趣旨並びに児童生徒、学校、家庭及び地域等の実態を踏まえ、創意工夫を生かした道徳教育を推進するための実践研究を行い、その成果を普及する。

- 参加対象
 - 各地区の小・中高等学校の道徳教育推進教師等
 - 保護者、地域住民、関係機関・関係団体等
- 各地区年1回開催（各教育事務所の計画による）
- 内容
 - ①「道徳の時間」の授業研究会、道徳教育推進協議会メンバー等による道徳授業や保護者等を対象とした道徳の授業実践
 - ②道徳教育指導者養成研修（中央・ブロック別研修）受講者・学識経験者等による講義・演習・協議等
 - ③推進校及び先進校等の実践報告
 - ④「ふくしま子ども憲章」と連携した道徳の時間の調査研究



『ふくしま子ども憲章』
(小学6年生対象)

福島県道徳教育推進協議会

県内における道徳教育を推進し、その充実を図るため、本事業の実施を含め本県の道徳教育を推進するために必要な指導・助言を行う。

- 年2回開催（5月・2月予定）
- 構成員 学識経験者（大学教員等）、道徳教育推進協議会委員、学校関係者（小・中・高校道徳部長、高等学校代表）県教委・教育事務所・教育センター、担当指導主事

推進校による実践研究

推進校は、学校、児童生徒等の実態を踏まえ道徳教育に関する課題を設定し、実践研究を推進する。

《推進校の研究内容》

- 研究テーマの設定
- 校長の指導の方針の明確化
- 全体計画・年間指導計画の提出
- 道徳教育推進教師の実践報告
- 道徳の時間の授業公開
- 1年間の成果の報告と普及への協力
- 地区別推進協議会等での実践発表
- 1年間の研究推進校
- 県内6地区に1校ずつの推進校
- 推進校による実践研究、地区別推進協議会の事例等の中から、優れた取り組みや有効な教材（資料）等をもとに、道徳教育実践事例集を作成し、県内に普及する。



教員の実践指導力の向上 家庭・地域の協力・参画

和で奏でる！望ましい道徳性の育成

文部科学省の道徳教育指定校制度が廃止されたことを受け、福島県では、平成24年度から地域に根ざした道徳教育推進校を設定することにいたしました。推進校は次のような活動を行います。

- 1 推進校は、学校、児童生徒等の実態を踏まえ道徳教育に関する課題を設定し、実践研究を推進する。
- 2 推進校は、ゲストティーチャー（教室G.T.）を活用して、児童生徒に魅力的な「道徳の時間」を提供する。
- 3 推進校は、ゲストティーチャー（職員室G.T.）とともに、校内研修会を開催し職員研修の機会を確保する。
- 4 推進校は、域内の各学校へ道徳教育を公開し、推進校として道徳教育に関する情報を発信する。
- 5 推進校は、自校の取組を依頼された様式に従って義務教育課へ報告する。

実践研究内容

- 研究テーマの設定・・・・・・・・・・学校における今年度の重点を核として1年間のテーマを設定。
- 校長の指導の方針の明確化・・・・・・・・年度当初に「指導の方針」を周知したときの資料を提出。
- 全体計画・年間指導計画の提出・・・・・・・・年度初めと教育課程の編成後に改訂したものをセットで提出。
- 道徳教育推進教師の実践報告・・・・・・・・年間を通じて道徳教育推進教師として取り組んだ事例を報告。
- 道徳の時間の授業公開・・・・・・・・保護者や地域への公開授業を開催。
- 地区別推進協議会等での実践発表・・・・・・・・地区別推進協議会で中間報告。
- 1年間の成果の報告と普及への協力・・道徳教育実践資料集への実践報告の提供と掲載の許諾。

- 1年間の研究推進校です。研究推進校は小・中・高等学校の8校です。
- 推進校の実践研究を冊子にまとめ、県内全小・中・県立学校に配付します。
- 県道徳教育推進協議会に出席（年2回）し、他地区の推進校と情報交換しながら研究を進めます。

さらに、県教育委員会が魅力的なゲストチャーチャーを派遣します。
推進校の希望に基づき、講師派遣申請及び経費事務手続きは各教育事務所が行います。

ゲストティーチャーを派遣します

授業づくりを支援します！

① 教室（道徳の時間）にゲストティーチャーを派遣する。

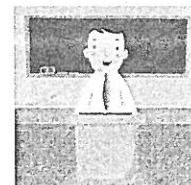
○県教育委員会が各小・中学校の「道徳の時間」及び高等学校の「ホームルーム活動の時間」に魅力的な人材を派遣して、一緒に道徳の授業を行う。授業の実施過程において、道徳教育推進教師としての役割や道徳教育についてのあり方や高等学校における道徳教育の方策等を実践レベルで提案することを目的とする。

- ケース1 詩人の読み聞かせをとおして学ぶ授業
- ケース2 海洋研究者（水族館）とともに学ぶ授業
- ケース3 獣医師とともに学ぶ授業
- ケース4 大学の先生とともに学ぶ授業

② 職員室（校内研修）にゲストティーチャーを派遣する。

○県教育委員会が道徳教育に係る教員研修を希望する学校の職員室へ講師を派遣する。全職員で道徳教育を推進するために、学識経験者や道徳教育実践者を交えて、校内研修の充実を図る。

- ケース1 授業研究会の講師として学識経験者を派遣
- ケース2 道徳にかかわる講演会に講師を派遣
- ケース3 学校のニーズに合わせて講師を派遣



道徳教育実施状況調査結果

平成25年12月25日現在

※ 学校数 小学校（465校）中学校（228校） 小・中学校（693校）

1 ふくしま道徳教育資料集第Ⅰ集「生きぬく・いのち」の活用状況について

(1) 活用の有無について (%)

活用状況	小学校	中学校	全 体
・ 全学年で活用した。	10.3	11.0	10.5
・ 一部の学年で活用した。	53.3	36.0	47.6
・ これから活用する予定である。	36.3	52.6	41.7
・ 活用する予定はない。	0	0.4	0.1

(2) 活用場面について(複数可) (%)

活用場面	小学校	中学校	全 体
・ 道徳の時間に活用した。	79.1	84.2	80.8
・ 道徳の時間以外の学校教育活動で活用した。	14.4	9.2	12.7
・ 家庭で活用した。	0.6	0.9	0.7
・ その他（研修会、中教研、震災の日など）	10.5	9.6	10.2

2 道徳の授業参観（公開授業・保護者向け授業参観）について (%)

授業参観の実施状況	小学校	中学校	全 体
・ 実施した。（1学級のみの実施も含む）	88.2	70.2	82.3
・ 今年度中に実施する予定である。	10.5	14.0	11.7
・ 実施する予定はない。	1.1	12.3	4.8
・ その他（中教研、幼小中連携事業、研究授業等）	0.2	3.5	1.3

3 道徳教育全体計画の「別葉」について (%)

「別葉」の作成状況	小学校	中学数	全 体
・ 作成している。	49.2	45.6	48.1
・ 今年度中に作成する予定である。	38.9	34.6	37.5
・ 作成する予定はない。	3.4	5.7	4.2
・ その他（「あいづっこ宣言」に関連させる等）	8.4	14.0	10.2

平成26年3月11日 印刷
平成26年3月25日 発行

福島県教育委員会
